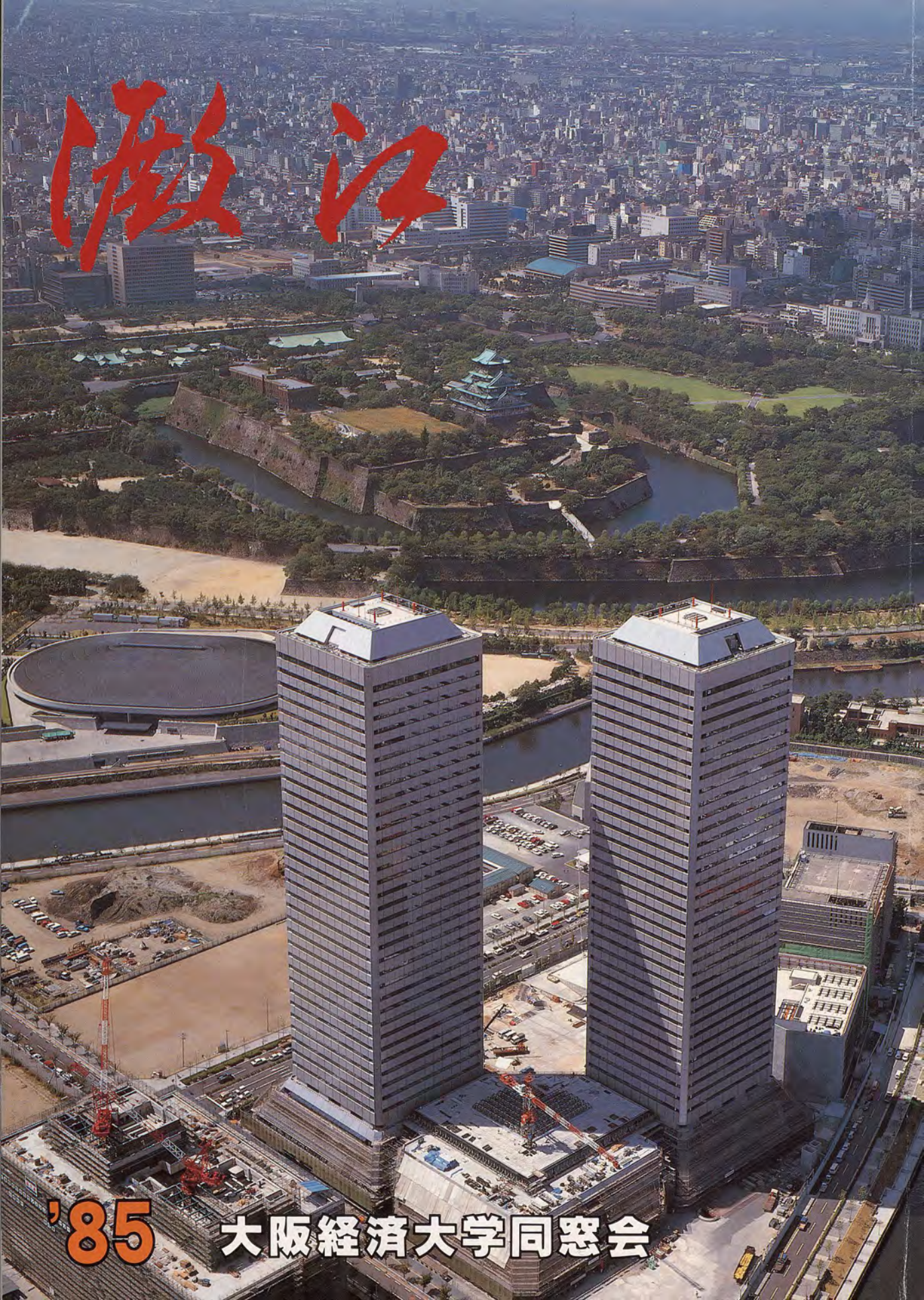


大江



'85

大阪経済大学同窓会





鈴木学長の穿初(うがちぞめ)



磯野会長の玉串奉典

# 50周年記念館と教学の充実



記念講演会 59年10月

## 総会で逢いましょう!!

仲間をさそって、もり上げよう'85総会

昭和60年11月3日(日)祝日

11:00 60年度同窓会総会

12:30 懇親パーティ

とき

レストランパレス  
ラ・クール(新阪急ビル12F)

ところ

参加費 ¥5,000



●税理研究会OB会・ハンドボール部OB会の総会がパーティ後に同所で開かれます。

### 特集

〔特集1〕トップ座談会……………5

50周年記念館とその活用……………12

〔特集2〕インタビュー……………16

進む教学の充実と条件整備……………16

〔特集3〕特別寄稿……………16

情報処理教育の構想と電算機設備……………16

同窓会本部だより……………20

昭和60年度理事会盛会裡に終了……………20

学園の近況……………44

●学園の近況……………44  
60年度入試結果、61年度推薦入学・就職関係、訃報、国庫助成、新刊紹介、本学で開催された学術講演会・学会公開講座、その他の催し、年史編さん用資料提供についてのお願い……………44

●キャンパスだより……………68

●キャンパスだより……………68  
合気道部・バスケットボール部・自転車部・競技スキー部・準硬式野球部・ワンダーフォーゲル部・吹奏楽総部、淀都五大学総合定期戦、その他の体育クラブ活動状況 明日への挑戦 II サッカー部 山本 保二……………68

●北から南から……………88

●北から南から……………88  
全国の同窓生の近況、希望、母校50周年の所感、追悼人材を育くむ場としての記念館に……………88

同窓会支部役員……………95

学長 鈴木 亨……………73

同窓生クラブOB会……………58

事務局だより……………26

セミ短信……………26





新調された同窓会旗



解体前のB館(旧本館)



50周年記念館完成予想図



B館(旧本館)から記念館へ



噴水も名残り惜しく解体工事始まる  
(上・上左) 60年3月  
解体工事も終り広場のように見えるB館跡  
60年4月(左)



基礎埋戻し工事 (60年7月)  
鉄骨が組みまれ(下) 60年7月、  
着々と進む建設工事(左) 60年10月



# トップ座談会

# 50周年記念館と その活用

今年度の『澱江』は、全同窓生の一大関心事である  
「50周年記念館」にスポットをあて、左記の特集を組みました。

- ▼トップ座談会へ50周年記念館とその活用
- ▼インタビュー(教務部長)へ進む教学の充実と条件整備
- ▼特別寄稿(情報処理教育の構想と電算機設備)

以上、グラビア・ページとあわせて、母校の創立50周年記念事業のイメージ作りにお役立てください。

出席者

大学側

鈴木 亨

(学長・理事長代理)

大槻 弘

(記念館担当理事)

渡辺 達好

(理事)

八木田 恭輔

(教養部長)

岡本 昌夫

(学生部長)

玉岡 浩

(事務局長)

田所 清市

(総務部長)

住井 讓

(管財課長)

同窓会側

磯野 斉

(会長)

桑津 昇

(副会長)

松本 義和

(副会長)

比企 重

(事務局長)

西本 集一

(広報部長・司会)

前田 悦子

(広報部)

波根 伸俊

(広報部)



### ◇はじめに

日時 昭和60年7月8日午後5～8時  
場所 大学特別会議室

本日は、同窓会広報部が企画しました座談会に、お忙しいところを学長初め多数の先生がたや、先輩にお集まりいただき、ありがとうございました。感謝いたしております。

さて、広報部ではすでに今年の『澱江』の編集にかかっておりますが、その特集を「50周年記念館と教学の充実」と題しまして、三つの角度から取り組んでみることにいたしました。

本日の座談会はそのうちの一つでございますが、俗に言う「トップ座談会」として、大学と同窓会の代表者が一堂に会して、忌憚なく話し合いをしていただくことにより、多く



の同窓生の母校に対する関心に応えていければと願っております。(司会者)

◇構想から現実へ——多くの要望を調整——

—— それではまず、50周年記念事業のなかで、最大の事業であり、巨額の投資を伴う記念館につきまして、当初「黒正記念館」とも呼ばれていたと思いますが、現在に至るまでの構想の進展過程や、ご苦心について大学側からお話し願います。

学長 今年の『濠江』の特集記事のために、50周年記念館建設について、このような機会を設けていただきありがとうございます。



鈴木学長

当記念館については、教授会をはじめ各方面の要望が多く、当初、考えていたものより相当大規模なものとなりました。詳細については、大槻理事から説明して貰います。

大槻 記念館の構想の進展過程ということで、構想につきましては、主として学内に学面ではすでに学則、カリキュラムの改訂が決定していましたが、それに対応してコンピュータ研究教育委員会が、精力的に他大学の実情調査と審議を重ねたほか、他のセクションでも検討が行われ、59年7月16日の教授会において建設が了承されました。

そして、竹中工務店による設計、60年2月入試終了後B館の一部解体、4月着工という運びになりました。しかし、B館(時計塔のある旧館)の約半分を取り壊すため、59年12月末までは、工事期間中の教室・授業の調整や、4研究所等の移転先について苦慮いたしました。

記念事業、とりわけ記念館建設について、その進行の遅れを学外関係者から色々心配いただきましたが、以上のような次第でございます。

—— ありがとうございます。ただ今の説明に対し、磯野会長のご感想をお聞かせください。

会長 この立派な記念事業のために、同窓会



磯野会長



大規記念館担当理事

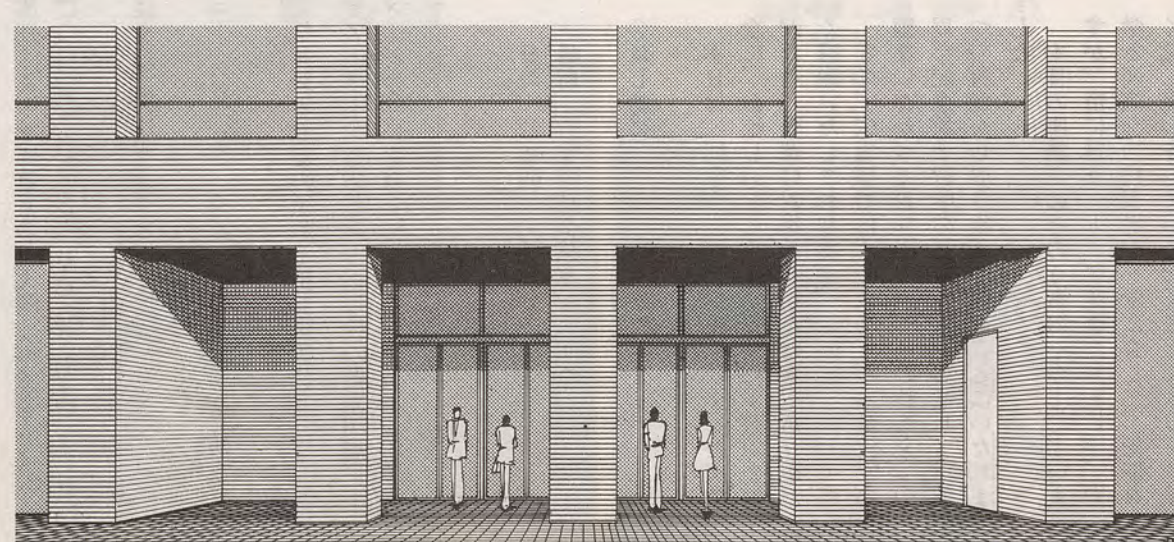
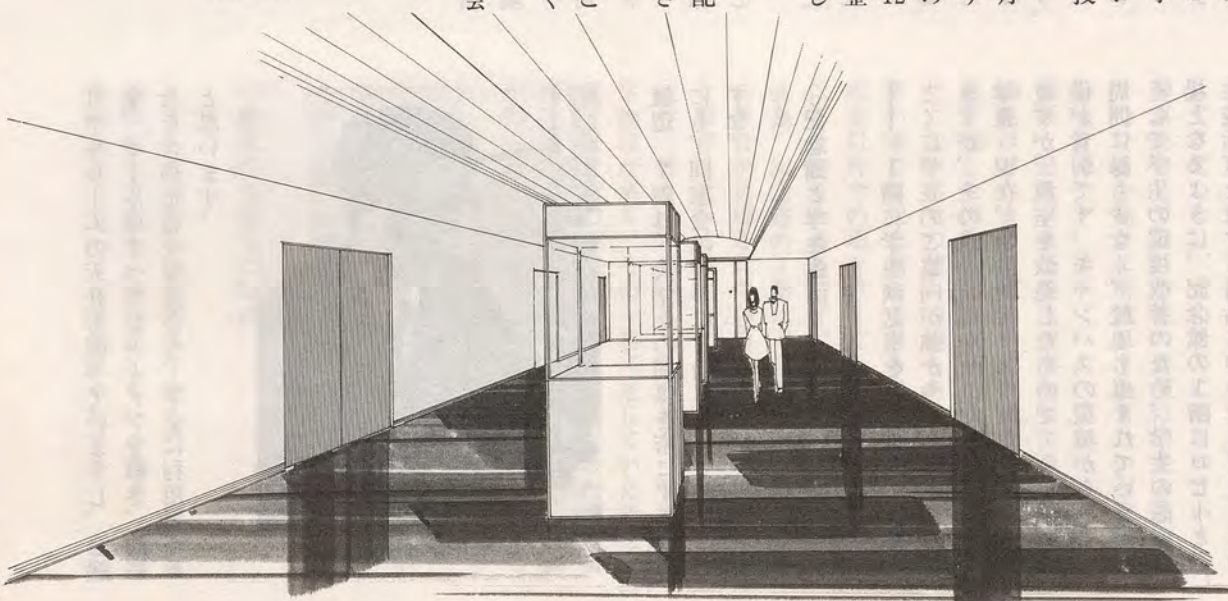
において、かなり検討を加えてきました。

たしかに名称は、当初の「黒正記念館」から「50周年記念館」へと変わり、記念館のうちには記念室を設けるというように、転換をしましたが、それは名称だけであって、内容的には一貫して、創立50周年記念にふさわしい、記念館の内容作りということで検討してきました。

予算的には、当初5億円だったものが、内容と建設場所(西学舎)の決定により、13億円となりました。

最初の基本構想は58年10月11日の学内理事会で固まり、11月の同窓会総会および記念式典で発表されましたが、その時は6階建て、建物の内部はまだ決まっていなかった。その後、役員会や記念事業委員会の議を経て、最終的には59年2月2日、制限の高さぎりぎりの7階建て、シンボリックな建物にすることが決定されました。

一方、建物と並行してその内容作りのためとくに、コンピュータの導入が検討され、教



は外からお手伝いする立場ですが、学内事情がわかりにくく、「時間がかり過ぎる……」等の失礼な質問をしてきたと思います。しかし、ある意味ではそれが必要であり、この事業に貢献したと思います。お話しを承った今では、大学の前向きなご努力に非常に満足し、募金にも自信をもって各支部を回っています。

また、この間に同窓会と大学との関係が非常に改善されたと思います。渡辺同窓会名誉会長が学内理事として中に入られて活躍しておられるし、鈴木学長の心情がよくわかり、話しやすくなりました。きっと、記念館はこの土地の一つの名所となりましょう。うれしいことです。あらためて今までの失礼の言については、この席をお借りしてお詫びいたします。

(大きな笑い)

—— ありがとうございます。大学と同窓会の関係が深まったこと、今後とも話し合いの場を大切にしていきたいと思えます。

◇記念館と歴史の重み

—— 最上階に設けられるメモリアルルームならびに会議室、ホールの活用について、どなたからでもよろしく願っています。渡辺 メモリアルルームでは、黒正先生の史料だけでなく、浪華高商校長の徳永先生を含め、歴代の理事長・学長の写真なども飾るようにしてほしいものです。





渡辺理事

会長 昭和7年の浪華高商、昭和10年の昭和  
高商と、大阪経済大学の歴史の変遷など、真  
の歴史を後世に伝えるべきでしょう。

松本 昭和7年説については、先の創立50周  
年の宣言文で確認されています。

学長 50年史編さんは記念事業の一つとして  
位置付けられていまして、現在、大学の広報  
部で基礎史料の収集、聞き取り調査を担当し  
ております。50年史と一口には言いますが、  
一挙に年史の出版はむづかしく、掘り起し史  
料を逐次的に印刷物としてまとめ、将来それ  
を集大成したいと思っています。

会長 40回(昭和49年卒)以降の卒業生では、  
大学の歴史を知らない人たちが相当います。  
大学の歴史をポイント的に要所を押さえなが  
ら、広報することは重要な仕事だと思います。

——メモリアルルームでは50年の大学の歴史  
が一望できるものであつてほしいというこ  
とでしょう。設備面ではいかがでしょうか。  
住井 1、7階については、ホテルなみのグ  
レードの高い設備が考えられています。メモ

高いものを考えており、自動販売機も入れる  
予定で、快適な場を作つてあげたいと思つて  
います。

——学生への熱い思いやりが感じられます。  
次に、学生の声を代弁してと申しますが、学  
生部長のお立場から発言をお願いいたします。  
岡本 できるだけ無難な発言にしておきたい  
のですが、本学の施設は他大学に比べて、慎  
重と申しましょうか、かなり対応が遅れてい  
ると思います。今回の計画も学生の希望どお  
りなのか、どうかは自信がありません。しか  
し学生の要望を先取りして実現するという点  
はうれしいことです。

だが一方、教室だけでなく、課外活動面でも  
も不十分な所が多く、そのアンバランス(理想  
と現実の)に苦慮しています。

出来上った美しい建物の管理運営、清掃等  
果して、学生たちがうまくやれるかどうかと、  
不安がない訳ではありません。近隣住民への  
音公害などにも、その対策に苦勞している状  
況です。



岡本学生部長

リアルルームの天井も凝っていますし、会議  
室、ホールはすべてジュータンを敷き、同窓  
会を含めた色々な会合や、学会に利用できる  
と思います。



住井管財課長

渡辺 7階は、大学との関係を密にするため  
にも、同窓会の行事に有効に使つてほしいで  
すな。

◆記念館と学生生活

——1階に学生談話室を設けるについて、  
とくに学長のご意向が強かつたと聞いており  
ますが、その点をお聞かせください。

学長 現在、学生談話室はC館の1階にあり  
ますが、教室を改造したもので、いかにも設  
備が貧弱です。キャンパスの環境からみて、  
周囲に緑も少なく、校地も恵まれていません。  
そこで学生の環境改善のため、学生の憩いの  
場となるように、記念館の1階にロビーと学  
生談話室を設け、備品についてもグレードの

渡辺 我われの時代と違つて学生気質も変化  
してきているし、せいたくにもなつています。  
理事会としては、学生の要望に応える問題を  
一つひとつ徐々に解決していきたいと思つて  
います。

岡本 最近、女子学生が増加してきて、現在  
90名ほどいまして、良い雰囲気なんです。が、  
取り壊した旧校舎には女子用トイレがなかつ  
た。女子学生の憩いの場もありませんでした。  
その面では記念館ができるので助かります。  
教室以外での場を考えていただくことは非常  
にありがたいことです。

会長 記念館の1階は、学長のおっしゃる愛  
の教育が具現されていると思います。紳士淑  
女教育に大いに役立つことでしょう。

住井 皆さんのおっしゃるとおり、学生の厚  
生施設が悪く、その一番不足していた所を今  
回、記念館の一番いい所に、学生のための場  
所をもつてきた。遅れているだけにいい評価  
が得られると思います。学生生活の豊かさ  
いいですが、プラスチックの部分を実現し  
たいと思います。

——お話しを伺つていて、暖かい愛情で学  
生を見つめていこうとする建物ができるのだ  
という感じがいたしました。

◆教学の活性化に期待

——記念館の完成によりまして、今後の教  
学がどう充実し、活性化していくのか、その  
効用などについてお聞かせください。

大槻 この記念館は、教室を主としたスぺ  
ースになると思います。まず、5・6階部分  
はコンピュータ教育が、61年度中か、遅く  
も62年4月には実施されます。

また、今年度から新設科目として「情報処  
理概論」「情報処理実習」「情報管理論」等を  
設けまして、一部開講しています。

次に、2・3階には語学のための小教室が  
設けられます。従来の3人掛の机・椅子では  
なく、1人掛の机・椅子が用意されます。

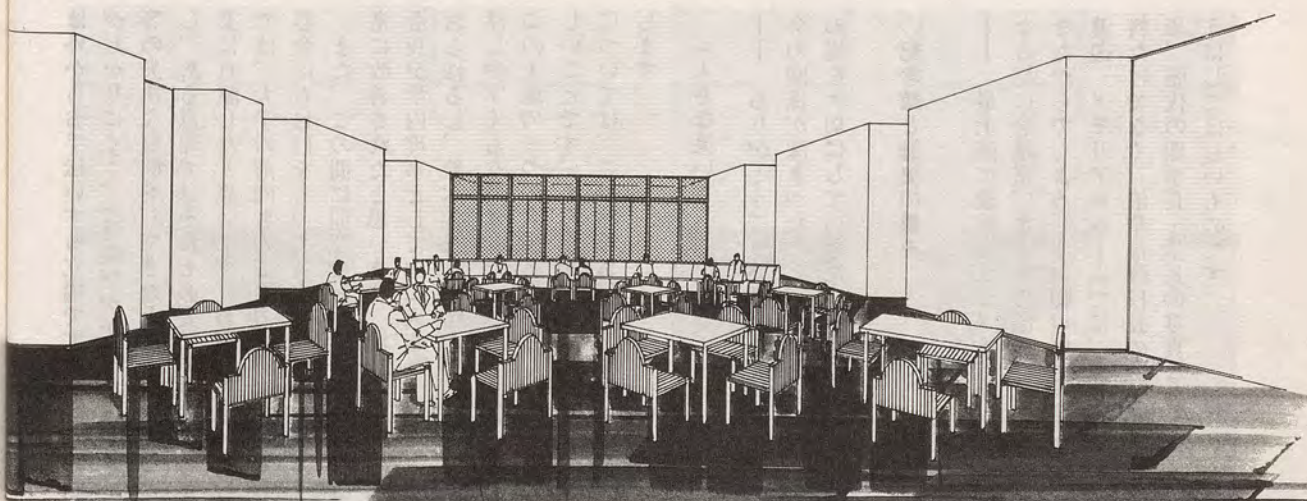
4階部分は講演のできる大会議室と教室・  
準備室、この教室にはAV機器を導入して、  
視聴覚教育を実施、最新式の機器をシステム  
として設置しようと、目下、AV委員会で検  
討中ではありますが、授業への活用に対応し  
ていく心づもりです。

200人位収容の中教室を三つ設けます。  
かつて大教室で学生を集めました。最近  
200人位が適当で、使いやすい教室になる  
ことでしょう。これらの新機軸が教学の活  
性化につながっていくと思います。

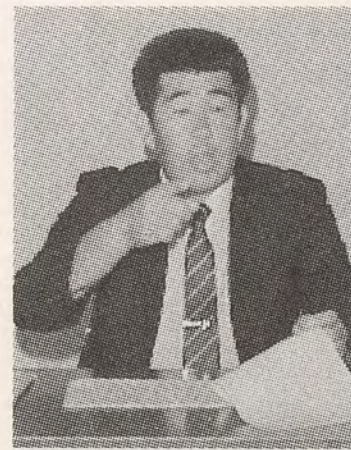
会長 国際化時代にふさわしく、語学教育の  
重視ということが実現されそうですね。

語学教育に力を入れると、女子学生もふ  
てくるのではありませんか。

八木田 情報処理教育については、記念館構  
想とは別個に、51年から検討を進めてきてお  
りましたが、今回、一挙に解決すると言えま  
す。すでに教育担当者も決まり、他大学から  
の遅れを取り戻すことと思つています。最新式  
大型機器が入ってくるのですから、学生たち







八木田教養部長

が卒業後も社会に出て役に立つことと期待できます。

しかし、さらに成果をあげるためには、教員の充実を行わなければならないという懸念はありますが……。

現在、3教室で行っているAVについては不備ですので、記念館のAV設置には、検討の段階から煮つめの段階に入っております。トータル的に教学の活性化には期待が大きいことと確信しています。

◇同窓会ホールの有効利用を

——新しい記念館の7階へ同窓会ホールや事務室が移転しますが、その抱負についてお聞かせください。

会長 少なくとも同窓会の常任理事会を、現在学外で開催しているのを、学内へ移して開きたいものと思っています。

松本 是非、備品類の整備をしていただいて同窓生のゆとりのある待ち合わせの場所、憩

いの場所として欲しいですね。例えば基盤や将棋盤なども欲しいですね。コーヒーなども飲めるように。



松本副会長

会長 同窓会では現在、組織部を中心に、大阪支部の設立に力を注いでおり、その設立も近いと思いますが、そうすると当然、大阪市内に支部の会合のできる場所ができると思われ

れます。したがって、大学の方は地方から出てくる卒業生に是非立ち寄っていただき、願わくば宿泊設備があると良いのですが。渡辺 宿泊設備といえば、大学としては、老朽化している学生寮のこともありますし、図書館の書庫も飽和状態です。こんな懸案事項が山積している現状では……。

岡本 立命館大学の末川記念館を訪ねたことがあります。宿泊や食堂の設備が完備していることに感心しました。本学でも次の60周年、70周年時に、同窓会が中心となって考えられてはいかがでしょうか。桑津 私は二つほど強く希望いたします。第

また、新幹線からもよく見える大学名の表示も考えています。現在のD館についているネームより、さらに高くなりますし、今度は英語で表示しては、という声もあります。

他には、1階ロビー、学生談話室に自動販売機を置きますので、空カンの処理など記念館の利用管理についてごまごましたことまで、総務部長が頭を痛めています。

最後に、50周年を契機にして、大学と同窓会とのつながりを、より一層、緊密にし、お互いに発展していくよう、努力していきたいと思っております。今後とも、ご協力のほどよろしく願いたします。

——ありがとうございます。50周年を契機に、新しいイズムが生れるといいですね。それは黒正イズムの延長でもいいし、鈴木学長のいわれる愛、人を愛し、学問を愛するイズムでも良い。ともかく、大阪経済大学に入学してよかったなあ。卒業してよかったなあという大学に。そして社会に少しでも貢献できる大学にな



西本広報部長・司会



桑津副会長

一は、在学生に同窓会の存在を認識させること。そのために同窓会ホールを役立ててほしい。第二には、卒業生のために開かれたホールにしてほしい。同期会や、色んな会合が気軽にもてるように、お願いしたいです。

——公開講座など、学外との関係についてはいかがでしょうか。

——学長 公開講座については、一昨年から学外を会場にして実施しており、今年で3回目になります。今後はそれと併行して、この記念館を利用した近隣の方が対象にした企画で、講座を開催したいと思っています。

◇結び——裏話など——

——最後に、これまでのご苦心談や、裏話を交えて締めくくりをお願いいたします。

学長 卒業生の方がたにはなじみ深い時計塔のある校舎を取り壊しましたので、それに代わるシンボルをどうするか、目下検討中ですが、どうやら、やはり時計に落ち着きそうです。

——最後に、本日の座談会を閉じさせていただきます。長時間、どうもありがとうございました。(拍手)



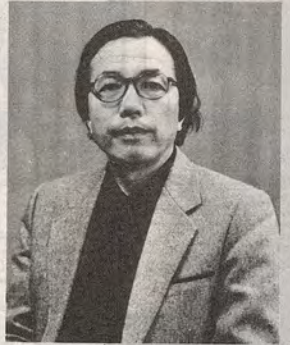


インタビュー

千葉教務部長に聞きました。

# 進む教学の充実と

# 条件整備



◇小人数教育をめざす「教養ゼミ」

教養ゼミを設けましたのは、今日のマスプロ教育の欠点を補い、何とか小人数教育で、教員と学生との交流をはかり、ひいては、交流の場を専門ゼミへとつなぎながら、4年間の学園生活の活性化をはかりたい、というかねてからの懸案によるものでした。

初めは、それを最も必要としている入学当初から、受講できるというカリキュラムを考えましたが、事務上の処理が難しいということもあって、止むなく60年度は2年生を対象に、開講するということになり、その意味では少し後退した形となりました。

将来は、1年生への配当ということとともに、あわせてクラス担任制の問題も考えてい

かねばならないと思っています。

一般教育科目36単位のなかの4単位の科目で、教員が予めテーマを設定して、学生の希望で選択するというスタイルをとっておりませんが、60年度のテーマは、「コンピュータABC」（別掲）など、幅広く教養にかかわり、しかも興味深いものでいっぱいです。

しかし、予想に反して受講者総数は一部104名、二部16名に止まってしまい、各ゼミとも定員（23名）に満たない結果となりました。

中心的なカリキュラムの一つにと考えておつたのですが、十分PR出来なかつたことも一つの原因かもしれません。それに、学生が何を基準にしてゼミを選択するのか、ということも十分には掘り切れていません。原因はどこにあるのか、現在、分析調査中ですが、その結果をまわって、改善すべきところがあれば改善していきます。

専門ゼミにも共通する問題ですが、ゼミの担当は専任教員に限っておりますので、開設ゼミの数にも限界はあります。テーマもそれぞれ個性と特色をもっておりますので、ゼミによって応募学生数にアンバランスが出てくるのは当然のことだと思えますが、なかには非常に少数ですが、初めからゼミを履修しようとする学生もいます。この点は何とか解決したいですね。

教養ゼミは1年間のみで、3年・4年の専門ゼミとは切り離されておりますが、テーマや担当教官が、そのまま引き続いていくということもあり得ましようね。

教職員の負担も増えますが、学生の利益を考え、それを実現していくのが、私たちの責任でしょう。

いずれにしても、長年の懸案の一つの実現に踏み出したという点でも、大いに評価はで

## 教養演習テーマ

コンピュータ ABC

雑学のすすめ

現代生活とスポーツ

運と偶然に関する研究

高校世界史を読みなおす

大阪の研究

産業界の課題と方法についての学習

天体を観察しよう

川と現代の日本

経済学をつくろう

段階論の研究

現代日本文学を読む

魯迅と太宰を読む

現代日本の都市政策

家族・家庭について考える

健康と運動の関係について考える

レフ・トルストイ作「アンナ・カレーニナ」を読む

地図と空中写真

現代の社会人と健康

西洋人と大阪

イギリスと日本

ドイツ事情

わが国の地域問題

経済系学部学生の専門性・資格制への誘い

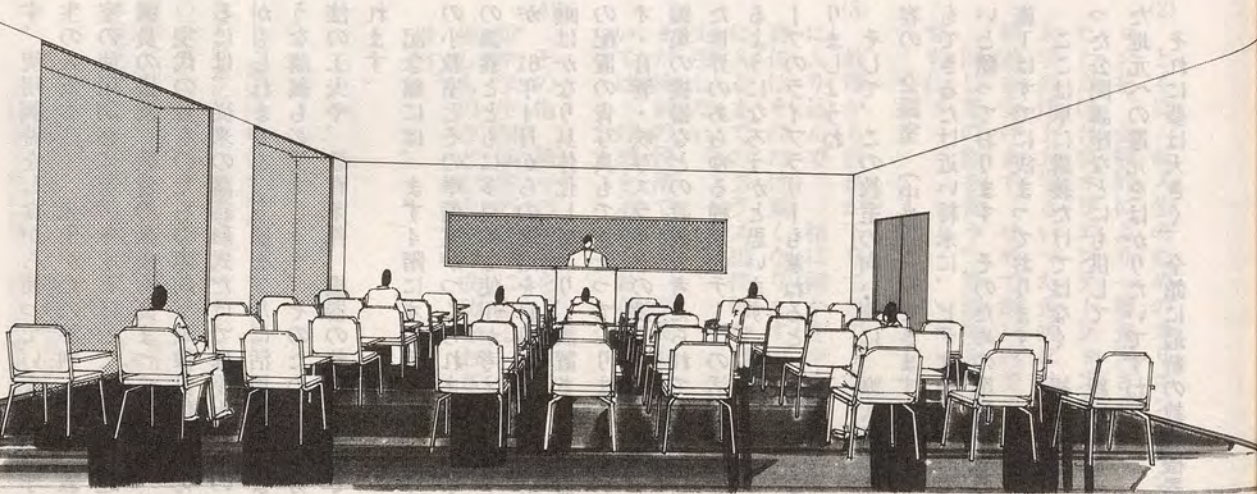
シエイクスピアと現代

スポーツの心理についての研究

ポブ・ディランを聴いてみよう／読んでみよう

いまアジアが面白い——「アジア主義」を知る——

「資本論」第1巻を読む



きると思います。

◇画期的な「総合科目」は61年度から

一般教育科目のカリキュラムの改訂のなかで、もう一つ新たに設けられることになったもので、「総合科目」は61年度から開講します。画期的な科目になると思います。

特定のメインテーマを設定しまして、それを、関連する多くの学問分野にわたって総合的に検討し、講義を進めていく科目です。61年度のテーマは

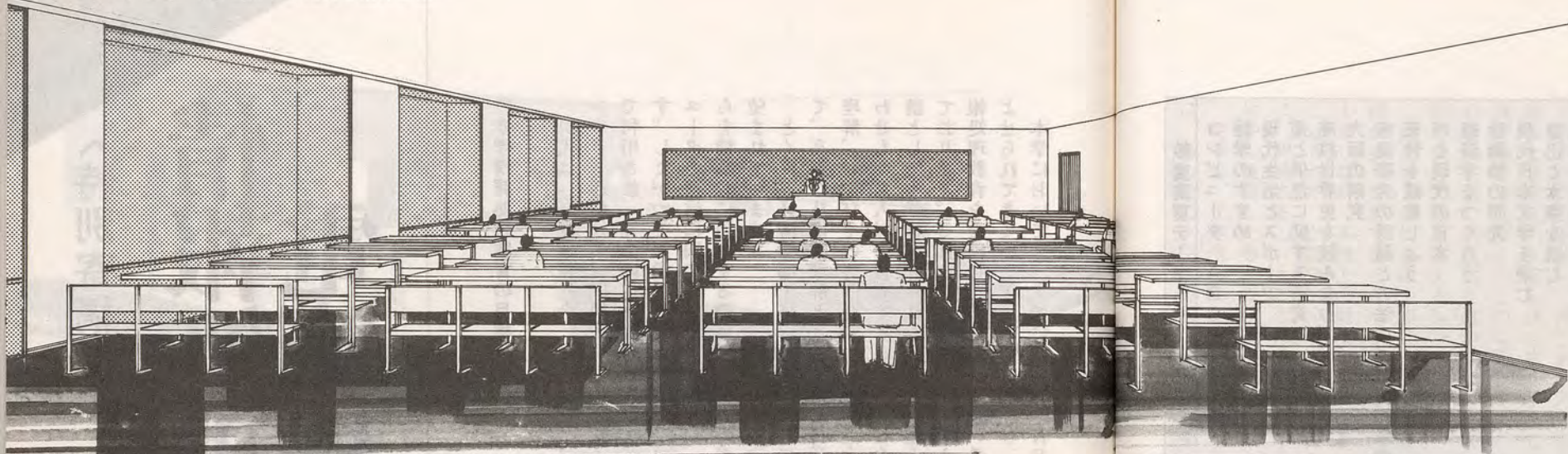
人間の環境  
日本の近代化

の二つに決まっております。担当の教員の先生がそれぞれサブテーマを設け、講義の方法や内容などを検討されます。2年生配当の科目ですが、3年生以上も受講は可能です。

◇記念館の情報処理教室、オーディオ・ビデオ教室とは

大隅キャンパスのほぼ中央、7階建の記念館の、2階から6階までに教室等がつけられます。「竹中」の最新建築技術を盛り込み、すっきりして美しい建物になると聞いておりますが、新しくきれいな教室で、学生と一緒に快適な講義ができるものと、期待しております。ところで教室の特徴ですが、一つにコンピ





ユー・タ関係の教室、実習室が設けられます。これも専門教育科目のカリキュラム改訂で、情報処理概論や実習等の科目ができ、そのためのものですが、経済・経営系の大学としては、他に類を見ないほど充実した機器などの設置がすでに決定しております。

二つにはオーディオ・ビデオの視聴覚教室ですね。これらはいずれも教職員や、学生の大きな需要や、社会の要請に応えるものです。コンピュータ関係については、他で述べられますのでここでは触れませんが……。

オーディオ・ビデオ関係では、既存の設備にC館のオープン・ビデオがありますが、これは機器も古く、現在余り利用されていません。比較的新しいものでは、D館の二つのゼミ教室に大型のホーム・ビデオ、そして40人教室にスクリーン様のビデオが設けられておりま

す。使用調整をしながら使っていますが、学生の人気も高く、先生がたの評判も良く、教室の使用調整に苦勞をするほどで、講義は超満員の盛況、教育の効果も高まっています。現代の若ものたちの志向、映像世代に因應するには、従来の講義形式だけでは不十分なかもしれません。五感をフルに活用できるような講義も必要でしょう。そのための講義方法の工夫や、教育条件、機器の整備も要求されます。

記念館には、まず4階にオーディオ・ビデオの小教室とその準備室がつくれます。語学の講義とともに多目的な使用が考えられますが、61年4月からの運用を目前に、現在、計画はかなり具体化しており、設置される機器の配置の青写真もでき上っております。ビデオ・音響・映写スライドの設備、それに伴う編集の機器などの設置も考えられており、また世界のあらゆる種類のテープの活用もできるようなふうかと思えます。準備室は、テープのライブラリーも兼ねるということになりましたでしょうね。

そして、この教室の向い側に、200人ほど収容の会議室（中教室）ができますが、そこもできるだけ近い将来に、ビデオ教室化したいと願っております。そのための準備工事の施工はすでに決まっております。

ここは単に講義だけではなく、視聴覚を伴った公開講座などにも供して、上新庄も含めた地元への還元をはかりたいですね。それに夢は大きく、全館に最新の教育機器

の設置ができればと希望しておりますが、そのための準備工事の可能性については、理事会で検討していただいております。

——この学園で学んだOBの一人として、自分たちの学生時代を振り返り、今も心に残っているものがあります。それは何かと申しますと、ゼミナールのよき、先生との交流、学友たちとの友情ではなかつたでしょうか。千葉先生のお話を承っております。現在の学生の幸せをしみじみ感じると同時に、果たして学生がこれらのゼミや、設備などをどう活かしていくのか、と気にかかります。これらの点について、先生ご自身の抱負、お考えなりを承って、まとめ、とさせて頂きます。

◇千葉先生の夢はふくらむ

要は、学生のやる気の問題です。しかし、じつとそれを待っているだけではいけません。教職員が一丸となって、やる気を引き出してゆくための教育諸条件を整え、様々な企画を実行し、それを学生に啓蒙していくことが必要でしょう。

この方法としては、

(1) 新入生が合格通知を受け取り、入学してくるまでの期間をも、活用できないものか。大学としては、色んな機会をとらえて、大学の雰囲気やPRしていきたい。

充実した単科大学を目指して

田和茂 三 (10)

総合大学を指向すべきか、現状のまま単科大学としてすすむべきか……。このごろ、母校の将来に関して喧嘩されている声に対し、私は以下のごとく述べてみたい。

結論から申しまして、私は充実した単科大学として、特殊性を大いに発揮すべきだと思います。その前提として、質的により充実した大学を常に目指して努力し、他大学・国立私立を問わず、単科大学としてトップを目指すことです。業界では実力のある、応用力に富んだ人物を求めています。それに対応するには大学が単に幅を広げるだけでは、要望に応え得ないと思います。

50周年の重みのある歴史を振り返り将来を展望する時、答はおのずから前述の如く出てくるものと存じます。それが一歩、歩一歩と実現すれば関関同立など論外で、より力のある卒業生が活躍し、頼むのでなく、就職もひっぱりだこになるものと信じます。

在学生自身が自覚し、大学当局ほか関係者が一丸となって努力あるのみです。長短期の目標を策定して前進あるのみです。求めずとも経済界から、求められる学生として巣立ってゆくものと思えます。

(59・11・3)に寄稿くださいました文から、ページの関係で一部割愛させて頂きました。編集部)

- (2) とくに、新入生のためのオリエンテーションを、全般的により一層充実させたい。たとえば合宿オリエンテーションなど、他大学の洋上大学といった企画には、大きな刺激を受けます。せめて瀬戸内内でもいい。同じ釜の飯を食う「雰囲気をつくりたいですね。
- (3) 教壇から教員が下りてきて、学生のなかに入り込んで、一緒に何かをやる。教員の責任はそれだけ重くなりますが、専門ゼミに入るまでのクラス担任制なども、何とか実現したい。
- まだ検討の段階ですが、学長もこれらについては、好感を示しておられます。
- (4) その他、種々の企画を。最近では、図書館や学生相談室の主催による、学生対象の催しものなどが大きな成功をおさめております。

——『濃江』編集のためとしながらも、千葉先生のご好意により、貴重な時間をさいて頂き、将来の夢までお聞きすることができましたことは、同窓生一同にとりまして大きな喜びとなりました。本日はどうも長時間、ありがとうございました。

60年6月25日(火) 教務部長室において  
同窓会広報部担当 西本(23)波根(22)前田(13)



# 情報処理教育の構想と 電算機設備

◎ 本学情報処理教育の目標

現代は「高度情報社会」といわれ、コンピュータと通信技術は国民生活のあらゆる面で利用され、社会に様々な影響を与えています。したがって大学教育においても、コンピュータと通信に関する諸現象を理解し、それらを積極的に利用する態度と、能力の育成が望まれています。

とくに、経済学部・経営学部分野において、高度な技術的理解とともに社会科学的理解、およびその専門分野への応用能力をあらゆる人材を育成することが、社会的要請として本学に課せられた急務の課題となっております。それを反映して、学生からも情報処理教育を受講したい、という強い希望がよせられてきています。

本学においては、すでに昭和54年NECの

システム100が教育・研究用コンピュータとして導入されると同時に、「経済統計」「物理学」「産業技術論」などの講義、および演習において情報処理教育が部分的に開始されましたが、設備の限界とあいまって、体系的な教育にまでは進まず、個々の教員による個別的なものにとどまっています。多数の学生の希望には応えられないまま推移してきました。

以上のような社会的要請、学生の希望に 대응するとともに、本学の情報処理教育の一層の充実発展を図るために、59年にカリキュラムの改訂が実施されました。カリキュラム内容を具体化する過程で、本学における情報処理教育の達成すべき目標として、次の2点がかけられています。

- (1) 希望者全員に情報処理に関する基礎的知識を与え、コンピュータの利用経験（プログラムを作成し自分で電算機を動かす）

てみる)をさせる。

- (2) より高度な学習を望む学生に対しては、経済学・経営学分野のコンピュータ利用に関して高度な内容を教え、専門分野へ応用する能力を身につけさせる。

これらの目標を実現させるために、情報処理関連科目の内容と方法が決定され、本格的電算機の設置が必要不可欠となりました。

◎ 本学の情報処理カリキュラム

59年のカリキュラム改訂で、本学の情報処理関連科目は左記のようになりました。

- (1) 経済学部・経営学部共通の2年次配当科目として「情報処理概論」を、3年次配当科目として「情報処理実習」を新設し、情報処理概論↓情報処理実習↓専門教育科目(演習を含む)という体系性をもたせたこと。

- (2) 専門教育科目における新設科目として、経済学部では「統計学概論」(2年次配当)、「計量経済学」(3年次配当)、経営学部では「情報管理論」(3年次配当)、「コンピュータ会計」(3年次配当)が置かれ、既設の「経済統計」等とともに、講義内容の重要部分としてそれぞれの専門分野におけるコンピュータ利用が説かれ、それぞれの分野におけるコンピュータの応用能力が身につくような教育が行われます。

- (3) さらに専門教育科目の演習(ゼミナール)(3・4年次配当)においては、コンピュータを利用した教育が行われていますが、

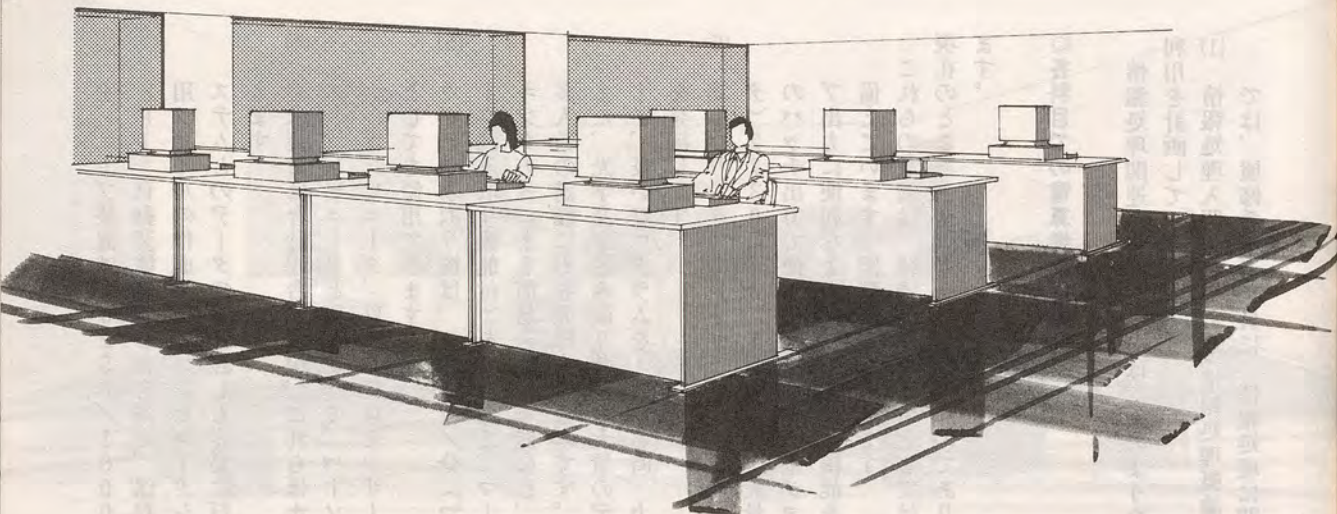
- (4) 今回のコンピュータが導入されると、学生の希望に応じて、より高度な内容(経済学・経営学分野への応用に関する限り、現代技術で可能な最高水準の内容まで)を、より親しみやすい形で、より多くの学生に教えることが可能になるよう計画されています。
- 教養演習(2年次配当)が新設されましたが、このなかでも、より広い視野からコンピュータについて考えたり、使ったりする演習が計画されています。

◎ 設置予定の機器構成

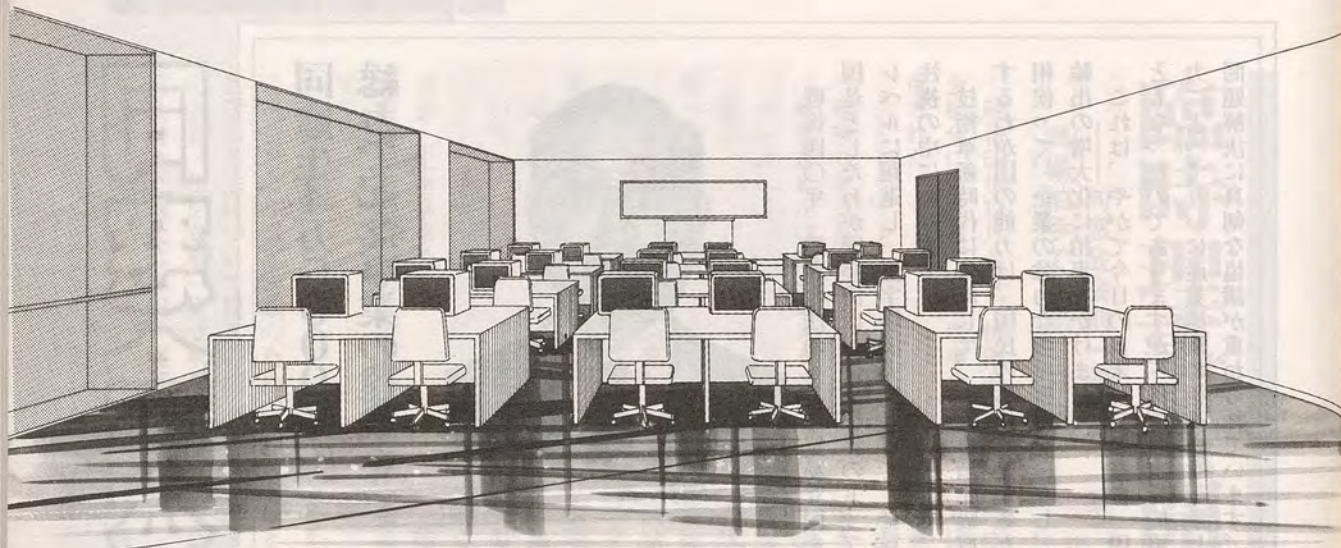
以上の目的のために導入される予定の機器構成の特長は、次のとおりです。

- (1) 中央処理装置は、処理速度2.6MIPSで主記憶容量は12MBを装備しています。これは多数の講義でのバッチ処理や、TSS教室に40台、その他の場所に9台設置されるTSS端末装置が、同時に稼動しても十分耐えうる能力です。またOSは国際的・国内的に流通している種々のソフトウェアが利用できるよう、汎用性のある物にしました。

- (2) 固定ディスク装置は1,260MB、4台合計5.04GBの記憶容量をもち、多数の共同利用に十分耐えうるものです。経済学・経営学等に必要で、大きなデータベースを常駐させておくことが可能です。







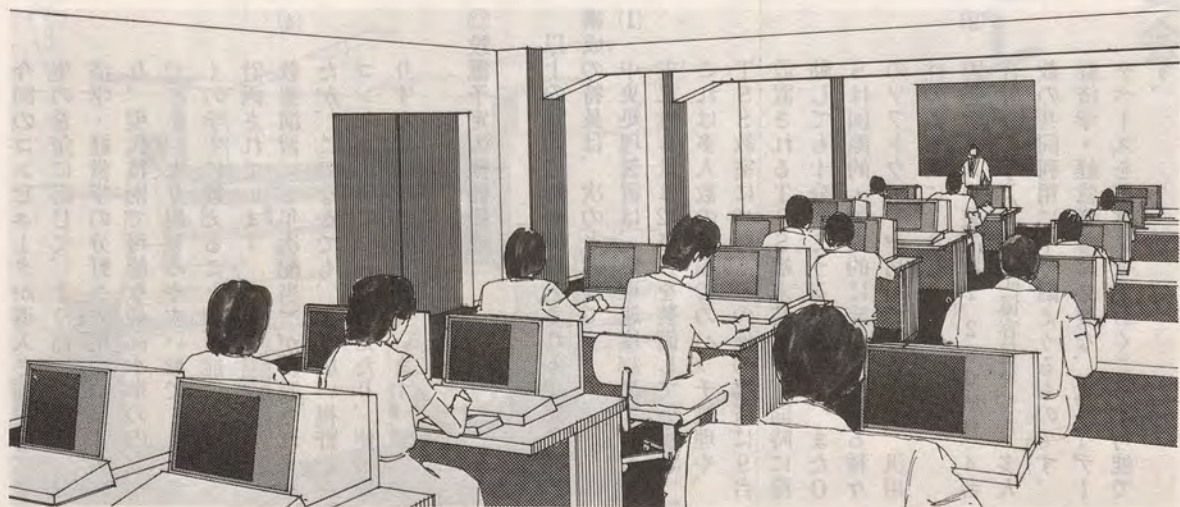
- (3) 磁気テープ装置は、6250/1600 BPI 自動装填方式2台を備え、保存用ファイルの作成、他のコンピュータシステムとのデータの受け渡しも容易に行えます。
  - (4) 端末装置は合計49台ですが、これらはホストコンピュータと切り離して、パーソナルコンピュータ、ワードプロセッサとしても使用できます。
  - (5) カード読み取り機は、800枚/分(マーク読み取り機能付)を2台備え、マーケティング方式による簡易入力を可能にし、多人数の講義に力を発揮するものです。また、光学文字読み取り装置は大量のデータ、長いプログラムを入力する時、力を発揮します。
  - (6) 漢字プリンター(レーザービームプリンター)2730行/分 1台を置き、大量のバッチ出力で使用しますが、多量ジョブ出力に便利のように、自動切断機能を備えています。図形出力も可能です。
- これらの設備は、経済系単科大学としては現在のところ、全国でも最高級のものであります。

◎各科目での電算機利用計画

情報処理関連科目においては、次のような利用を計画しております。

(1) 情報処理入門教育である「情報処理概論」では、履修希望者全員に、情報処理に関

- (2) 講義形式に加えて、マークカード(省略記号を使い容易に入力可能)による高速バッチ処理で、受講者全員に実習をさせる。私どもは、基礎的知識をわかりやすく、体系的に説明するとともに、学生一人ひとりに自分の興味ある問題に関して、自分自身でプログラムを作成し、電算機にかけてみる経験を、入門段階からさせることが非常に重要であると考えています。1,000人を越す履修希望者がいても、これは必ず実現したいと考えております。
- (3) マークカードは省略記号を使用する等、入力が容易になるよう最大限の工夫をしますが、それでも直接端末から入力する場合に比べて、学生の興味を引き付ける点で、多少劣ることは事実です。しかし経済系単科大学で、毎年1,000人を越す履修希望者全員に、自分でプログラムを作成し、電算機にかける経験をさせるという野心的な試みのなかでは、さしあたっては止むをえないと考えています。
- (4) 「情報処理実習」においては、より高度なプログラム作成能力、各種アプリケーションを利用した経済学・経営学等の専門分野への応用能力を養う。方法としては、40名のTSS端末機が置かれたTSS教室で、1人1台、40人クラス単位の



- (3) 実習教育を行う。1人1台のTSS端末機は、充実したソフトウェアともあわせて、大きな教育効果をあげるものと確信しております。
- (4) 「情報管理論」「コンピュータ会計」「統計学概論」「経済統計」「計量経済学」等の専門科目では、内容と状況に応じて、マークカード入力による高速バッチ処理と、TSS処理を使いわけながら指導していきます。
- (5) 専門演習(ゼミナール)は定員が20人、(一部は15人)なので、TSS教室を二つに区切り、2ゼミ並行で、1人1台のTSS端末機が使用できます。

以上、60年7月段階における委員会で検討した事項を列記しました。

これを利用することができず。また、ゼミナールの共同研究、卒業研究等ではかなり大きなファイルを利用することも可能です。ホストコンピュータと切り離して、パーソナルコンピュータとして利用することを計画しているゼミナールもあります。

教養演習も同様です。講義等に使っていない時間はIO室、TSS教室はオープンにしておき、学生の予習・復習・自習等に使用できるように配慮したいと思います。



情報産業界の最先端(IBM)から講師を迎える

西山 豊 (37歳)

(情報処理概論および実習担当)

- ▼ 14年間日本IBMでシステムエンジニアとして活躍
- ▼ 専攻は数学、文科系学生への理解しやすい授業内容に工夫努力



# 同窓会本部だより

## 同窓生4万5000名の 総力で記念事業の達成を



会長 磯野 齊

戦後四〇年、平和憲法のもとに貿易立国を国是としたわが国経済は、遂に世界のトップレベルに躍進し、黒字経済大国として、世界注視の中にあります。

技術革新時代に即応して、これを消化吸収するわが国の能力は、国民の本質的勤勉さと相俟って、企業の強力な生産態勢を確立し、輸出の増大化に拍車をかけました。

これは、やがて今日の日米貿易摩擦の二因ともなったのでありますが、両国の友好的協力によって互いに産業構造の相違点を認識し、問題解決に真剣な協議が重ねられています。

従って市場開放の積極化と内需拡大の推進は、わが国の直面する課題であります。貿易摩擦の緩和策として、輸出を現地生産へ転換し輸入品目の多様化につとめています。内需振興策の一環としては、新幹線の延長、本四架橋、関西国際空港等ビッグプロジェクトの建設に着手し、数年来の横這い景気を、回復基調に乗せ、一石二鳥の効果をおぼえています。

諸君もすすんで、この全国的組織を有効に活用されるよう希望いたします。

さて、昭和59年度決算並びに60年度予算につきましては、去る6月22日、全国各地から支部長、理事、監事、100名の方々にご参加頂き各議案とも終始熱心なご審議の結果、すべて滞りなく承認可決されました。ここに厚くお礼申し上げます。

このときあたり、わが大阪経済大学は、経済学、経営学を専攻した1、300名の卒業生を新しく世に送り出しました。

今日ほど、経済に明るい人材が社会的に求められることは、かつてなかったのではないかと思います。それだけに社会人として第一歩を踏みだした諸君の責任は重大です。母校の伝統として培われた「融和の精神」をもとに、たゆみなく自己啓発につとめ、人生の大道を力強く歩んで頂きたいと思っております。同窓会は、諸君の加入によって会員数45、000となりました。

私は諸君の門出を心から祝福し、前途に幸多かれと祈ります。北海道から鹿児島にいたる各地域には現在32の同窓会支部があり年々活発な活動を続け、先輩後輩相携えて支部発展につとめ互いに交流の輪を広げています。

なお、50周年記念館建設につきましては既に基礎工事を終り、工程も順調にすすまれています。61年3月には、近代的センスあふれる7階建記念館が竣工します。この記念館の完成により、内容外観ともに備わる大学として、その威容を誇ることになりましょう。

記念事業募金活動につきましては、同窓生各位の強い関心を呼び、目下全国各地から申込みが相次いでおりますが、所期の目標達成には同窓生4万5、000の総力を結集しなければなりません。この画期的機会に一人でも多くの会員が母校愛を發揮して協力されるよう特にお願ひ申し上げます。

おわりにのぞみ、同窓会唯一の機関誌「澱江」編集にご尽力下さった方々に心から感謝申し上げますとともに、全国各地にご活躍の同窓生各位のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

## 臨時理事会開催催円滑裡に終了

——同窓会会則一部改正(案) 昭和60年度予算補正(案) 満場拍手で承認、可決——

昭和59年11月3日、恒例の同窓会総会に先立ち、臨時理事会が開催された。

◇広田議長就任挨拶のあと、ただちに議案審議に入る。

◇第一号議案

谷口総務部長(2)から同窓会会則第十九条を改正したいと提案。

◇昭和59年11月3日  
◇新阪急ビル12階、レストラン・パレス  
◇議案  
第一号議案  
同窓会会則一部改正(案)について  
第二号議案  
昭和60年度予算補正(案)について

従来、編集部とあったものを広報部に、企画部とあったものを組織部という名称に改正し、会員の増加に対応し、かつ、名実ともに同窓会のより一層の充実・発展を計りたいための改正であると補足説明があった。

◇第二号議案  
引続き、谷口総務部長より予算補正(案)について提案。

昭和54年度から毎年度50周年記念事業のために100万円づつ積立ててきた500万円と利息95万8424円を収入の部に組入れ母校とともに団結して募金活動を達成するための諸活動の費用に充当したいと補足説明があった。

括審議に入る。

岸本理事(5)より、澱江購読料が1000円となっているのに対し、澱江収入が100万しか計上されていないが、澱江の発送部数が約2万6000部であるのなら、その半分としても少くとも1000万ないし1300万の収入が予測される。その場合、1000万ないし1300万の余剰金が生じ、現状のままであれば、予備費として1000万ないし1300万が決算のとき計上されることになり、余りにも変則的な決算になるおそれがあるので、この点も補正しておく必要があるのではないかと、の質問があった。

議長より比企事務局長を指名。比企事務局長より、収入については予想以上の収入があったときはは定例の理事会において、積立金あるいは特別基金への繰入のご承認を得ることができるが、万一、収入が予定以下であり、予備費を

昭和59年度収支補正予算表(案)  
自 昭和59年4月1日～至 昭和60年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	補正予算額	科目	予算額	補正予算額
前金繰越	3,334,089	3,334,089	総会費	5,000,000	5,000,000
会費収入	38,000,000	38,000,000	役員会費	1,300,000	1,300,000
総会費収入	500,000	500,000	支部費	4,700,000	4,700,000
総会利息収入	700,000	700,000	支事務費	400,000	400,000
澱江収入	1,000,000	1,000,000	事件費	7,000,000	7,000,000
澱江購読料	0	5,968,424	旅交通費	2,800,000	2,800,000
			澱江編集費	13,000,000	13,000,000
			名簿追調査費	2,700,000	2,700,000
			学対費	2,750,000	2,750,000
			諸会助成費	700,000	700,000
			50周年対策費	1,000,000	6,958,424
			慶弔費	300,000	300,000
			予備費	1,884,089	1,884,089
合計	43,534,089	49,492,513	合計	43,534,089	49,492,513

## 同窓会本部だより

◇司会 比企事務局長  
◇定刻10時30分、司会者より開会宣言。  
◇磯野会長挨拶。  
◇司会者より議案審議のための議長選出方法について提案の結果、司会者一任を満場一致で承認され、司会者より議長に広田 実理事(1)を選出指名する。

第一号、第二号議案について一

収入が予定以下であり、予備費を



# 昭和60年度理事会盛會裡に終了

昭和59年度決算・昭和60年度予算(案) 満場一致で可決される

充当してもなお収支相償わないときは、また、臨時理事会で補正(案)のご検討をいただかなければならぬので、基本的には収入はなるべく据え目にということで、特に今回初めて計上された澱江収入についてはご不満は十分承知のうえで100万を計上した執行部の意向をご賢察いただき、まけてご承認をいただきたい、との回答があった。

以上の質疑応答のあと、議長より、第一、二号議案に対する賛否提案の結果、万場一致で原案通り可決・承認された。

◇磯野会長より閉会挨拶、同時に4副会長の紹介あり。萩原市郎(10)桑津 昇(11)松本義和(16)、(18)の3副会長よりそれぞれ挨拶があった。川野群平(20)副会長は当日欠席のため後日紹介すると会長より付言された。

◇司会者の閉会宣言があり、理事各位のご協力により予定通り30分以内でなごやかなうちに臨時理事会を閉会した。

あるので、今後ともより一層のご協力をお願いしたい、との説明と依頼がされた。

比企(7)事務局長より

皆さんからご要望のあった同窓会旗を製作した、との報告とともに現物が展示された。そして、事務局より、いくつかの頃から、学校のスクール・カラーがスカイブルーあるいはナス紺となっているが、本来はエンジがスクール・カラーであることを再認識する意味

◇昭和60年6月22日(土)  
◇新阪急ビル12階、レストラン・パレス  
◇議案  
第一号議案  
昭和59年度決算について  
第二号議案  
昭和60年度予算(案)について  
第三号議案  
その他

◇司会 比企事務局長  
◇定刻六時、司会者より閉会宣言。  
◇磯野会長挨拶。  
◇司会者より議案審議のための議長選出について提案の結果、司会者一任を満場一致で承認され、司会者より議長に広田 実理事(1)を選出指名。

◇広田議長就任挨拶のあと、第一号議案、第二号議案の一括審議を提案、承認のあと、ただちに議案審議に入る。

◇第一号議案  
中村会計部長(1)から昭和59年度収支決算について各項目別に説明

で、また、この同窓会旗のもとに結果しようという意味で製作したものである」という趣旨説明がされた。

また、来年が名簿発行年にあたるが、今回は名実ともに「限定出版」で発行するので、今回の「澱江」で予約募集をしたい。価格は、現在の試算では送料込みで7000円になる。未だ、名簿発行委員会も結成されていないので、明

言できないが、常任理事会において、また、この同窓会旗のもとに結果しようという意味で製作したものである」という趣旨説明がされた。

◇第二号議案  
谷口総務部長(2)から昭和60年度予算(案)について予算編集の趣旨を各項目別に説明、提案された。

第一号議案、第二号議案について一括審議に入る。

広田議長より第一・二号議案に対する賛否について提案の結果、万場一致で原案通り可決、承認された。

第三号議案について特別審議事項なし。

以上により昭和60年度理事会の議案審議終了を議長より宣言閉会された。

比企事務局長より  
◇出席の支部長紹介  
東京(代理)、東海、岐阜、京都、北摂、大阪市役所支部、西宮(副支部長)、東播磨(顧問)、姫

では、母校に大学院があるのだから大学院の名簿を一緒に収録するよう計画をしている。なお、住所不明者を1名でも減らすよう、各回の理事各位のご協力をお願いしたい。

澱江購読料にご協力をいただきたい。

以上3件の報告と依頼があった  
◇中谷和一入試部長よりご挨拶。母校の地方入学試験に関しては同窓会のご協力をいただき厚くお礼を申しあげるとともに、なお一層のご支援を依頼することのご挨拶があった。

また、受験生用に編集した1986年の「データ・アンド・ガイド」について補足説明がされた。

## 昭和59年度同窓会総会 厳粛なうちに華麗に挙行

同窓会に対する貢献者に感謝状を贈呈

昭和59年度同窓会総会は、恒例の11月3日に、レストランパレスにおいて挙行されました。本年は、総会前に臨時理事会が開催されたこともあって、受付では色とりどりのリボンを付けたご来賓、支部長、一般同窓生が再会とお互いの健康を祝し合いながら

路、広島、山口、南九州、福井、香川、愛媛、丹有、奈良、泉南(顧問)。  
◇各部より報告  
南部(9)組織部長より  
大阪市内の大阪支部を結成したい。そのための支部結成準備会を開催する準備を進めているので、その節はご尽力とご協力をお願いしたい、との報告とお願がされた。

西本(2)広報部長より  
一、澱江の寄稿にご協力を。  
二、50周年記念事業として  
(1)同窓生のお店拝見  
(2)黒正先生の特集本  
(3)「澱江」の総集編

を三年間の予定で計画している。その中から、まず、支部長ご推薦の飲食店、ホテル関係に原稿依頼をしている。ただ、その依頼状の中に「賛助金を2万円程度」という文章が入っているが、これは広告料ではない。同窓会の事業として少しでも収入の助成になればという意味で澱江購読料を昨年から実施したのと本質的に同じ趣旨で

特に、推薦入学については具体的に数字をあげて詳細な説明があった。

◇就職部黒正明主任よりご挨拶。新卒業生の就職に対する依頼とご協力に対する謝意表明をかねたご挨拶があった。

◇昭和60年度理事会は以上をもってなごやかなうちに司会者の閉会宣言で閉会した。

別室にて、渡辺名誉会長の乾杯で懇親会に入り、大いに歓談し、五十周年記念事業の募金活動の成功をお互いの心に誓いつつ散会した。

会場へ……  
定刻11時、司会者水納敏也(25)式典委員長よりの閉会宣言によって開会されました。

まず、谷口一郎(22)総会特別委員長より「母校が50周年という一節を迎えたが、同窓会は同窓会としての役割を果たしながら、大学と

### 昭和59年度収支決算書

自 昭和59年4月1日～至 昭和60年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	3,334,089	3,334,089	総会費	4,069,625	5,000,000
会費収入	38,160,000	38,000,000	役員会費	1,271,080	1,300,000
総利息収入	800,000	500,000	支部費	4,427,655	4,700,000
源江収入	2,027,767	700,000	事務費	742,792	400,000
50周年記念積立金	1,183,990	1,000,000	人件費	7,040,060	7,000,000
名簿収入	5,000,000	5,958,424	旅費交通費	2,854,170	2,800,000
雑収入	338,600	0	澱江編集費	12,358,427	13,000,000
	200,200	0	名簿追跡調査費	1,866,940	2,700,000
			学対費	2,780,000	2,700,000
合計	51,044,646	49,492,513	諸会助成費	915,655	700,000
			50周年対策費	3,939,325	6,958,424
			慶弔費	133,000	300,000
			予備費	( 682,677)	1,884,089
			次期繰越金	8,645,646	0
合計	51,044,646	49,492,513	合計	51,044,646	49,492,513

### 昭和60年度収支予算表(案)

自 昭和60年4月1日～至 昭和61年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	8,645,917		総会費	5,000,000	
会費収入	35,000,000		役員会費	1,300,000	理事会・常任理事会・各支部運営費・支部総会援助
総利息収入	500,000		支部費	5,000,000	
源江収入	700,000		事務費	700,000	事務局人件費
50周年記念積立金	1,000,000		人件費	7,600,000	
名簿収入	1,066,920		旅費交通費	3,000,000	
			澱江編集費	13,000,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	大学祭・クラブ活動援助
			学対費	2,750,000	
			諸会助成費	700,000	
			50周年対策費	3,000,000	
			名簿編集費	500,000	
			慶弔費	300,000	
			予備費	2,062,837	
合計	46,912,837		合計	46,912,837	





一体となって、母校のますますの発展のために寄与したい……これらのことを再認識して会員各位のなお一層のご協力を……と、開会の辞をかねた挨拶がありました。そして、母校のグリー・クラブ諸君の歌唱指導により、「大淀の水は春ゆく……」と、母校の歴史を語るにふさわしい白髪の親父も孫のような若者も声高らかに学歌を斉唱……。

磯野 斉(3)同窓会会長より「早いもので、50周年記念式典、祝賀会が行われてから1年たった。本年は待望の記念館建設のための募

金活動の実行に入る初年度である。……過去数年間、募金のためのキャンペーン活動をしてきたが、これからが本番なので会員各位の格別のご協力をお願いしたい。……大学と同窓会は、それぞれの時期ともに苦楽をともにしてきたが、今後もお互いに協力しあい21世紀に向け発展のために努力したい。そして、今日の総会が明日への活力になるよう十分にご歓談をいただきたい」との挨拶がありました。次に、ご多用中ご臨席をいただきました鈴木 亨理事長代理・学長先生より、大学の現況と50周年記念館建設、および、50周年記念行事について詳細にご報告をいただいた後、記念館建設募金に関する協力依頼の要請があり、さらに、渡辺達好同窓会名誉会長(法人理事)に学内理事会に定期的に出席をしていただくことになり、同窓会とともに大学が60、70、100年へと発展してゆくことを祈念しているの、より一層の協力を……とのご祝辞をいただきました。また、当日、ご臨席いただけなかった藤田敬三理事長先生のご祝辞が大槻 弘理事先生より代読され、万場拍手で謝意を表しました。

引きつづき、創立50周年を記念して、同窓会に対し今日までご尽力をいただいた諸先生に対し感謝状を贈呈(当日ご臨席いただいた藤原光治郎先生には直接贈呈)、鈴木 亨学長に代理受領をしていただき、また、宇野善四郎理事(1)が16名の同窓会表彰者を代表して受理され、万場拍手、拍手……で謝意を表しました。

恒例により、比企 重事務局長(7)より、当日ご臨席をいただきましたご来賓の皆様、また、支部長のご紹介があり、総会式典を終了いたしました。

別室の懇親会場へ移動。神田 博(30)パーティー委員長の開会宣言。鈴木 亨学長先生、磯野 斉同窓会会長、渡辺達好同窓会名誉会長の「ヨイショ」のお祝いの言葉を背景にした鏡開き、広田 実(1)同窓会相談役の乾杯で、いよいよ待望のパーティーに入りました。

懐かしい顔、カメラのフラッシュ、ワイワイガヤガヤ……本当にこれこそ経大のシンボルである「融和」そのもので、いかなる表現をもってしても尽し得ない光景でした。昨年行われた母校の50周年記念式典・パーティーのビデオが放映されているが、ほとんどの人は話に夢中、呼び出しの声も、この歓談の声に消される……。時がたつにつれ9回卒業の達中が段上で在学中の「数え歌」を歌う頃には、宴も最高潮……。もうこうなると年代も世代もない、それこそ同じ釜の飯を食った輩の集団です。しかし、時計は止ることなく定刻になりました。

母校のグリー・クラブ諸君の道遙歌「ここ城北に迎えたる……」が始まる。肩を組み、その波がゆれる……。参加者全員が一つになり熱いものが胸を横ぎる……。

磯野会長の「万歳三唱」、神田委員長長の終宴宣言、谷口総会特別委員長長の謝意をかねた挨拶で昭和59年度同窓会総会の楽しい一日も暮れました。グリー・クラブ諸君の「蛍の光」のハミングを背中に聞きながら、来年の総会での再会をお互いに約しつつ会場を後にされるご来賓、また、会員の皆さんのご健勝を祈念……。来年またお互いに元気で会いましょう。

この紙面をお借りし、この総会のためにご尽力いただいた皆様からお礼申しあげます。

# 同窓会支部役員

東京支部 支部長 鮫島 圭

東海支部 支部長 加藤 正秋

岐阜支部 支部長 坪内 敏男

滋賀支部 支部長 野田 邦弘

京都支部 支部長 阿部 淑子

北摂支部 支部長 石川 裕

豊中支部 支部長 筒井 英夫

大阪市役所支部 支部長 金子 昭典

西宮支部 支部長 八木 米次

神戸支部 支部長 田淵 栄次

東播磨支部 支部長 永井 宏

姫路支部 支部長 永川 仁一

岡山支部 支部長 村上 一夫

広島支部 支部長 佐々木一義

山口支部 支部長 串田 一

北九州支部 支部長 嶋原 正孝

南九州支部 支部長 宮田順一郎

福井支部 支部長 内田 甫

石川支部 支部長 柚木 繁

富山支部 支部長 重松 尚

香川支部 支部長 和田 憲明

愛媛支部 支部長 小野 茂樹

徳島支部 支部長 伊藤 博

高知支部 支部長 横田 憲介

丹有支部 支部長 梶村 文弥

奈良支部 支部長 松本 孝之

三重支部 支部長 水上 敏夫

泉南支部 支部長 中川 克己

和歌山支部 支部長 松本 旬弘

鳥取支部 支部長 亀井 寛

島根支部 支部長 渡部弘一郎

北海道支部 支部長 田中喜三郎



さて、お隣の岐阜支部と合同総会をもつようになつて、3回目の59年度総会は、11月24日、名古屋市中区綿2丁目の松月本店で開かれました。磯野会長、渡辺名誉会長、比企事務局長、黒正就職部主任というおなじみのご来賓を迎え、両支部から50余人の同窓生が集まりました。毎年忘れずにお越し頂ける戦前・戦中派に混つて、若い層の顔なじみもかなり増えてきた感じであります。

私は全国の支部を回つて、親しく50周年記念募金をお願いをしたい、といわれる磯野会長のこあいさつにも熱がこもつておりました



### 北摂支部の第一回総会 秋には一泊旅行も

事務局長 西城 富夫

1、北摂支部総会について  
当支部は、2月16日(日)高槻市民会館において、大学から泉谷先生、黒正就職部主任、同窓会から磯野会長、比企事務局長を来賓に迎え、発会式とあわせて支部総会を行いました。約25名の同窓生の出席のもと、比企事務局長の多大な協力によつて作成されました会則案が最初に承認されました。支部役員の見出し



### 東海・岐阜合同支部総会の ひと味違う盛り上がり

支部長 加藤 正秋

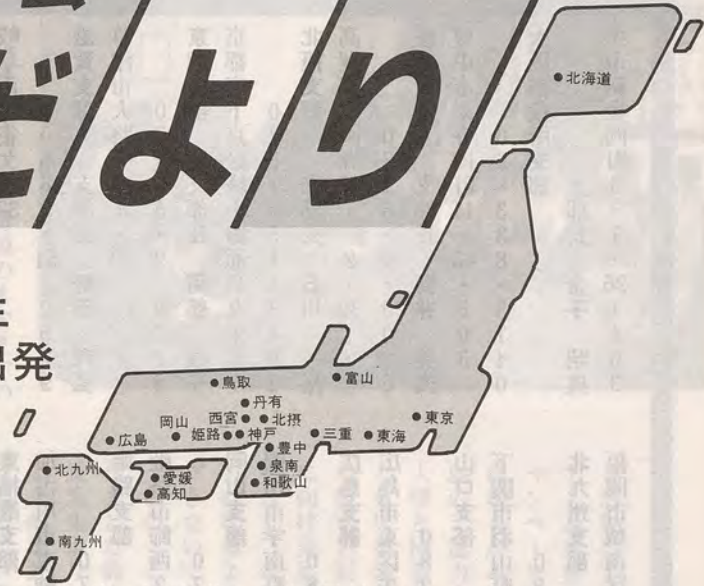
東海支部長を拜命して、かれこれ10年になります。これという業績も残さず、あつという間の歳月でしたが、なんとか大切な母校の50周年行事の協力をなして、後進にバトンタッチしたいと念願しているこのごろです。母校へ尽力したいという私の気持は、別稿で書かせて頂きましたが、東海支部としても、募金を同窓会を考え直す、一つの契機にしたいと願つております。だから余裕のある方ももちろん大口でお願いしたいが、私は一口でも支部全員が協力して頂けることを期待しています。貧者の一灯の結果が、母校と同窓会の活性化に、いかに大切かを身をもって体験して頂きたいと、念願しているわけでありませ

が、会が終わるまで例年とひと味違う盛り上がりが見られました。会場を替えたのも一つの要因でした。ところが、職域グループによるマンドリン合奏と、あとに続いたカラオケ大会がムード作りに役立ったようです。圧巻は比企事務局長と大隅たつみさん(9)のデュエット「浪花節だよ人生は」で、会場はかなりどよめき、オンチの小生にはプロ級の美声と聞きとれました。

さて、この総会でもう一つ特記したいのは、静岡市からお越し頂いた国西良昌さん(9)の特別参加であります。かねて岐阜東京支部長から、静岡がどちらの支部に属しても、総会出席にはかなりの時間がかかる。だからどちら



# 同窓会 支部だより



## 北摂支部、豊中支部が誕生 徳島支部、鳥取支部は再出発

同窓の諸兄諸姉には、相変わらずご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。又全国に数多く存在する支部の活動も、年々隆盛を極めていくとのことで、同窓の一人として喜んでおります。

さて、昭和59年度東京支部総会の模様をご報告致します。開催日は、支部規約通り10月19日(金)、場所は、新宿新都心高層ビル街のホテルセンチュリーハイアットを選びました。出席ご返事の方々の状況から推測して、久しぶりに100名を超えるかなと楽しみにしておりましたが、出席予定の方々の内約20名が、当日急用の為欠席となり、人数とともに運営費の面で幹事一同ヒヤリと致しました。大学からは北崎教授が、同窓会本部からは磯野会長、比企事務局長、松本副会長がご出席下さつて、大学、同窓会の近況、創立50周年事業内容等、色々のお話を聞かせて戴き、総会是非常に盛り上りました。又東京支部の幹事長西山昭吾さん(10)のお世話で、最近人気急上昇の落語家金原亭伯楽師匠の特別出演もあり、その巧みな話術に、会場は爆笑また爆笑の連続でした。昭和60年5月15日、西山さん経営の「いさり火」(電話 )で、緊急幹事会が開催されました。舟橋義也(3)・服部友一(10)両相談役を初め20名が出席し、4月20日大阪で久しぶりに開催された大学招集による全



### 新宿新都心で支部総会 金原亭伯楽師匠も特別出演

東京支部 支部長 鮫島 圭

国支部長会議の様相報告、創立50周年記念館建設募金活動への東京支部としての対応について、熱心な討議が行われました。その結果住所確認済の支部員約600名に対し、個人による募金応諾を、支部長名で呼びかけることに決定しました。呼びかけの文書は、名簿の整理・通信費等の関係から、発送は8月中旬となる予定ですが、支部員のご協力を、誌上を借りてあらためてお願い申し上げます。

昭和60年度東京支部総会は、10月25日(金)を予定しています。毎年出席メンバーが増加し、益々盛大な総会とするべく幹事一同熱望しています。支部の皆さまのご協力を、重ねてお願い申し上げます。



連絡先

鮫島圭 (高砂熱学)

鮫島圭 (自宅)

伊藤 (高砂熱学)



筆頭に事務局の方がたのご協力あったればこそと、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

2月の総会後、現在まで具体的な事業は行っておりませんが、秋ごろには一泊または日帰りの親睦会を予定しております。また、創立50周年記念募金に対する支部の取り組み等、早い時期に役員会を開き、親睦会のアピールかた等を検討していきたいと思っております。なお、総会に都合上出席できなかった支部会員への連絡も留意して、支部の輪が少しでも広がっていくことに努力していきたいと思っております。

式次第

- 第1部 北摂支部発会式
  - 開会宣言
  - 議長選出
  - 審議事項および協議事項
    - (イ) 規約の件
    - (ロ) 役員選出の件
    - (ハ) 顧問選出の件
  - 支部長挨拶および役員紹介
  - 閉会
- 第2部 北摂支部総会
  - 開会宣言
  - 学歌斉唱
  - 物故者黙禱
  - 支部長挨拶
  - 来賓祝辞
  - 逍遙歌斉唱

○閉会

- 第3部 懇親会
  - 北摂支部会則
  - 第1条 本会は大阪経済大学同窓会北摂支部と称する。
  - 第2条 本会は高槻市・三島郡 在住者及び在勤者の母校卒業生をもって構成する。
  - 第3条 本会は会員相互の融和 親睦を計り 地域社会に貢献するとともに 母校の発展に寄与することを目的とする。
  - 第4条 本会は下(左)記の役員をおく。
    - 支部長 1名
    - 副支部長 若干名
    - 事務局長 1名
    - 幹事 若干名



会計監事 若干名

- 第5条 支部長は支部を代表し 会務を統括する。また会議の議長となる。副支部長は支部長を補佐し 支部長事故あるときはその代理をする。事務局長は支部長 副支部長を補佐し 会務を掌理する。幹事は支部のすべての会合の運営にあたる。会計監事は収支決算を行う。
  - 第6条 本会には 名誉会長 相談役 顧問を総会の決議によっておくことができる。
  - 第7条 支部役員は総会において支部会員のなかより選出する。
  - 第8条 各役員は任期は3年とし再選を妨げない。
  - 第9条 定期支部総会は毎年1回とし 本会に關係のある重要事項を決議する。ただし決議は出席者の過半数をもって決する。ただし可否同数の時は支部長の決するところによる。
  - 第10条 会員は住所 氏名 職業 勤務先 電話番号等 一身の上の変更を生じた時 速やかに本会に連絡しなければならぬ。
  - 第11条 本会の運営は 本部よりの運営費および寄付金をもってあてる。
  - 第12条 この会則に定めなき事項で運営上必要なる事は役員会において決める。
  - 第13条 この会則の改正は 総会の議決を経なければならぬ。
- 総会 毎年2月の第3土曜日とする
- 役員名簿

顧問	二宮清次(3)	0726・85・8131
	田宮喜治(8)	0726・96・1039
	安立 健(9)	0726・89・5177
支部長	石川 裕(28)	0726・88・0026

副支部長	佐藤健治(2)	0726・85・0049
副事務局長	村井三夫(25)	0726・72・3103
事務局長	西城富夫(41)	0726・74・0271
幹事	青木泰郎(33)	0726・75・2891
監事	谷丸八郎(35)	0726・93・9169



7月21日に豊中支部誕生 記念講演に深い感銘

豊中支部 支部長 筒井 英夫

4月初旬ごろ、大学広報部の前田悦子(13)係長から豊中市在住の卒業生による豊中支部を結成したいから、その打ち合わせに参加してほしいとの連絡があり、4月25日阪急豊中駅前「まつ本」に出かけていきました。そこには数人の卒業生がきており、前田係長から486名のOB名簿を見せていただいて、この豊中市に既に500名近い卒業生がおられることにびっくりしました。そして、この人がとが大阪経大卒業生として、相互理解と親睦を深め、さらには各々の分野で活躍されている事業等を、より一層発展のため、情報交換場所としての役割を果たすことができるならば、支部づくりは非常に大事なことでないか、との思いが出席者一同の考えとなりました。

早速、発起人会を発足させ、支部結成への準備に取り掛かることになりました。大学同窓会事務局の全面的な協力とご指導をたまわりながら発起人会で「7月21日豊中市民会館において、結成式を開催する」ことを決定しました。発起人会としては、その後5月14日、7月7日、7月14日の3回にわたる会合をもち、創立総会・記念講演会・結成祝いパーティ開催準備のため、当初6名から呼びかけて、会合のたびに輪を広げ17名の発起人が顔を揃えていきました。発起人は各自日常業務多忙なかを、役割任務分担を図りながら、支部結成への情熱を燃やし7月21日の本番へ向いました。

しかるに7月1日の出欠締切日には、意外にも発起人を入れて参加者は僅か31名という状態でした。当初、卒業生の約2割方(約100名位)の参加者を見込んで予想していましたが、急拠、発起人一人ひとり名簿を片手に、電話作戦でご参加方をお願いしました。当日はやっと51名の参加を頂くことになり、大学当局および同窓会本部、またお祝いにはせ参じて頂いた近隣支部の方がたを含め、63名により支部結成式を開催するにいたりしました。

お陰をもちまして、創立総会はお出席の皆さまがたのご協力により、スムーズな議事運営により無事に終了、次いで記念講演として北崎豊三先生から「近代大阪の研究と菅野和太郎先生」

と題してご講演いただき、菅野先生の学者的生涯について感銘を深くしました。続いて出席者全員による記念撮影。8回卒業の川吉一郎氏の乾杯で立食パーティを開宴しました。お互いに初対面であっても、同窓生のよしみで、いつの間にか話の花がちらちらに咲き、近くの椅子を各自が取り寄せ、座談的な雰囲気でごやかに行われました。宴会途中では、近隣支部の奈良支部理事、事務局長、北摂支部の石川支部長、京都支部の阿部支部長から、各々お祝いとお言葉の頂戴を頂きました。13回卒業の松田泰子女史による「愛の讃歌」の弾きがたり、会場は一層華やきをまし、さらに15回卒業の松川圭一氏(逍遙歌作曲者)の指揮により、学歌と逍遙歌(正調)を全員で斉唱しました。ことに、逍遙





歌の由来等について、初めて松川氏からお聞きする等、楽しい有意義な集いでした。

願わくば、当日欠席された豊中市在住の卒業生の皆さんが、一人でも多く本席に参加していただけたら、もっと楽しい思いができたのではないかと思います。10回卒業の北之坊治夫氏の音頭で万歳三唱、有意義なひとときが閉宴となりました。

このたびの創立総会で、不肖私 筒井英夫(1)が豊中支部初代支部長という大役を仰せつかることになり、その役割の重大さに身の縮む思いであります。支部結成の目的達成のため精励し、皆さまのご期待にお応えしたい



### 八木支部長、西宮市長に再選に 支部一丸となって全力投球

副支部長 黒才 洋

創立50周年記念館事業に伴う募金活動が実行段階となり、西宮市支部も及ばずながら同窓会発起人となっておられる該当者30名(西宮・宝塚・芦屋在住者)の諸氏に対して、支部長から積極協力をお願いし、支部挙げての募金活動に取り組んでおります。

昭和59年度西宮市支部総会は、10月22日(土)午後6時から西宮市民会館(市役所南側)を会場として開催いたしました。

総会は、八木支部長が開会あいさつの後、大学側からご臨席いただきました大槻理事のご祝辞と大学の近況報告を頂きました。同窓会本部からは磯野会長、比企事務局長、谷口総務部長が出席され、会長からごあいさつを

と存じますので、何卒よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

どうか卒業生のお一人おひとりが、さらに一層のご健勝とご多幸であられますようお祈り申し上げますとともに、今回の支部結成に当たってご指導ご鞭撻たまりました大学当局、および同窓会事務局関係者、ならびに本席に錦上花を添えていただきました奈良支部、北摂支部、京都支部、さらには祝電をいただきました西宮支部の方がたに対し、衷心より厚く感謝御礼申し上げる次第でございます。まことにありがとうございます。

引き続き、去る1月下旬に発会しました「八木米次を励ます会」総会を開催しました。

八木支部長は、昭和55年11月に西宮市長の要職に就任されて以来、早や4年、来たる11月11日(日)の市長選挙に再選をめざして出馬を表明されました。



### 支部の活性化をめざし 新支部長に田淵栄次氏(21)を

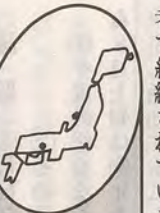
神戶支部 常任世話人 奥村 儀弘 (24)

神戸支部は昭和23年に結成発足し、その後一時活動を停滞していましたが、昭和40年4月に組織を改め、新発足して本年で20周年に

(木)ここ数年会員になじみ深いタワーサイドホテル、5階パールの間で午後6時から開催されました。

出席人員は来賓を含め52名で、事務局の小山氏の司会により、町田支部長のあいさつで始まり、ご臨席の藤原名誉教授、玉岡大学事務局長、黒正就職部主任、同窓会本部の磯野会長、比企事務局長から大学創立50周年記念事業、昭和59年度入試結果、就職状況、同窓会本部および各支部の活動状況など、あいさつをかねたご説明を承りました。また特別来賓として八木西宮市支部長(西宮市長)のご臨席をたまり、丁寧なお祝いのことばをいただきました。

議事にはいり、支部長交替については田淵氏を新支部長として、満場一致で選出。就任あいさつのおと、懇親会にうつりました。初めての出席者もあり全員が自己紹介をかね、近況についてテーブルスピーチを行い、お互いに旧交を温め、楽しいうちに時間のたつのを忘れました。終りに出席者全員肩を組みあい、学歌、逍遙歌を学生気分にかえって斉唱、最後に母校の発展を願って万歳三唱、午後8時30分無事終了しました。



### 支部総会に36名参加 50周年記念募金を議題に

姫路支部 支部長 永川 仁一

数が多いため、総会案内状発送も十分徹底を期すことができない現状にあります。また、発送数の割に出席者が少なく、40名から50名程度に止まっているのは残念でなりません。そのうえ出席者の顔ぶれはほとんど同じ、とくに若い人たちの参加が少ない状態です。この低迷状況を打破するため、常任世話人の増強のみでなく、市内在勤の職域を核として、組織の強化を図るのも一策であると考えます。今回の支部長交替に伴ない、事務局体制も一新することになりました。現事務局小山氏は過去10年間、支部運営にご尽力いただきましたが、交替することになりました。

新事務局は、神戸市役所内に経大同窓生で組織する大樟会(会長西沢幸雄(2)、会員50名)が中心になり、支部運営に支援する体制をとりたいと思っております。

神戸市は昭和64年には市政百年を迎えます。国際港湾都市、産業都市、ファッション都市、「世界にひろがる神戸」として大きく躍進しています。本年8月にはユニバシアード神戸大会や、グリーンエキスポが開催されます。

本支部としては、今後とも会員相互がよく連携し、地域社会の発展と母校の発展に微力ながら努める所存です。支部会員のみなさん支部活動に今後一層のご支援、ご協力をよろしく、誌上をかりて心からお願いたします。

○昭和59年度定例総会 神戸支部昭和59年度定例総会は、11月22日

○昭和59年度同窓会姫路支部の総会ならびに



記  
日 時 10月5日(金)  
午後6時40分から

二場 所 姫路駅前ロイヤル  
出席者 大学から泉谷理事、黒正就職部主  
任、同窓会本部から磯野会長、比企事務



### 燃えろ岡山ノ燃える経大 津山地区グループの組織化も

岡山支部  
支部長  
村上 一夫

支部活動のためには、支部の組織作り、グループ強化が第一条件と考え、会員諸兄ならびに新役員の方がたと、日常活動の強化を申し合わせました。まず、先般みなさまのご努力で出来上りました「岡山県支部会員名簿」の徹底配布を地区幹事諸兄に依頼しました。数カ月の間に、各地区世話幹事の方がたから多数の申込注文があり、ほとんど売れましました。とくに東部担当の岡本健也氏(23)のご奮闘には、心から感謝しています。未だ十分ではありませんが、大体名簿が行きわたり、お互いの連絡、座右の名鑑として、支部会員がご活用下されば、同時に支部と各幹事との連絡も密になるものと、役員一同よろこんでいる次第でございます。

今年2月、願望の岡山市役所経大会(代表、山田録二郎(11)14名)の発足総会があり、岡山県支部に第1番目のグループが出来上りました。中塚節也氏(24)他の皆さまがたに心から敬意を表します。

局長、支部会員36名 合計40名  
一議題 (1)母校50周年記念の募金について (2)その他  
60年度の総会ならびに懇親会は7月下旬から8月上旬に例年のように幹部協議のうえ、決定し通知することになっています。



を中心として、「青」「老」の諸兄50数名が、同窓会旗の下に集合しました。

最終打合わせを行いました。昨年の支部総会の時、来年こそは出席者を最低50名以上を目標にすると宣言した経緯もあって、きめ細い打合わせをしました。

さて、60年度支部総会の案内状を発送したものの、申込期限までの出席連絡は僅か12通のみでした。案内状発送数は約1、200通で、そのうち移転等不明分43通が戻って来て、出席通知は12通だけでした。今年は昨年と違い、一年間の新役員の方々の名簿配布、横の連絡、組織づくり等並々ならぬ地道な努力が基盤であると確信し、全役員が緊急電話で動員連絡をとりました。その結果、総会数日前に100名には達しませんでした。50名を突破する確報を得、役員一同ほっとした次第です。

り、全員で校歌を斉唱、有意義な2時間を定刻まで過ごしました。

その間、竹本巧氏(37)から津山地区(北部)に経大会グループを是非作りたい旨の発言があり、地区幹事および有志とともに、今年中に発足の予定であります。他地区でもどしどし経大会グループを組織してほしいと思えます。

とくに今年「燃えろ岡山ノ燃える大阪経大」をあい言葉として、母校の募金活動を中心に全役員および支部会員の皆さまが一丸となって協力していきましょう。来年に向かって、日常活動・組織作りは格別のご後援とご努力を賜りますよう、切にお願いいたします。

- 今年からは総会出席の会員名を掲載いたします。
- 60年度岡山県総会出席者名簿○印は支部役員
- ⑥ 大森喜太志 11 山田録二郎
  - 7 高尾 勝郎 ⑫ 村上 一夫
  - 〃 久保雄一郎 〃 定本 良重
  - 〃 内藤 喜一 〃 中張 幹三



### 曲り角に来た 支部総会

今年去る7月27日(土)、新装なった広島市紙屋町の広島県民文化センターで支部総会を開催いたしました。

### 広島支部 支部長 佐々木一義

あったことを支部長として責任を感じるとともに今後の支部運営のあり方について抜本的に「どうあるべきか」を考える曲り角に来ていることを痛感させられ、目下猛反省をしている次第です。

- 12 藤田 康政 ③⑤ 塩尻 康勝
- 〃 藤原 大八 〃 小野 隆
- 14 尾谷 耕平 ③⑤ 渡辺 肇
- ②③ 岡本 健也 〃 原田 裕吉
- 24 中塚 節也 〃 広末 修
- 25 小山 矩夫 36 入谷 貞治
- 26 小野 甫 〃 高畑 明正
- 〃 香取 進 36 内山 正彦
- ②⑥ 月田 武士 37 石井 伸一
- 28 高島 典治 37 竹本 巧
- 29 石川 恒雄 〃 平田 章
- 〃 戸田 哲古 〃 田淵 和男
- 〃 相木 和巳 39 波多 伸司
- 31 小林 俊介 〃 大森 幸政
- 〃 本城 護 41 三宅 誠一
- 32 木庭 洋介 〃 正田 卓司
- ③③ 岡本 勝也 42 影山 宜正
- 〃 堤 一浩 ④④ 直原 武司
- 33 岡本 直樹 〃 福江 建二
- 〃 関場 佑治 45 在本 要
- 35 谷本 和彦 48 岡崎 利彦
- 35 平田 仁之



基本的には、45年前の「ロマン多き高商生活」から未だ脱皮し切れないところの一つの問題点があるのではないかと考えられる。

（なにかメリットがあれば出席するが、現在のように寄付金云々の話のときには敬遠するというケチな考え方）時代の推移が母校への帰属意識を失わせたか、あるいはそれだけ母校が卒業生を引きつける魅力を失ったか。大学とともに考える時にきているともいえる。



地方と二つあり、今後の総会開催地を隔年毎に広島、備後地域での開催に決める。(3) 支部の場合も各回に幹事を1名お願いする。

最後に、大学当局をお願いしたいこと。◎運動部、特に硬式野球部の強化、すなわち、60年秋、おそくとも61年春には神宮大会



### 紅一点、酒井さん出席 会場は明るい雰囲気

北九州支部  
支部長 嶋原 正孝

60年度北九州支部総会は、恒例により大学の入試に合せて2月9日、福岡市のセントラルホテル・フクオカ(矢野明良氏(勤務先)において行いました。

大学から内海教授ほか職員二方、同窓会本部から磯野会長、川野副会長をお招きしました。

当日の出席者は総勢50名、大変なごきわいでした。とくに男性中心のなかで、酒井うたえさん(30)が紅一点として出席していただき、明るい雰囲気をつくっていただきましたこと、有難く、感謝しております。できることならこれから毎年、ご出席くださいますようお願いいたします。

毎年のことですが、地元出身の方で、社会人として或いは経済人として確固たる地位のある方がたの出席が少ないのが、世話役として残念でなりません。何とか、同窓会の意のある所をご理解いただき、積極的にご出席下さいますようお願いいたします。

より、城山観光ホテル「滝の茶屋」で本年度の支部総会を開催いたしました。大学および同窓会より、母校の現況と50周年の記念事業とくに、記念館建設に関する募金のお話があり、出席者全員お互いに身分相応の寄付をし、母校発展の一翼を担う決意を新たにいたしました。

親父、渡辺名誉会長の音頭により焼酎で、まず乾杯し、お互いの健康を祝しました。後は、もう、例によって、焼酎の盃がみだれとび、積る話に花が咲き、いつはてるともない南九州支部独特の懇親会風景が続きました。今年、新しく初めて出席された二、三の会員から、こんな楽しい会合があるのを初めて知った。来年からは必ず参加しますとの発言もあり、満場拍手。

これだけ盛りあがりのある中で何か物足りなさが……と思うと、何時も名司会をしていただく森征一郎さん(35)と鶴田さん(33)と一緒に陰武者役をしていた吉村勉さん(45)の顔が見えないことでした。しかし、宴たけなわのとき、森さんが、まず、イヤ、遅れて……と、顔を出され、それと前後して吉村さんがコソソリと……見てびっくり、聞いてびっくり、あの吉村さんが何処で射止められたのか、美しいフィアンセ(ヨカ、オゴジヨ)を同伴で出席、拍手の鳴りやまず、宴は最高に盛りあがりました。

吉村さんおめでとう!!  
本当に、南九州支部総会は楽しい総会であると自負しています。

に出場できるようにしてほしい。(広島で広島商業が甲子園に出場しても5、6000万円の寄付が集まりますよ)

◎濠江がお手元につく頃には、大阪の街はタイガース優勝で町中が燃えていることでしょう。(広島のカップファンからおめでとうとお祝い申しあげます)

残念なことですが、29回卒の山県崇由さん(小西(写真工業(勤務先)が4月1日付でもって、東京に転勤されました。長年のご協力ありがとうございました。

なお、今回38回卒の司城孝志さん(勤務先建設福岡支店)が新たに入会されましたので、支部の皆さまがたにお知らせいたします。



### 桜島の降灰を吹きとばす 盛大な支部総会開催

南九州支部  
支部長 宮田 順一郎

気象台観測史上はじめてといわれる長期間にわたる桜島の降灰は経験された人でないと筆舌には尽し難いものです。いつかの「濠江」で、静と動の桜島をご紹介いたしました。今回はその「動」の姿そのものです。

市電が、バスが走れば、それはまるで砂漠の中を行くような灰煙で30メートル先が視野から消える状態です。木々の葉も真白。自動車の屋根も何ミリの灰を積んだままの走行。

学歌、逍遙歌を声高らかに歌ったが、去り難く、降灰の激しい市内の二次会場へ。タクシーを降りると、道路はまるで田圃のようになっています。夜ともなれば繁華街では灰の舞いあがるのを防止するために打水をする。それが、積った灰を泥田の状態にするわけです。それでも、ズボンを引きあげながらソロリソロリと目的の二次会へ。カラオケで歌い、飲み大気炎を上げて来年の再会を約して、夜更けとともに支部総会も終わりました。

宮崎の大盛さん(23)、また、創始者の一人である伊伏さん(23)、その他、本会にご尽力いただいた皆さんに心からお礼申しあげます。特に、前蘭ご兄弟(34)には支部会員を代表してお礼申しあげます。

来年も一人でも多くご参加下さいますようお願いいたします。  
われらが親父も兄貴もお元気で、また来年お目にかかれることを楽しみに……。



### 活気あふれる支部総会 記念事業募金のよびかけ

富山支部  
支部長 重松 尚

昭和60年度富山支部総会は7月14日(日)午後3時より富山市にて開催されました。国鉄富山駅北側にある「ポルファート」とやま「8階の総会場には、富山県在住の30有余名の支部会員の皆様方が参集され、また、ご遠路しかも何かとご多用の中を同窓会本部より松本義和副会長、比企重事務局長、大学より法人理事の大槻弘先生、経営学部長の松



今後とも、皆さまがたのご協力をお願いいたしますとともに、ご健康をお祈りいたします。  
連絡先 嶋原正孝( )



尾竹彦先生のご臨席をいただきました。総会は、事務局長の高橋努氏(34)により開会され、まず、支部長の重松尚氏(23)より「母校創立50周年を迎えて、各種の記念事業実行に対し、支部会員相互の一層の結び付きを強めながら協力していこう」との挨拶があり、また、すでに、富山支部独自で28名の発起人を選出し「記念事業募金のよびかけ文」も出



されているとの報告がありました。つづいて、本部の松本副会長から、本部や各支部の状況についてのお話や、記念事業に対する取組みのご報告とご説明があり、本部と支部の連携を強化しようとの熱意を込めてご挨拶がありました。

そして、松尾先生から、母校の近況、とりわけ教学面につき、現代社会は、産業構造の変化、情報化社会の進展、各分野における国際化など、21世紀にむけて大きく変動しており、時代の進展に対応した大学教育の実現を目指して、長期的視野に立って検討を行った結果、カリキュラムを改訂し、近代化(情報処理概論、実習等の講義開設を中心とした情報化時代に対応した内容)されたこと、更に、入試状況につき、受験者数の増加や経済、経営両学部共に倍率がアップしたこと、および推薦入学制度が定着しつつあること等につき将来の展望も含めて報告されました。また、記念事業の推進をご担当され、日夜ご苦労されている理事大槻先生より、本学50年の歴史と現状をまとめた「半世紀のあゆみ」や西武流通グループ代表、堤清二氏による記念講演会記録「21世紀への活力と展望」等各記念事業に係わる資料説明や、本年2月、すでに着工のはこびとなった「50周年記念館」につき計画図に基づいて微に入り細にわたるご説明を聞き、当記念館は、同窓会の発展及び大阪経済大学の今後の教育、研究の充実ははかる上で不可欠な殿堂であるとの理解を参加者一同深めることができました。あわせて、記念



### 在校生も含めて、ビアガーデンで総会

香川県支部  
会計 藪内敏裕(39)

昭和60年度大阪経済大学香川県支部総会は、暑い盛りの7月27日(土)午後6時母校理事會を代表して北崎教授、八木田教養部長、黒正就職部主任、同窓会よりご多忙中にもかかわらず、磯野会長のご出席をいただき、岡野先輩が総支配人をされている、ホテルリッチ高松の屋上ビアガーデンにおいて開催されました。和田支部長の挨拶に始まり、大ジョッキにて母校の発展、出席者のご健勝を願う乾杯、ご馳走を目の前にフリードリンク制のためか皆のジョッキはおかわりの連続。同窓会旗も屋上で瀬戸の風をうけ、ひらりひらりとた

事業募金についての概況と進展状況につきご報告があり、本学の輝かしい伝統と歴史の重さを感じるとともに、微力ながらもこの記念事業の完遂への協力を心に誓うものがありました。最後に、比企同窓会事務局長から近況報告や同窓会記念事業として同窓会旗の作成等のお話がありました。各種の報告事項も順調に進み承認を得ましたが、特に、事業報告では、6月7日(金)に金沢市で行われた、学長鈴木亨先生の寸心忌講演会に富山県支部からも参加し拝聴する機会もあり、本当に有意義であったとの報告がありました。

総会も無事閉会し、会場も4階「翡の間」へ移動し、待望の懇親会となりました。まず、会員各位の自己紹介とともにそれぞれの思い出や抱負を語り、会も盛り上がりました。酒をくみかわし、歌い、談笑しながら、和やかな雰囲気のもと、時間を忘れて楽しみました。そして、学歌、逍遙歌を斉唱し、万歳を三唱して、来年の再会を楽しみに閉会しました。ご来賓の方々、ならびに、ご参加いただいた支部会員の皆様から感謝し、お礼申し上げます。

へと移動。須和副支部長の進行で磯野会長のご挨拶、北崎教授の大学の近況、黒正主任より就職状況等のお話があり(八木田教養部長は急用の為帰阪)。最後に水野(市会議員)先



### 愛校心に燃えた学友が西条に集う

愛媛支部  
事務局長 宮崎 望

本年は開催地を西条市に移し、去る9月8日(日)午後3時、レストラン「黒猫」ホールで、定刻より若干遅れ、宮崎事務局長の司会で本年度の愛媛県支部総会を開催しました。

飯尾副支部長(2)の開会宣言に引き続き、物故者に対して黙禱を捧げ、「大淀の水は春ゆく...」と学歌を斉唱した後、小野支部長(2)の挨拶で総会の幕をあげました。

小野支部長より「われわれは身分相応の範囲において、50周年記念新館建設のための募金に協力したい。また、われわれのこの支部は誕生してまだ2年にしかならないので、これからいろいろな経験をjして母校の名を恥しめないような支部にしたいので支部各位のより一層のご協力を...また、西条地区の幹事さんに感謝の意を表します」との挨拶のあと、当日ご出席いただいた佐伯(1)、久米(8)両顧問をはじめ役員各位の紹介が宮崎事務局長よりされました。

本日の総会のためご多用中ご遠路ご臨席をいただいた磯野同窓会会長より、また、松尾経営学部部长先生、田所総務部長、石井就職

輩よりOBの気がまえ、就職希望者には入社試験のアドバース等のお話があり、黒川先輩の音頭で再会を約し乾杯で閉会となりました。

部次長より、それぞれのお立場から母校の現況、記念館のご説明、あるいは、就職の状況など、われわれ遠隔の地に居住する同窓生にとつては、すべてが懐かしく聞かせていただきました。磯野会長の「新館建設の募金には同窓会パワーを結集しようではないか!!」とお話には参加者一同が心に誓うものがあったと思います。最後に、われらが兄貴、比企事務局長より名簿発行のお話があり、お互いに協力することを約しました。

これで総会が終わったと思っていたら、最後の比企局長の「諸君らは、もつと大学の現況を冷静に、客観的に再認識して、母校の発展に寄与して欲しい」との要請が発端となり、小野支部長より「女子学生の集まる学部を増設して欲しい...、現代若者の意識をいつまでもアカデミック一辺倒で引きとめられるか...」との発言があり、松尾先生、田所部長、磯野会長が、それぞれのお立場より発言されましたが、それぞれが母校に対する熱意の発言であるだけに尽きるところがないほど熱っぽい状況でした。そこで、現役の新居浜南高の眞鍋一美先生(2)(支部監事)の発言を求めまし

た。先生の「高校生の大阪経済大学に対する評価低下、その理由は...」(同窓生の皆さんおわかりでしょう。そうです!!)説明でこの論争もやつと終り、戸田副支部長(3)の閉会の辞でやつと総会を終りました。本当に充実した総会だったと思います。

本年卒業の小橋君の乾杯の音頭で懇親会に入りました。これは多くを語る必要はありません。本当に、なごやかに、何時もの通り、ワイワイガヤガヤ...カラオケのマイクが回る。正に宴たけなわ...しかし、時間はとまらない。肩を組み逍遙歌を歌い、万歳三唱をして来年の再会を約して散会しました。

この紙面をお借りして、ご来賓の皆様、また、役員の皆様からお礼申しあげます。去り難い有志がナイト・スクールに集り二次会。肩のついていた石をおろした思いでした。楽しい二次会でした。小野支部長に心からお礼を申し上げます。







### 故谷支部長の遺志を継ぎ 徳島支部再出発!!

徳島支部 発起人 河野 昭夫(25)

徳島県在住の同窓生の皆さん 徳島県人の「融和」の心を全国の皆さんに示そうではありませんか――

徳島支部を設立された、今はなき谷さんのご遺志を引き継ぎ、徳島支部の再出発を毎号の「激江」で比企事務局長から呼びかけられて、はや何年かが過ぎてしまいました。

その間、比企事務局長や他の方がたなどが徳島県在住の諸氏に再出発を呼びかけられたのですが、それも意のままにならず現在にいたっていたようです。

ある日、「私のようなものでもよかつたら、徳島支部再出発のお役にたきたい」とと本部事務局に申し入れました。

ところが、4月13日(土)、突然、比企事務局長が徳島に來られ、駒田氏(37)、喜多氏(40)と私の4人でテーブルを囲み、懇談の席上、徳

### 高知支部総会に参加して

事務局長 比企 重

今年の高知支部総会は、例年よりも早く、5月25日(土)午後6時30分より、横田支部長がオーナーである高知駅前「高知第一ホテル」で開催されました。

恒例通り、支部総会に先立ち、これまた支

島支部設立から現在までの比企事務局長のご尽力を拝聴するとともに、私ら3人に再出発の発起人になるよう強力に要請された。その熱意にほだされ、若輩ではあるが、取りあえずわれわれ3人が再出発の発起人をお引受けした次第であります。

比企事務局長の母校ならびに同窓会に対する熱情には、ただただ「敬服」の一言に尽きる。われわれも、今後は努力して徳島支部の再出発に尽力し、全国の支部の皆さんとともに、母校ならびに同窓会の発展に寄与したいと思っております。

ここに心から比企事務局長のご熱意に敬意を表するとともに徳島県在住の同窓の皆さんのご協力を切望してやみません。

部長経営のバシフィックG・Cでコンペが行われ、本部から磯野会長、渡辺名誉会長が参加されました。総会には母校より成瀬(理事)先生、八木田教養部長、黒正就職部主任、同窓会より磯野会長、渡辺名誉会長、比企事務局長が参加いたしました。

定刻、野崎幹事より開会宣言がありました。総会に入る前に本日のコンペの優勝者を発表します。渡辺名誉会長さん、おめでとう

えたる……と蜜声をはりあげて閉会されました。

高知支部の一つの特色は、ここから始まる二次会にあると思います。横田支部長の全面的なご好意により、ホテルの地下のバーで二次会が開催されますが、今までのワイワイ、ガヤガヤと異なつて、この地下の二次会では、母校への檄、本音の進言、また、同窓会への忠告など、懇談会のとときのそれとは全然違い、愛校心が爆発した、熱気のもつた発言が飛び交うということがそれです。

血の気は多いが、あとはサツパリしているのが土佐っ子の気性なので、この二次会も、自分の言いたいことを言い、ある程度納得できれば、一人去り……というように自然閉会になることもあります。今年50周年記念館の問題もあり、土佐っ子らしくキツパリと閉会されたのが印象に残りました。

幹事の皆さんに心からお礼申し上げます。また、来年もよろしく願います。高知支部の皆さんのご健康を祈念しつつ……。

### 徳島支部総会開催のお知らせ

今はなき谷支部長のご生前の郷土愛と、同窓の絆に対するご熱意にお報いするためにも、長らく開催されていなかった徳島支部総会を開催したいと思っております。是非とも、万障お繰合せのうえご参集をお願い申し上げます。そして、谷支部長が夢を持っておられた「阿波踊り」での「経大連」の復活をご霊前にご報告したいと思っております。

なお、この会合に関して何かご意見がございましたらお聞かせ下さい。

- 発起人 河野 昭夫(25)
- 駒田憲次郎(37)
- 喜多 輝光(46)
- 発起人代表 河野 昭夫(25)

(本部事務局よりお願い)

右記のように河野昭夫氏を代表に、若い層の卒業生が再出発に対し熱意を燃やしてくれておりますので、先輩諸氏のかからへの絶大なご支援をお願い申し上げます。

事務局長 比企 重



### 卒業生、在校生一体で 意気あがる35周年記念総会

丹有支部 支部長 梶村 文弥

風にそよぐコスモスが秋の前奏曲をかなでている今日このごろ、皆さまにはますますご健勝で、ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

われわれの支部は、昭和25年4月に最も古

い支部の一つとして創設されました。歴史も古く、地域の高校卒業生で大阪経大に学んだ者と、当地在住・在勤等の同窓生が会員という、大変ユニークな組織であることは、ご承知いただいているものと思っております。



ところが、名称が適当でないのか、PRが不足なのか、知名度が低いようで、過日、同窓会理事会の際に、ある支部長から「丹有つてどこにあるんですか」と尋ねられ驚きました。古くから丹波と有馬から、丹有地区と行政上からもいいますので、支部の名称にしてはいるわけです。兵庫県の北東部の京都府と一部大阪府に接した、三田市・多紀郡・氷上郡をその範囲にしています。



ましたが、ここまで会員を把握できたのは、本部事務局のご親切な指導と援助、それに会員の皆さまのご理解とご協力のたまものだと感謝しております。

さて、昭和59年度総会は、創立35周年記念総会として、次のとおり盛会に開催することができました。

とき 昭和60年2月3日(日) 午前11時  
ところ 水上郡柏原町・喜作  
出席者 62名(大学・本部来賓4名)

昨秋から支部役員会を開いて、各種の事項とともに意義ある記念総会の成功策について協議し、支部活動の活性化に取り組んでまいりました。

当日は、地元はもちろん大阪、神戸、宝塚などをはじめ、このたび初めて福知山市からも新規加入の2名の方が参加してくださったし、大学・本部からも来賓をお迎えして、会場の広間にぎっしりと詰まった会員の熱気と喜びのうち、会が始まりました。

学歌斉唱の後、足立副支部長が水上地区での総会開催にいたる経過を述べ、支部長の「35年間の回顧と喜び」の挨拶と続きました。次いで、大槻先生からはお祝いと大学の現状や今後の方途と計画などのお話があり、磯野会長のご懇篤なご祝辞と同窓会活動の近況や、母校創立50周年事業ならびに募金についての説明と、協力の要請がありました。比企事務局長は歯切れのよい表現で、要領よく同窓会および大学の事情を、また松本副会長は就任のあいさつと抱負を述べられ、それぞれ記念



### 泉南支部総会・旅行会 ゴルフ会にご参加下さい

泉南支部総会を6月16日(日)に岸和田市内の結婚式場「ロイヤル宮殿」において盛大に開催いたしました。

大学より大槻弘 理事・教授、松尾彦彦 経営学部長、黒正明 就職部主任、また、同窓会本部より磯野 斉会長、渡辺達好名誉会長、比企 重 事務局長、西本集一広報部長等多数のご来賓をお迎えし、参加者20数名の同窓生の皆様と楽しい一時を過ごすことが出来ました。泉南支部におきましては、第一回卒業の旭紡績会長、藪内正博氏を初め多数地元で活躍されておられる名士が参加していただき先輩、後輩仲よく、また、話題も豊で、話が尽きる事がありました。

現在、泉南沖に建設着工の国際空港によって私達の泉南も大きく変化しつつあります。まず、土地価格の高騰、道路整備、漁業補償の問題、その他多くの難問題を山積みしております。また、空港建設反対の集会が行

総会に花を添えていただきました。

その後、支部報告なども予定どおり進行しました。記念撮影は、ご覧のようなありさまで盛況をお察しください。

続いての懇親会は、鍋を囲んで飲み、かつ食べるほどに、あちら、こちらにも歓談の渦潮が巻き起こる感がありました。真んなかごろのグループから突然だれかが、「こんなに面白いんやったら、もっと早よから(これまでから)きたらよかったです。これからもみんな誘ってくるで」と大声をあげ、やじと爆笑と大喚声。恒例のカラオケ大会でクライマックスに達しました。最後を締める道遙歌は、その道のOBが本格的にリードをしてくれ、感慨深く、一段と盛り上りました。

今回は、三田地区で昭和60年秋に開催予定ということで、再会を約し幕を閉じました。なお、このたびは35周年記念品として、数回日展その他に入賞した市野勝氏の丹波立杭焼、青磁色「銚子とぐい呑」を当日の出席者に贈りました。



### 本年度支部総会は尾鷲で！ 三重県支部 11月9・10日一泊二日 支部長 水上 敏夫

在県32名の同窓会三重支部会員諸君。日夜ご健闘のことと拝察し心からお喜び申し上げます。年一回の「瀬江」でのご挨拶を謹んで申し上げます。

本年は母校創立50周年記念行事としての記念館建設についての学校よりの依頼状が届いた日、一泊二日と決めましたので、万障繰り合わせ多数のご出席をお待ちしています。詳細のご案内は往復ハガキでお送りしますので、ご回答は必ず投函して下さい。お願いします。毎々支部運営について、全員諸氏の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。会員諸君のご健闘を祈りつつ、ご挨拶と致します。

泉南支部 支部長 中川 克己(6)

われ、デモ行進も目を追って多くなつてまいりました。この中で、重里 実氏(1)も泉佐野市商工会議所副会頭の重責を担って頑張っておられます。

さらにまた、私達泉南支部は今年1月23日、24日と北陸・片山津温泉一泊の役員会と新年会を兼ねた旅行を催しました。金沢、兼六公園の雪の中を案内嬢の道案内と説明を聞きながら楽しい一日を過ごし、夜は片山津温泉の矢田屋梅光閣でお世話になりました。また、5



### 万全の打ち合わせが効を 奏して百余名の総会

和歌山支部 支部長 松本 旬弘

昭和60年1月27日(日)尾形町2丁目華月殿において、恒例の支部総会を開催しました。今年はいつもと異なり、1月のため、万全を期し前年12月18日に、各代表40名の参集を得て、出席の勧誘、会場準備の打ち合わせ会



こうした支部活動が続けられることは、本当にうれしいことではありますが、当支部の今日があるのは、かつてこの小さな地域の四、五の高校から多数の者が大阪経大をめざしたからだということに注目していただきたいと思えます。母校は残念ながら、昔の勢いと魅力が薄れようとしています。今こそ、母校の発展を願う関係者一同は、力をあわせてその対策を図らなければならない重大な時期であります。

われわれの支部は、地味な歩みにはなろうと思いますが、役員の方々の皆さまをはじめ、各位の融和と協力によって、伝統を守り一層の充実を続けるために努力したいと存じます。この件につきましても何卒心よくご賛同、ご協力下さいますようお願い致します。

昭和60年度支部総会は、昨年の総会での多数のご意見に添いまして、尾鷲市で開催する手配を済ませました。期日は11月9・10の両



月8日、泉佐野カントリークラブにおいて、ゴルフコンペを行いました。優勝は車野修三君(1)でした。年2回ゴルフコンペを行っていただきます。責任者は小村幸三君(1)です。泉南支部以外の方もご参加下さい。お待ちいたしております。

最後に、大阪経済大学卒業の同窓諸兄の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

を開きました。その結果、総会当日は106名の出席を得ることができました。大学側から泉谷、倉辻両先生、黒正主任、同窓会本部から磯野会長、比企事務局長のご来臨をいただき、盛会裡に開催できました。



も、支部会員諸君の母校愛のたまものと喜んでおります。  
和歌山には900名の同窓生が在住してはいますが、県内は広範囲のため、紀南地方の人たちは余り出席されず、目下これの対策が研究課題となっております。



### 鳥取支部総会再出発 融和の精神で運営を

鳥取支部  
司会 西山 林一 (35)

二十世紀梨、砂丘、温泉の鳥取県同窓生が7年ぶりに集い親睦をはかる――  
過ぐる昭和53年12月3日に発足した鳥取支部が、本年7月7日(日)、鳥取第一ホテルにおいて、母校から法人理事・玉岡浩事務局長、経済学部部長・松原和男先生、就職部主任・黒正明氏、同窓会本部より磯野齊会長、比企重事務局長のご来臨をいただき7年ぶりに開催されました。

野同窓会会長、玉岡理事および松原経済学部部長より母校ならびに同窓会の現況について詳細な報告があり、久しぶりに母校の香りを満喫するとともに50周年記念事業の一つであり、最大のイベントである記念館建設ならびに募金について、貧者の一灯を……と改めて意を決した次第です。

外に困難性が内在するために甲論乙駁。その間に、時間は刻々と過ぎるだけで、飲み食いだけが総会でないことは十分に承知していても、会場の空気が白けて行くのをひしひしと肌と感じました。役員改選、活動計画、次回総会開催など、すべて現役員で継続審議するというところで、やっと総会を終りました。最後に、支部総会のベテランの比企事務局長より「支部総会というものは、このような会社の会議的なものではない。経大の『融和の精神』で運営されればよい。もし、今日、初めて参加された会員の皆さんがおられたら、鳥取は7年ぶりの総会だから、決議すべきことは……という役員さんの熱意のあらわれで、たまたまこのように長い時間、固苦しい会議になったのだから、それを十分にご理解され、来年は楽しい会合になるよう役員の方々が

立案されますから、是非ご参加をいただきたい。」という役員苦慮の立場の理解を求めるといって乾杯。その後は、本当になごやかな一刻を過ぎました。やはり同窓生というものはありがたいもので初対面の人でも、もう何十年ものつきあいのあった人のようにあちらこちらで談笑の輪ができておりました。比企事務局長のいわれる通り、「出席可能な同窓生が10名であろうと20名であろうと集まることに意義がある」ということを世話人一同痛感いたしました。

残暑厳しく汗ばみながら伊丹を飛び立ち、約1時間半で千歳空港へ。小雨がそぼ降るせいはいささか肌寒い。暖房から冷房への感が入るまでに、北海道で唯一の不凍湖「支笏湖」を……というところで、ご専門の成瀬先生のご説明を聞きながら見学。そして、総会会場の札幌第一ホテルに到着したのは定刻少し前でした。

ひきつづいて、議長に亀井支部長を選出し、総会審議事項を提案、審議いたしました。まず、7年前に選出された役員改選審議に入りましたが、鳥取県は東西に長いので、これを東部、中部、西部と三分割し、それぞれ委員を置いたとしても、その取りまとめには意

### 北海道支部総会に参加して

59・9・29(土)

残暑厳しく汗ばみながら伊丹を飛び立ち、約1時間半で千歳空港へ。小雨がそぼ降るせいはいささか肌寒い。暖房から冷房への感が入るまでに、北海道で唯一の不凍湖「支笏湖」を……というところで、ご専門の成瀬先生のご説明を聞きながら見学。そして、総会会場の札幌第一ホテルに到着したのは定刻少し前でした。

学より法人理事の成瀬先生、同窓会より磯野会長が、それぞれのお立場から50周年記念事業についてのお話し、特に、記念館建設に関するご説明と募金をお願いなどがあり、ご出席の皆様から拍手をいただき総会を終りました。懇親会では、これまた、田中支部長の格別のご配慮による山海の珍味を賞味させていただきました。ご馳走もさることながら磯谷先輩(3)、卒業以来四十数年ぶりに同期の皆島一彦君(7)に会いお互いの健康を喜びあったこと、また、体育会本部の会計をしていた桑村彰君

### 事務局長 比企 重(7)

追遙歌を歌い、お互いに来年の再会を約して解散いたしました。当日、ご来臨、ご出席いただきました諸先生がた、ならびに、同窓生諸兄弟に心からお礼を申し上げますとともに、来年の鳥取支部が本年よりもより盛大になるようご協力の程をお願い申し上げます。

ご存知のように、鳥取県は二十世紀梨と砂丘と温泉では有名ですが、国鉄の特急でも東西2時間を要する横に細長い県で、これを、当初、東部、中部、西部に分け、それぞれ副支部長、委員をおいてまとめてゆく予定でした。しかし、この東西に細長い地区をまとめ

(西山 林一記)

### 鳥取支部再発足のいきさつ

同窓会本部比企事務局長の再三にわたる強いご要請により、昭和53年12月3日、学校より学長玉置保先生(当時)、磯野齊同窓会副会長(当時)をお招きし、三朝温泉・花屋別館で鳥取県在住の同窓生40余名のご参加をいただき鳥取支部が発足いたしました。



# 学園の近況



学長あいさつ  
50周年記念事業  
人事  
60年度入試結果  
61年度推薦入学(募集要項)  
61年度入学試験概要  
就職関係  
国庫助成  
新刊紹介  
学会  
公開講座  
その他の催し

## 人材を育くむ場 としての記念館に

学長 鈴木 亨



同窓生の皆さん、ご健勝でそれぞれ各界において活躍のことと大慶に存じます。今日の情報化・国際化・技術革新の社会情勢の中で、4万5,000名の同窓生諸兄姉が、各分野で日夜ご健闘されていることは、われわれ母校の教職員はもとより、在学生にとりましても齊しくご同慶の至りと存じます。創立50周年メイン記念事業としての、7階記念館は、5月に地鎮祭を行ない、目下、工事は着々と進捗しております。工事関係の予算は、昭和60年度の当初、建設仮勘定11億4,000万円、コンピュータ1億5,000万円、その他で総額13億円を計上し、年度内工事完成に努力する所存であります。資金の調達には、銀行借入金10億円、寄付金本年度分1億円を予定し、コンピュータについては国庫補助金を考慮しております。寄付金については、昨年11月、すでに免税手続をすませ、関係機関の承認を得て、60年3月から募集活動に入りました。

延5、2000平方メートルの記念館の内部施設としては、学生談話室・大小の教室・黒正蔵博士記念展示ロビー・同窓会ホールのほか、5・6階には61年度から強化する情報処理教育のための、40名コンピュータ演習室を設けることになっております。社会科学系の大学として、私どもは来るべき21世紀を担う人材を育くむ場とするべく、学園の活性化に取り組み、心と技術を両輪のように、社会適応を高める教学方針を確立していきます。また、記念館の大会議室は、地域社会のための公開講座に供して、開かれた大学としての面も強調してゆく所存であります。減速経済の時代ではありますが、これら記念館建設事業の趣意を十分お汲み取りいただきまして、格別のご配慮・ご協力をお願いいたします次第であります。

昭和60年6月

## 50周年記念事業



### ◇記念講演会開催

59年10月27日(土)日本生命中之島研修所において、西武流通グループ代表、堤清二氏を講師に迎え、「21世紀への活力と展望」と題しての記念講演会が開催されました。経済問題を中心に、広く思想・文化面にわたり、今世紀の反省をふまえて21世紀の在り方まで、経済系大学としての本学にふさわしい講演内容でした。

聴講者は大学関係67、同窓会78、

後援会20、一般公募者24で総計399人(うち女性50人)のほり、終始感銘深く聞き入っております。聴講希望者全員に、後日「大阪経済大学創立50周年記念講演会記録」を配布いたしました。

### ◇50周年記念館建設工事に着手

本校は創立50周年を契機として最大の事業、記念館を西学舎に建設するため、2月11日、B館解体工事に着手。5月10日(大安)午前10時から

西学舎新築現場(解体工事3月末に完了)において、地鎮祭が行われました。

地元大隅神社神官が祭主をつとめ、本学鈴木亨理事長代理が「穿ち初め」を、竹中工務店新子末一常務理事の「鍬入」を行ない、工事の無事を祈願しました。

地鎮祭には、磯野斉同窓会会長、森下昭吉後援会会長他、本学・竹中工務店関係者が出席し、各代表が玉串を奉奠しました。

## 人事

### ◇名誉教授授与

昭和60年3月末をもって退職されました浅沼玄恵先生に、大阪経済大学名誉教授(第12号)の称号が4月1日付で授与されることになり、その授与式が11日、学長室で行われました。

浅沼先生は昭和10年本学に着任され、以来55年の定年まで、主に英語の講座を担当されるかたわら、理事、教務部長、体育館長などの重職を歴任されました。専任教授

退職後は特任教授として、本学の発展に大きく貢献されました。

### ◇渉外担当理事委嘱

同窓会名誉会長渡辺達好氏(3)を渉外担当理事として委嘱しました。任期 59・9・11～62・7・16

### ◇新任

昭和60年4月1日付で、左記の方がたが着任されました。今後のご活躍が期待されます。

経済学部助教授	松岡憲司	(産業組織論)
経営学部 講師	西山豊	(情報処理論)
経済学部 講師	徳永光俊	(日本経済史)
教養部 講師	楠本秀忠	(体育実技)

### ◇退職

永い間どうもご苦労さまでした。

教授	中村九一郎	(定年)
教授	巡政民	(定年)
就職部	井手口茂美	(定年)
助教授	中川宏	(依願)
助教授	金子勲	(依願)

なお、巡政民・中村九一郎両先生は引き続き特任教授として、活躍しております。







◇海外出張

本多 三郎 教授	目的 調査研究	行先 アイランド共和国	期間 60・4・11～61・3・31
上田 慧 助教	目的 調査研究	行先 アメリカ合衆国 他	期間 60・4・11～61・3・31
滝内 大三 教授	目的 調査研究	行先 イギリス 他	期間 60・4・11～61・3・31
岡本 昌夫 教授	目的 視察	行先 オーストラリア・ニュージーランド	期間 59・7・24～8・8
元 浜 清海 教授	目的 国際比較思想学会	行先 ハワイ	期間 59・8・12～8・19
尾崎 彦朔 教授	目的 視察	行先 インド	期間 59・8・15～9・10
谷 行博 助教	目的 視察	行先 カリフォルニア大学	期間 59・12・20～60・1・10

網様核ニューロンの形態

学術的研究  
行先 秋田大学医学部  
期間 60・4・11～61・3・31

◇人事異動(含昇格、課長以上)

昭和三十九年12月18日付で人事異動が行われました。	電算事務室長 (次長待遇)	細羽由三 (旧学生課長)
就職部副部長 (部長待遇)	鳥居洋 (旧管財課)	井手口茂美
総務部長 (庶務課長兼)	田所清市	野村正澄
総務部次長 (人事課長兼)	中田伊織	中谷和一
教務部次長 (教務課長兼)	山下博三	桜井弘志
入試部次長 (入試課長兼)	香積弘晟	鍋島哲郎 (旧中企業経営研究所)
広報部次長 (広報課長兼)	川井茂 (旧図書館)	同日付、兼務職を解職
経理部次長 (経理課長兼)	石井敏雄	図書館課長
教研事務室課長	中田伊織	電算事務室課長
図書館課長		
中小企業経営研究所課長補佐		

60年4月1日付の異動

就職部副部長 (部長待遇) 石井敏雄 (旧図書館)

◇役職者一覧(60・5・1 現在)

学長兼 理事長代理	鈴木亨
経済学部長	松原和男
経営学部長	松尾竹彦
教養部長	八木田恭輔
大学院委員長	上島武
教務部長	千葉勇夫
入試部長	土井乙平
学生部長	岡本昌夫
就職部長	香川尚道
図書館長	久保田諄
体育館長	浜田幸策
広報部長	山本晴義
産業経済研究所所長	岡本正
中小企業経営研究所 所長	藤田敬三
事務局長	玉岡浩

■訃報■

前理事長・名誉教授 田岡嘉寿彦先生逝去される



学校法人大阪経済大学前理事長・名誉教授田岡嘉寿彦先生は、本年春ごろから健康を害され、京都洛北病院において静養されておりましたが、去る7月21日午前8時10分、心不全のため、惣然として逝去されました。享年90歳でした。

翌22日夜、自宅でしめやかに通夜。鈴木亨学長他、学内理事代表および3学部部長が参列しました。23日午前10時自宅で密葬。

告別式は27日午前12時から、京都市左京区東大路三条西入る要法寺内の実成院で、厳かに挙行されました。鈴木学長が葬儀委員長となり、本法人としての弔辞、大阪弁護士会代表、教子、関係者や、とくに先生の所属されていた短歌会代表等から、心のこもったお悔みの辞が捧げられました。

喪主はご長男、田岡直規氏です。心から先生のご冥福をお祈りいたします。

弔辞

本日、大阪経済大学前理事長・名誉教授故田岡嘉寿彦先生の告別式に当たり、御霊前に、謹んで哀悼の言葉を捧げます。

先生には、日ごろ、極めてご壮健で、多少お足の不自由さはありましたが、さして大病をなさることもなく、我々一同といたしましては、先生がいつまでもご健康であられますよう祈願いたしておりました矢先、突然のご訃報に接し、誠に断腸の思いであります。

あの慈愛あふれる温顔にも、今となつてはお写真以外にはお目にかかれぬこととなり、寂寥の思いと、懐かしさで胸がいっぱいでございます。うたた人生のはかなさを嘆かずにはおられません。

顧みますと、先生は、生を香川県三豊郡高瀬町で享けられ、大正七月、京都帝国大学法学部をご卒業ののちは、暫く大阪地方裁判所で司法官としてご勤務になりましたが、大正十一年五月、一転して教育界に身を投じ、大分高等商業学校教授としてご就任になり、翌十二年十一月からは、法律研究

のため、満二カ年を欧米に留学、学問の研さんに励まれました。そして帰朝後は、彦根高等商業学校教授として永く教鞭をとられ、戦時中同校が工業専門学校並びに経済専門学校に改組されるに際し、その学校長として重責を果され、戦後はさらに山口経済専門学校長として、教育と教育行政の面でも著しい業績を残されたのであります。昭和二十二年、惜しまれてその職を辞され、その後、大阪弁護士会にご入会、爾後、幾多の民事裁判に、その手腕を発揮され、令名を高められてきました。

我々の大阪経済大学には、昭和二十八年四月、教授にご就任以来、ご退職まで実に三十年の長きに亘り、ご専門の民法・会社法を中心に、ある時は教室で、ある時はゼミナールを通じ、幾多の優秀な人材育成に尽力されました。学問のきびしさは云うに及ばず、処世上の問題についても格段の指導をされるなど、先生の警咳に接した者は皆、その学識・人格に魅せられ、いつまでも敬愛の念を抱き続けて

おります。

この間、昭和三十三年から昭和三十四年までと、さらに、昭和三十九年から昭和四十九年までの十二年間は、学校法人大阪経済大学理事長として、学校経営にご努力を賜わり、わけても昭和四十四・五五年の本学学園紛争時には、言葉では尽くせぬご心労を煩わしたのであります。学園が立ち直り、今日のような発展を続けられるのも、先生のご尽力のたまものと衷心より感謝申し上げます。

先生は斯くのごとく、学校経営者として立派な業績を残されましたが、その多忙の中にも学究者として研究に励まれ、その成果は、『会社法綱要』『約束手形法講座』の他、幾多の論文によつて、学会に多大の貢献をなされているのであります。

ところで、先生の高潔なご人格は、学内外を問わず、何人をも惹き付けずにはおれないものがあり、談論風発、時にはユーモアが口をついて出るなど、人間味あふれる人柄には、思はず敬慕の念を抱か

すものがありました。

お仕事の余暇をさいて短歌集や随筆集を刊行され、その面での才能は専門家並みであったとうかがっています。

それにつけても、忘れることのできない思い出は、先生のヘビィ・スモーカーぶりで、紫煙の絶えることのなかつたことも、今は悲しい思い出となりました。

先生の各方面に残された足跡は、さんとして輝き、これを思うとき、我々一同深い感動を覚えずにはおられません。残された我々としては、この偉業を受け継ぎ、さらに発展させるよう努力いたすことを、ご霊前に誓うものであります。

ここに参列者一同、先生の生前の面影をしのびつつ、先生のご冥福を心からお祈りしたいと思ひます。

何卒先生安らかに眠り下さい。

昭和六十年七月二十七日

葬儀委員長  
学校法人 大阪経済大学  
理事長代理 鈴木 亨





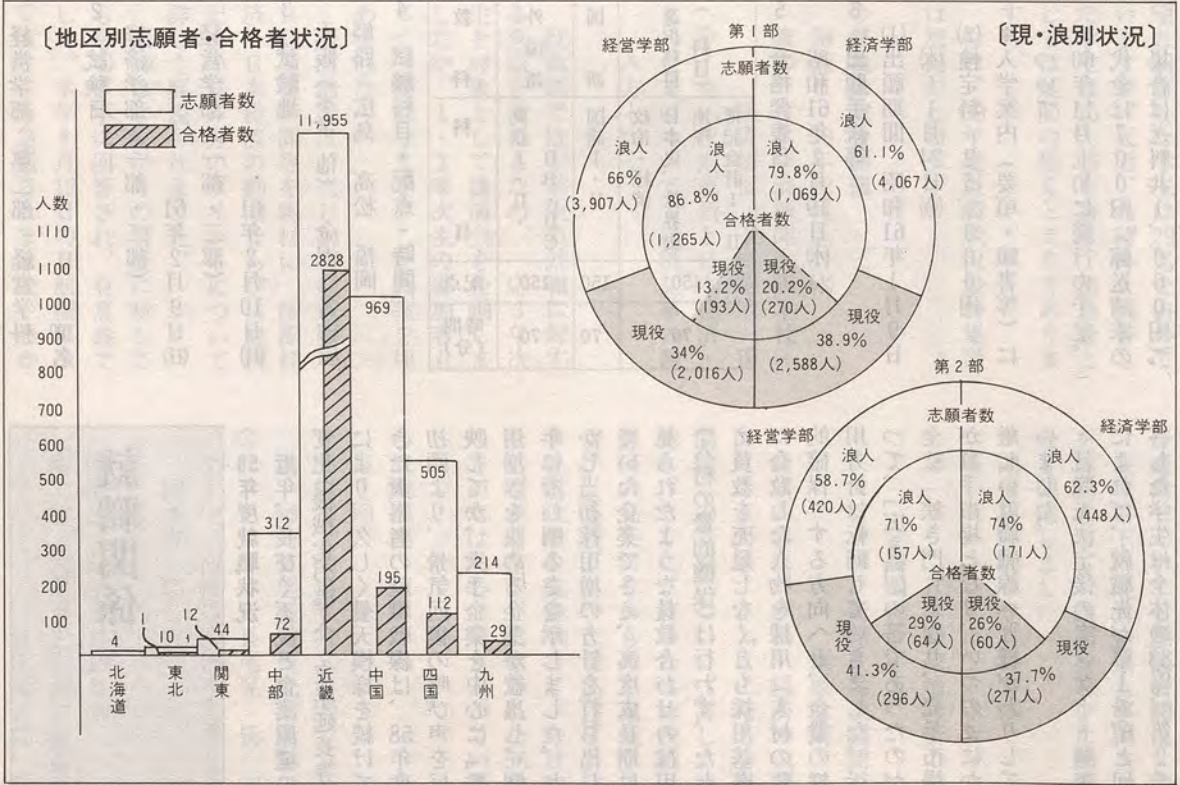
◎60年度入試結果  
2月9・10日の両日に実施された60年度入試の志願者・合格者等の状況は下記のとおりです。  
60年度の志願者合計は1万4034人で、前年度と比べ28人の減少(1.5%)でした。一・二部別で見ると、第一部は43人の減少(3.5%)、第二部は24人の増加(20.5%)となつています。また学部別では前年度と同じく、経済学部が経営学部を上回りました。

1 (普通科)			
志願者数	経済	経営	合計
22(2)	22(2)	23(8)	45(10)
受験者数	22(2)	23(8)	45(10)
合格者数	22(2)	23(8)	45(10)
入学手続者数	22(2)	23(8)	45(10)
2 依頼校別状況			
依頼高校数	103	90	193
志願者のあった高校数	90	90	180
1 (商業科)			
志願者・合格者等状況	経済	経営	合計
志願者数	103	90	193
受験者数	103	90	193
合格者数	103	90	193
入学手続者数	103	90	193

※以上( )は女子内数

	第一部			第二部		
	経済	経営	合計	経済	経営	合計
志願者数	6,664 (51)	5,930 (62)	12,594 (113)	720 (6)	720 (2)	1,440 (8)
受験者数	6,522 (50)	5,802 (60)	12,324 (110)	695 (6)	698 (2)	1,393 (8)
合格者数	1,340 (13)	1,460 (25)	2,800 (38)	231 (1)	221 (1)	452 (2)
倍率	4.9	4.0	—	3.0	3.2	—
合格者最低点	280	296	—	215	230	—

※( )は女子内数、総点450点



◇世良鍊次理事急逝

本法人評議員・理事の世良鍊次氏(3)が、59年12月25日、心不全のため急逝されました。享年71歳。  
世良さんは山口県長門市のご出身。昭和12年、本学の前身昭和高等商業学校、同年日産自動車販売(株)に入社、満州自動車製造(株)を経て、21年11月大阪日産自動車(株)に入社。45年11月同社専務取締役、52年6月取締役社長、58年6月取締役会長に就任。このほか、日本自動車連盟および自動車関係団体の役員として活躍、文字どおりわが国自動車工業界の発展に寄与されました。  
本学とのかわりには、26年4月法人評議員の就任以来、35年11月監事、41年4月に理事と、重職を歴任され、約33年間にわたり実業人として、また卒業生として、本学ならびに同窓会の充実・発展のためにご尽力をいただきました。  
葬儀・告別式は、昨年12月27日北区太融寺で、また社葬は本年1月22日桃山台の千里会館でしめや



◇喜田義雄名誉教授逝去

かにとり行われました。喪主は妻艶子さん。  
謹んでご冥福をお祈りいたします。  
名譽教授喜田義雄先生は3月2日、午後11時58分、入院加療中、心不全のため逝去されました。享年80歳。  
先生は明治37年8月17日のお生まれ、出身地は富田林市。昭和3年旧大阪市立高等商業学校研究科卒業、旧大阪市立天王寺商業学校教諭、三菱電機(株)、旧大阪商科大学講師などを経て、26年4月本学専任助教として就任、30年教授主に簿記・会計学・会計監査論の講座を担当されるかたわら、経営学部長を2期、長期にわたり就職部参与の重職を歴任され、50年3月定年退職後は、特任教授として教学に、学生指導に尽力されました。56年4月1日、大阪経済大学名誉教授の称号が贈られました。  
3月4日自宅で密葬。3月11日千里会館において告別式がしめや



◇古西明子さん(学生部医務室)逝去

かに営まれました。喪主は長男順三氏。  
謹んでご冥福をお祈りいたします。  
古西明子さんは、一昨年12月から病氣療養中のところ、7月11日午後3時45分、茨木市監野病院において、左乳ガンのため亡くなられました。享年51歳。  
入院中から度々帰りたいと切望しておられた自宅(茨木市)で、12日お通夜。翌13日午後1時から徳蔵寺(阪急南方駅)において葬儀が、学内外の大勢の友人たちに見守られながら、しめやかに挙行されました。  
喪主は実妹の浜田しとや様です。古西さんは昭和37年8月、本学の学生部医務室に勤務、永年にわたり、体育実技・クラブの学生たちのみならず、大学教職員の健康管理、医薬相談でお世話くださいました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

60年度入試結果

◎特技(スポーツ)推薦  
59年11月7日に実施された標記推薦入学選考の志願者・合格者状況は左記のとおりです。

学部	志願者数	合格者数
経済学部	78	34
経営学部	70	34

1 志願者・合格者状況

2 合格者の科目別内訳

柔道	5	卓球	3
剣道	4	バドミントン	2
陸上競技	6	サッカー	9
競技スキー	1	ラグビー	11
硬式野球	9	バスケット	3
準硬式野球	2	ホッケー	3
硬式庭球	1	バレーボール	3
軟式庭球	4	ハンドボール	5

◎普通科・商等科推薦  
59年12月9日に実施された標記推薦入学選考の志願者・合格者等の状況は左記のとおりです。

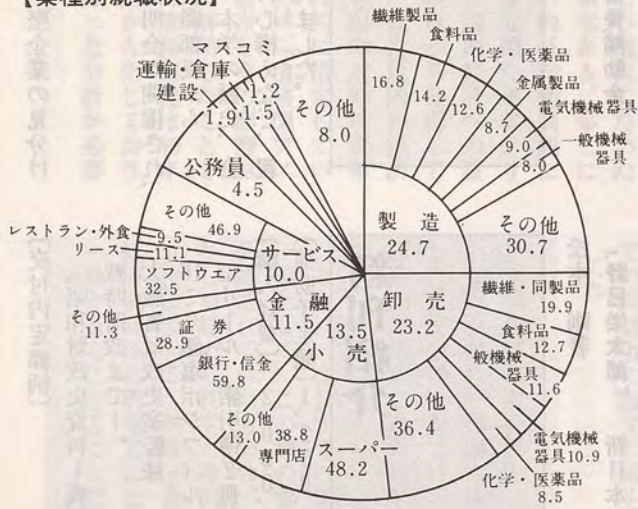




# 61年度 推薦入学選考日程 入試日程

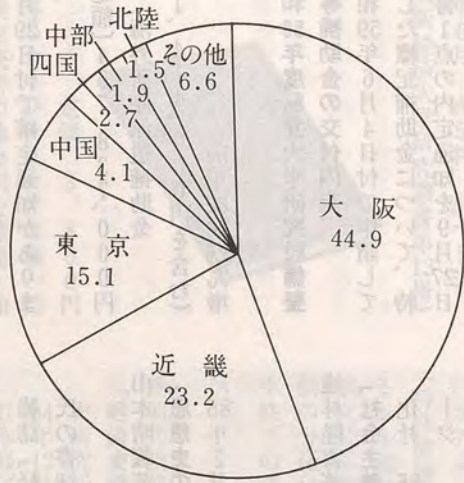
特一スポーツ推薦	出願期間	60年10月26日(土)
推薦入学選考日程	選考日	60年10月31日(木)
推薦入学選考日程	合格発表	60年11月8日(金)
推薦入学選考日程	選考日	60年11月16日(土)
推薦入学選考日程	合格発表	60年11月16日(土)
推薦入学選考日程	選考日	60年11月21日(木)
推薦入学選考日程	合格発表	60年12月1日(日)
推薦入学選考日程	選考日	60年12月7日(土)
推薦入学選考日程	合格発表	60年12月7日(土)

【業種別就職状況】



※本社所在地別  
※その他は公務員・教員再受験者、自営、調査不能等

【地域別就職状況】



科のある高校  
選考料 25、000円

◎推薦入学説明会の開催  
入試部では、普通科高校対象の推薦入学説明会を、推薦依頼校24校を招き、次のとおり実施しました。

7月3日(水) 広島市 ホテルニューイヒロデン  
島根・広島・愛媛各県の高校対象

7月4日(木) 岡山市 岡山タミナルホテル  
鳥取・岡山・香川・徳島各県の高校対象

7月8日(月) 金沢市 金沢都ホテル  
富山・石川・福井各県の高校対象

7月11日(木) 大阪市 東洋ホテル  
三重・滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山各県の高校対象

◎61年度入学試験概要  
募集学部・学科・人員  
経済学部 第一部 経済学科 400名  
経済学部 第一部 経営学科 400名  
経済学部 第二部 経済学科 100名

経営学部 第二部 経営学科  
試験日  
経済学部(一部・二部)  
61年2月9日(日)  
100名

3 試験地	大阪(本学他) 金沢 名古屋 姫路 広島 高松 福岡	
4 試験科目・配点・時間	科目 配点 時間(分)	
国語	150	70
外国語	150	70
選択科目(二科目)	150	70

5 合格発表日  
昭和61年2月19日(水)  
出願手続等

6 出願期間 昭和61年1月9日(木)～1月24日(金)  
(2)検定料 25、000円  
※入学案内(要項・願書等)について  
60年11月上旬に発行の予定。代金は700円(郵送請求の場合は送料共1、000円)。

## 就職関係

◇59年度就職状況  
近年、長びく不況と企業環境の変化機械化の導入、定年延長等により、久しく曇天模様が続けてきた大卒者の就職戦線は、58年度初頭より、景気回復の呼び声を反映してか、大手企業を中心に「採用増」を決める企業が続出し、例年のない明るさを示しました。しかし当初採用増の方針を打ち出していた企業でさえ、高度成長期に見られたような員数合わせの採用(人材の量的確保)は行わず、たとえ員数を充足しなくとも採用基準に合致した人物を採用(人材の質的確保)する方向へと、企業の採用方針は転回していきました。従って、「狭き門」の筈であったのが全く「狭き門」となり、売り市場が買手市場となり、いつのまにか厳しい就職戦線へと様が変わりました。

就職先決定後のアンケート調査によれば、就職先が第1希望と回答した学生は全体の33%、第2希

### ◇産業セミナーと懇談会開催

兵庫県下の優良企業人事担当者をお招きして、講演ならびに懇談会を開催しました。

開催日 60年5月15日(水)  
場所 ニューポートホテル  
講演 「日本の政治経済の諸課題について」  
講師 神戸新聞社論説顧問 福原稔朗氏

### ◇就職講演会開催

開催日 59年12月5日(水)  
講師 日本経済新聞大阪本社 経済部長 下村寛治氏  
テーマ「技術革新と日本経済・企業について—経済記事の読み方—」

### ◇就職講座

(第1回)  
開催日 60年6月5日(水)  
講師 長尾経営研究所所長 長尾晃氏 (8)  
テーマ「面接の心構え—話し方・聞き方・応じ方—」

(第2回)  
開催日 60年6月19日(水)  
講師 大阪中小企業投資育成KK 倉田征五郎氏 (5)

就職部では、学生の就職に対する意識を高めるため、一応3年次生を対象として講演会を企画しましたが、1・2年次生の参加者も多く、真剣なまなざしが教室を埋めました。

講演内容は、当日の日経新聞、日経産業新聞等を題材に、国際経済・日本経済の動向ならびに経済記事の読み方のポイントについて詳しく解説されました。

講師は学生からの質疑に対して懇切丁寧に回答され、有意義でした。本年8月12日の日航機事故で惜しくも急逝されました。心から冥福をお祈りいたします。





本書のオリジナリティーは第一に国際収支統計の独自の整備・加工にもとづく実証研究という点である。つまり新しい視点にたった分析方法論の提示である。第二にはアメリカ経済の内外均衡問題について、海外投資立国たるアメリカ資本主義とその国内経済への波及・帰結という観点から分析していることである。独占段階の経済的寄生性と腐朽を限界対外投資率という概念で現代的に措置している。第三の主張点は、「債務国アメリカ」の歴史的始点とその形態および論理を詳細に解明したことである。とくにこの債務国化は60年代中葉に政府部門から生じており、この点にさかのぼった分析が必要である。



「検証―」東洋経済新報社  
60年6月 A5判 278ページ  
(大阪経済大学研究叢書第13冊)

定価 3,800円

### 国庫助成

テーマ「優良中堅企業の見分け方」  
就職説明会  
6月24日(月)、説明会が開催され、鈴木学長、香川就職部長から、4年次生に対して、本学の歴史、会社訪問についての心構えなど、親身の指導が行われました。

### 新刊紹介

〔交付内定銘柄〕  
昭和財政史資料―震災から準戦時財政まで―  
大蔵省財政史室監修  
16ミリ銀塩ポジフィルム  
312リール 索引簿2冊付  
〔購入経費〕2,060,000円  
〔補助予定額〕1,250,000円

### 私立大学等経常費補助金

昭和58年11月17日付で申請していただきました標記補助金について、59年8月29日付で確定通知がありました。

〔確定額〕457,837,000円

(海外研修派遣補助金

1,414,000円を含む)

前年度比16%増

### 昭和59年度私立大学研究設備整備費等補助金の交付内定

昭和59年6月4日付で申請していただきました標記補助金について、特定図書1点の内定通知を9月27日付で受けました。

〔交付内定銘柄〕

昭和財政史資料―震災から準

戦時財政まで―

大蔵省財政史室監修

16ミリ銀塩ポジフィルム

312リール 索引簿2冊付

〔購入経費〕2,060,000円

〔補助予定額〕1,250,000円

松本 剛著

『野呂栄太郎』 新日本出版社

85年1月 24ページ

(新日本新書) 定価 600円

雑誌『経済』5月号に高橋碩一

氏の書評が掲載されています。

山本晴義著

『思想史の現在』 勁草書房

85年2月 A5判 260ページ

定価 2,300円

建林隆喜著

『社会主義世界経済論』 法律文

化社 85年4月 A5判 242ペ

ージ 定価 2,500円

故建林隆喜先生遺稿論文を京大

の杉本昭七先生が編集されたものです。

上島 武・井手啓二・山本恒人著

『転機に立つ社会主義』 世界思

想社 85年5月 A5判

204ページ 定価 1,600円

上田 慧著

『転換期のアメリカ企業』 同文

館出版 85年5月 A5判

295ページ 定価 3,500円

北崎豊二著

『近代地方民衆史研究』 法律文

化社



85年3月 A5判 327ページ

(大阪経済大学研究叢書第12冊)

定価 4,500円

歴史を振りかえってみると、一

人ひとりでは無力で無名である民

衆が、さまざまな困難に堪えつつ、

歴史を発展させてきた。しかし、

それは過去においてだけではな

### 学内刊行物

王井孝弘名誉教授記念号

(大阪経済大学教養部紀要 2号)

59年12月

建林隆喜教授追悼論文集

(大阪経大論集 162・163合併号)

60年3月

巡政 民

中村九一郎 両教授古稀記念論文集

(大阪経大論集 164号)

60年3月

所蔵年報類リスト(稿)

(国内刊行物) 84年11月末現在

産業経済・中小企業経営・経営

研究所発行 本編収録タイトル

数1,627点 60年1月

檀上文庫目録 中小企業経営研究

所蔵 檀上邦夫先生(非常勤

講師 産業技術論担当)の蔵書

約2,700冊の寄贈図書リス

ト 60年3月 24ページ

経済史文献解題 昭和59年版

日本経済史研究所編 清文堂出

版 59年12月 513ページ

## 本学で開催された 学術講演会・学会

### 学術講演会開催

3月16日(土)、特別会議室においてL・M・カレン教授の学術講演と懇談会が大阪経大学会主催のもとに開催されました。

講演 Economic problems of Ireland in 1970s and 1980s historical perspective.

講師 ダブリン大学(アイルランド)

アイルランド近代史

教授ルイ・ミッチェ

ル・カレン

通訳 ミス デイラニ

出席者 学内11学長他18名、学外12名







◇日本経営財務研究会

(第8回 全国大会)

59年10月2日(火)3日(水)の両日、本学会を会場として標記学会の昭和59年度全国大会が開催されました。今回は「経営財務理論の本質と課題」の統一論題のもとに、九つの統一論題報告と10の自由論題報告がなされました。全国から参集した140余名の学会員は熱心に討議、総会と懇親会も盛会のうちに行われました。

◇日本中小企業学会西部部会

開催日 59年12月15日(土)

会場 特別会議室

報告 上野 絃氏(大阪府立)

「経済のソフト化、サービス化」と下請企業—下請利用の新しい展開を中心として—

近藤義晴氏(神戸市外国語大学)

「西ドイツ中小企業のイノベーション」

シモン

◇日本会計史学会(第4回大会)

6月13日(休)、本学会を会場として標記学会の全国大会が開催されました。94名が出席され、四つの研究報告、総会ならびに懇親会が盛会のうちに行われました。

◇その他の学会

もつと専門的に 9 10.3  
不 明 1 1.1

◇第3回公開講座概要

21世紀をひかえて、大阪は大きな転換の時期をむかえている。かつて経験したことのない経済社会の成熟化、高齢化社会の出現、地球的規模で進展する国際化と情報化の波、こうした変化や潮流に積極的に対応して新しい発展と飛躍をどのように図るか。  
世界に向けて開かれた大阪、国内のセンターとしての大阪、進取のスピリットあふれるまち。  
新しいもの、新しい技術、新しい方法、情報と文化をうみだすま

ち。  
大阪のくらしと産業を回顧し、産業発展のプロセスに庶民のくらしの視点を加えて、明日を考える。  
公開講座委員長 浜本 泰  
メインテーマ 大阪 昨日から明日へ—くらしと産業を考える  
場所 大阪府立文化情報センター  
日時 昭和60年9月13日(金)  
10月18日(金)  
午後6時30分—8時30分  
スケジュール  
9・13(金) 撰・河・泉のくらし  
(江戸時代民衆の哀歎)

日本経営工学会研究開発管理部会

59・7・14

関西中小企業研究会 59・7・14

日本リスクマネジメント学会 (関西) 59・8・25

国際金融研究会 59・10・6

中国文芸研究会 59・11・25

日本OR学会(関西) 60・2・28

公開講座



60・3・9  
60・4・20  
60・10・27

◇第2回公開講座アンケート結果

「世界の明日に窓を開く」をメインテーマとして、59年8月24日から9月14日にかけて行いました第2回公開講座の状況は次のとおりです。

(定員および申込者数)

当初定員 150人 申込者数 338人

(出席者数)

延人数 623(97人)

第1日 172(29) 第2日 134(20)

第3日 107(12) 第4日 110(19)

第5日 100(17) ※( )は女性内数

(アンケート結果)

(1)アンケート回数

配布数 回収数 回収率

アンケート① 224 197 88%

アンケート② 100 87 87%

※アンケート①は全員配布で

(2) (6)の項目、アンケート

②は5日目配布で(7)の項目

(2)年齢 ( )は女性内数

20代	46	15	23.4%
30代	52	10	26.4%
40代	30	5	15.2%
50代	37	4	18.8%
60代	29	0	14.7%
不明	3	0	1.5%
自営業	17	0	8.6%

会社員	97	17	49.2%
公務員	28	4	14.2%
学生	15	3	7.6%
他不明	41	11	20.8%

大阪市	62	31.5%	126%	64.0%
大阪府下	89	45.2%	32	16.2%
京都府	5	2.5%	2	1.0%
兵庫県	30	15.2%	13	6.6%
奈良県	8	4.1%	2	1.0%
他不明	3	1.5%	22	11.2%

(5)知った方法

新聞記事	70	14	35.5%
新聞広告	40	6	20.3%
ちらし	9	1	4.6%
阪急ポスター	11	1	5.6%
地下鉄ポスター	38	7	19.3%
市バスポスター	10	3	5.1%
告知板ポスター	5	1	2.5%
人に誘われて	10	2	5.1%
その他不明	10	1	5.1%

(6)受講の理由

テーマに関心があった	151	25	76.6%
大学の公開講座だから	46	10	23.3%
その他不明	15	2	7.6%

実施日 昭和59年10月23日 (火)  
主催 学生部・学生相談室  
講演要旨 学生諸君は大学内外でそれぞれ抱えている問題に立ち向かい、緊張とストレス状況のもとに、日夜奮闘している。

さらに課題解決が達成されると、この時の緊張感やストレスが喜びければ大きいほど、成功感や喜びは大きく、自信を抱くことであろう。しかし、逆に課題解決が不成功に終わった時は、茫然として立ちすくみ、挫折感を抱き、何事に対しても自信をなくす人もあろう。

このような状況に陥った時、人は平静な自分を取り戻すために、いかなる手段を講じるであろうか。この挫折のどん底から、平静な普段の自分を取り戻す力、すなわち「バネ」こそがこころの健康であると考えている。こころの「バネ」が何らかの支障によって作動しない状態が、不適応な状態であり、これが長びき不適切な解決を計ろうとして、ますます泥沼に足を入れた例が左記のようなものである。

スチューデント・アパシー  
カルチャー・ショック  
ピーターパン症候群  
アルコール依存症  
薬物・覚せい剤中毒 等

学生相談室のスタッフは、このような状態にいたら前に、学生諸君が自力で、健康を取り戻すために援助を行っている。

◇「アジアを歩こう」

新入生歓迎企画・春のTALK & TALK  
開催日 60年5月29日  
場所 図書館3階閲覧室  
主催 図書館  
図書館は、文献資料の提供を通じて教育・研究に資する所ですが、そのみにとどまらず、関連する営みとして、読書会や講演、音楽会などの開催も勧められています。当館がこうした催しものを始めましたのは、ようやく2年ほど前からです。

今回の「アジアを歩こう」というテーマの選定要因は一つは樽本



照雄先生が昨年中国に留学されて





いたこと、二つ目には「上新庄」という土地にある社会科学系の大学でありながら、朝鮮語も開講されていなくという、欧米志向の顕著な教学の、現状への疑問でありました。



コディネイターと司会は山本恒人先生に。先生は「学生を行動へ立ち上らせたい。出来ればアジア貧乏旅行へ」という方向性を示してくださいました。



出演をお願いした方がたは尾崎彦朔先生。先生は「官民、上下を問わず根強く生きていくアジア蔑視を打ち壊すための場にして欲しい」と強い希望を述べられました。12チャンネルの「YOU」方式を提案して頂きました。



図書館側から館員の森川展昭氏

(34) 館員というより、今や朝鮮学の専門家として呼ぶ。それから自



称「遊人」の田中学氏(46)、彼は今も格安の学生アパートに住み、菜食で生活費を最低限に抑え、卒業後の総労働日数約300日、しかも毎年のように海外へ、足跡はヨーロッパ・パキスタン・インド・ネパール等々というイマイ若もの。参加者は学生約70名、教職員30名ほどで、まずまずの入りでした。出演者各氏の体験談と応答、アジアのイメージのアンケート結果報告と討議が中心となりましたが、テーマが大き過ぎて、2時間の予定を30分ほど延長したものの、到底1回では充分にしゃべることは出来なかつたように思いました。

◇パネルディスカッション開催  
テーマ「俺たち Alive」  
開催日 60年6月26日(水)  
主催 学生会  
司会 山田裕康先生  
パネラー 重森 暁先生  
谷口明丈先生



樋口克次先生  
田中省巴氏 (学生部)

昨年実施の、葉賀弘先生の「こころの健康」を基盤とし、「こころの健康」を失する前のカンフル剤となれば、との願いで企画・実施しました。  
学生20名、司会・パネラー・教職員35名の参加のなかで、「五月病」を主眼に対論が行われました。「五月病」の一要因でもある「ふれあいの場」を切実に求めていること、5月だけでなく、1年中何らかで悩んでいる者もいることなどが確認され、まずは成功裏に終ったと言えます。

### ハイドラジウム8P設置 体育特別教育に



59年5月から使用開始した体育特別教室(トレーニングルーム)に、さらに11月、アメリカのハイドラジウム社の油圧式トレーニングマシン6台が新しく設置されました。

この機器は従来のウエイトマシンに比べ、騒音がほとんど無くワイヤー切れ、指をはさむ危険性も全くありません。

ハイドラジウム8Pは、8人が同時に使用可能で、屈伸運動の全範囲にわたる「可変抵抗」「可変速度」「最大負荷」の有利点が得られ、筋力、筋持久力・筋力パワー・瞬発力のトレーニングには、かなりの効果があると思われまふ。  
このマシン設置により、運動部関係のクラブには大変好評で、連日いくつものクラブが使用しています。

### ◇事務管理職・監督職の研修

(1) 59年度事務管理職研修

主催者 事務局長  
出席者 次長 課長 課長心得 外部講師 長尾 晃氏(8)  
「管理能力と人間関係の向上」「人間関係と話し方」

開催日 8月27・28日

場 所 大阪ガーデンパレス

研修目的 学校法人大阪経済大学に勤務する中間管理者に、管理職者としての役割、ならびに私立大学事務職員のあり方等の研修を通じて、職務の遂行に必要な管理能力の充実と、相互の人間関係の円滑を図り、中間幹部職員としての資質の向上を目的とする。

(2) 60年度監督職研修

●第1グループ  
研修対象 課長補佐 係長 課長心得

日程 8月27・28日

●第2グループ  
研修対象 主任

日程 8月28・29日

外部講師 長尾 晃氏(8)  
場 所 大阪厚生年金会館  
研修目的 学校法人大阪経済大

### ◇事務室移転

B館南側の取り壊しに伴い、日本経済史研究所、産業経済研究所、中小企業経営研究所・経営研究所の各事務室および用務員室が、左記の場所にそれぞれ移転しました。  
〔日本経済史研究所〕  
事務室・書庫とも2月4日にA館1階へ。  
〔産業経済研究所〕  
中小企業経営研究所  
〔経営研究所〕  
事務室は1月25日、本館4階の同窓会ホールに。  
〔用務員室〕  
2月1日、トレーニングルーム内に。

### おねがい 年史編さん用資料の提供を



58年10月に発行しました写真集「半世紀のあゆみ」を、募金趣意書発送後から、同窓会支部総会を通じ、同窓生に配布しております。五十年史編さんの一里塚としてご高覧いただき、お気付きの写真資料がございましたら、是非提供してくださいませようお願いいたします。

4月25日、豊田真毅氏(12)から左記の史料をご寄贈頂きました。中には亡兄真桂氏(1)(戦死)の遺品も含まれています。

浪華高商制服ボタン  
浪華高商ラグビー部ペナント (昭9)

「浪華」浪華高等商業学校一覧  
昭和高等商業学校入学会誌「昭10・12・1月納付分学費其他一覧」  
(納付期限 昭12・1・18)  
昭和高等商業学校入学会内  
学徒勤労報国際腕章  
昭和12年度  
生徒身分証明書(19・4・1発行)  
村長からの電報「入隊すぐ帰れ」20:5:5(「感激の日」とのサインあり)

ほか、当時の学生生活を表わす写真や書簡など。(大学広報部)



# ゼミ短信

## 頭脳の機械代置を 推進する 産業革命に一言!

稲原 康雄

59年度ゼミ旅行は、12月下旬、国鉄線乗り継いで稚内まで出かけた。季節が季節である上に、北海道や沖縄へは空から行くものとの、ヤングの通念に拒否されてか、参加者は激減した。今や、旅中深夜に及ぶ人生論議など、学生には無縁の暇潰しとなった。たしかに、頭脳の機械代置を推し進める産業革命が、戦後の復興発展に膏血を絞った世代のスクラップ化を急ぎ、新規卒諸君の"Job"を巻き起しつづつあること、経済的法則的必然であることは分る。企業犯罪の急増、ユニオン・メンバーの急減を初め、アメリカも日本によく似てきている。

家事から教育までもが商品に代置され、人の欲望が企業によって開発充足される現状では、学生諸君が労働力そのものへの純化を急ぐこと、誰がこれを阻止しようだろうか。人間性喪失に対して警鐘を乱打すべきか、行革路線に加担して崩壊を促進すべきか、それと

も宇宙に生き残る生命の生成過程と諦観すべきか。核シエルトの輸出大国にもしかねない為政者と、ヤングの現状に深刻な不安を禁じえない。

## 晩秋の落ち陽優しく 待望のOB会発足

交通論稲原ゼミ

母校が創立50周年を迎え、新たに半世紀を刻み始めた昭和59年10月21日、交通論稲原ゼミOB会が発足した。

これまでOB会設立を固辞されていた稲原先生が、度重なるOBの申し入れによりややく軟化(?)されたためである。OB会の設立を喜ぶと同時に、「まだまだOBに囲まれる年齢ではない」といつておられた稲原先生が、もうそんなお齢になられたのか、という一抹の寂しさも否めない。

とまれ、世話人の呼びかけに応じて、当日母校に集まったOBは遠く鹿児島、金沢、和歌山などからも馳せ参じて44人。23歳のフレッシュユマンから56歳初老の紳士まで、稲原先生を囲んで久しぶりの懇親会となった。

四季星霜が移ろうように、人の生きざま、考え方も変容するのが世の常。されど、この日稲原先生を囲んだOB諸兄は、かつて燃やした一途な青春を堅持し続けていたのである。胸にこみ上げてくるものを押さえて、学歌斉唱。暮れなつむB館の時計台をバックに記念撮影とはなったが、晩秋の落ち陽は早く、全員シルエットとなったかも知れない。

第1回総会に残念ながら参加されなかったOB諸兄の連絡を待ちつつ、発足の一報としたい。連絡先は、

桑田利雄 (文責 本庄和郎)

第1回OB会総会出席者氏名

卒年	28	29	39	41	42	43	44	45	49	50	52	53
氏名	宇佐美正彦	桑田利雄	宝井泰信	大塚章介	小谷英与	土谷秀夫	栗岡慶一	青木正道	寺本聖典	吉村和利	岡部国雄	中井貞行
氏名	今西喜孝	楠善夫	白樫彰夫	松葉茂和	三宅貢	摩上順一	古橋誠二	家元洋	東義雄	上田立志	西脇居則	津木満央

## 現役・先輩合同の 倉春会 ゼミ旅行の途中で

倉辻 平治

◇大学生生活をしてできるだけ有意義に過ごすため、ゼミナールの場合を活用するよう、ゼミ生諸君ともども色々考えているのですが、なかなかこれといった妙案がありません。

◇去る4月20日、ゼミ4年生の諸君と旅行で上京した折、東京在住のゼミ先輩諸兄と、青山のアジア会館で現役・先輩合同の倉春会懇親会をもちました。牧田安夫先輩(9)のご采配のおかげで、13名卒業生が集まってくれて、楽しい一夜を過ごすことができました。

◇ 倉辻ゼミ幹事 長谷川 洋久  
私たちが倉辻ゼミ4年生は、4月17日から四泊五日で伊豆・箱根・東京にゼミ旅行に行きました。

最終日の20日、東京在住のゼミ先輩諸兄と私たちとで、倉春会のパーティを開きました。ご多忙にもかかわらず牧田大先輩を初め、総勢13名の方がたが出席されました。牧田先輩の音頭で会は始まり、先輩諸兄の回想談が続き、時のたつのも忘れて、現役の私たちと

## 退職のごあいさつ

平野 章



私は59年2月脳梗塞の発作があり、救急車で茨木の病院に入院しました。田中角栄氏と同じ病気で、幸い軽くて一月ほどで退院しました。しかし後遺症があり、一時は歩行も困難な状態でしたので、最早教壇に立つことは不可能と思ひ、退職することにしました。

顧みると、私が経大の前身、昭和商に勤めたのは昭和13年のことで、当時は上新庄の駅付近に村落のようなものがあるだけで、現在の都会らしい町並みは全然見られず、市バスなども通っていませんでした。私たちは教師も学生も川沿いの道を20分以上も歩いて通学したものでした。それ以来、数十年を経て上新庄も大学も、往時を偲ぶよすがもないほど、面目を新たにしました。上新庄のことはともかく、大学自体校舎・研究施設の整備、教授陣の充実、学生の質の向上等目を見張るものがあり、社会の経大に寄せ

## 先生の近況

る期待・信頼は日を追って高まっております。この時に皆みなさまとお別れすることは身を切られるようにつらい思いがいたしますが、大過なく過させて頂いたことを幸福と思ひ、皆みなさまの今後のご繁栄を心からお祈りしたいと思ひます。なお、59年9月27日左記に移転しました。

## ぜひ一度、大阪で 集まりましょう

高橋 彦博



1968年から1972年まで、教養課程の政治学を担当。当時のゼミの諸君とは年賀状とか、たまに東京でお会いする以外、顔を合わせたことがありません。そのうち、ぜひ一度、大阪で集まりたいと思っております。

(現在 法政大学社会学部教授)





もども、この上もなく楽しいひとときを過ごすことができました。先輩のなかには、自分の父親ぐらいの方がたも見られました。次第に、雰囲気は溶け込み、打ち解け、話はずみ、とりわけ、倉辻先生からマックス・ウェーバーの問題を、繰り返し話されたことを、どの先輩からも聞かされました。世代をのり越え同じ学窓に育った先輩・後輩の連帯感を新めて強く感じた次第です。

### 永野ゼミ同窓会を 永仁会と名付ける

永仁会

永野ゼミは今年2回の同窓会を開きました。同ゼミ出身、故中村純幸君(60歳、54年度卒)追悼文集制作報告を兼ね、1月6日(日)6名参加して永野教授宅で、もう1回は7月7日(日)9名参加、東区本町大阪会館において開きました。

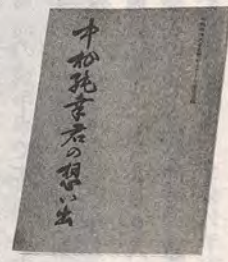
中村君追悼文集は新聞・テレビ等で報道され、内外に大きな反響を呼び、初刷300冊、二刷400冊、三刷1,500冊と増刷しました。経大同窓会で購入希望の方はご連絡ください。代金300円・送料170円、計470円はなるべく「郵便為替」でお願いします。(2、3冊の送料は240円)宛先は

D-401 永野仁教授宅

なお、永野ゼミは来年度から休講となりまので、永野ゼミ同窓会を永仁会(えいじんかい)とし、卒業生相互のつながりをさらに深める機関とするため、各卒業年度の世話役を選出しました。

ゼミ卒業生の方が、次回より多数参加されるようお願いいたします。

文責 森下 恭秀(60)



「たねまき会会報」の  
続編に原稿を  
送ってください

中尾 茂夫

私も本学に勤めて3年目になりました。1期生の諸君は建林隆喜先生のゼミをひき継ぐ形で、遅れてスタートしたにもかかわらず、実に楽しい「ゼミ旅行」や「たねまき会会報」を発行したりで、私にとっても思い出深い年でした。今年には先日、3回生と亀岡でゼミ合宿を行ない、冬には、4回生のゼミ旅行を行なう予定です。

すでに、二、三の諸君から会社での奮闘ぶりを伝える近況報告をいただきましたが、大卒とは異なる新しい空気に慣れて、元気いっ

### 遺された卒業論文

永野ゼミナール同窓会編『中村純幸君の思い出』が84年10月に発行され(瀬江83に既報)、同年12月4日付「朝日新聞」社会面(大阪・長崎のみ)に紹介、さらに85年2月2日同紙「声」欄投書(吹田市 牟田忠彦様)が反響をよび、小冊子の希望購読が想像以上に700人近い人たちから注文が殺到、増刷・発送に大わらわでした。

「声」投書がきっかけで、小冊子の内容が2月7日朝、NHKテレビ「ニュースワイド近畿」に、遺された卒業論文の題で放映されました。

小・中・高・短大・大学・看護学校などの先生がた、学生さんがこの小冊子を求められ、白血病に苦しむ人が身近にある方、親族・友人をこの病で亡くされた方も数十人ありました。

今日の核状況を憂慮して注文された方の多いことは言うまでもありません。この小冊子が多くの人に慰めと励ましと生きる勇気を与え、核兵器反対の世論形成に役立つならば、故中村純幸君(60)の苦闘の生涯も報われることと思えます。

(永野 仁)

ばいにやっているようです。

「たねまき会会報」の続編を出す時には、また、諸君の原稿も送って下さい。では皆さん、お元気で。

### 52年度卒業同窓会 なぜか「わが家の経済」 がテーマ

松原ゼミ

昭和60年1月6日、松原和男ゼミ52年度卒業同窓会が、2年ぶりに京都で開催されました。残念ながら出席者は少なかったのですが、遠く三重、岡山等からも集まっていたきました。

学生時代は、日本の経済や、また景気変動について意見を述べ合い、研究したものでしたが、今回はどういう理由か、「わが家の経済」について、この赤字家計をどのように乗り越えるか、またいかに「ヘソクリ」をするか等既婚者も未婚者も、意見を交換し合いました。

「この点につきましては……」と、さすがの先生も困惑顔でして……。わが家の経済については結論らしいものはまとまらず、結局は各自、財布の紐をしっかりと締めようということ、お開きとなりました。勿論、会費はきっちりと頂きましたが……。

文責 津田 健次(44)

### 先生の近況



本学とお別れするに  
当って

小生が昭和42年4月、大阪市立大学から本学へ移ってきて以来、本年で丸18年を過ぎ、それ以前に非常勤として来学していた年月を加えると、20年以上も本学のお世話になってきました。来年3月いっぱい、ついに本学ともお別れということになります。

その間、学部の講義では、協同組合論と教養経済学を担当し、ゼミナールでは、主として社会政策や労働経済論を研究し、大学院では経済思想史およびフランス語による経済学関係の外国文献研究を受け持つてきました。その20年以上にわたる長年月の間に、小生の講義を聴いて貰った学生諸君の数はおそらく1万人になんなんとすると思えますし、ゼミの卒業生も500人近くあったはずで。

自由な学風を維持する本学では、随分勉強させて貰い、著書も10冊近く、また多くの論文を発表させて貰いましたこと、全く感謝しています。今後も専ら著述活動が続けたいと思っています。なお、最近エッセイ集として、たいらみのる著で「肚ふるるるわざの弁」、「心情的スタイリスト」、「人生はほろ苦いもの」、「表六玉は

### 先生の近況

かく語りぬ(何れも京都、晃洋書房刊)の4冊を出しました。卒業生諸兄、また小生のゼミ諸君、もし御志あれば小生を想い出す「さすが」として読んでいただければ幸いです。

### 近況



浜本ゼミOB生諸  
氏!  
お元気にご活躍のことと思います。小生も教育・研究に余念がございません。本年度は関ゼミ、全国ゼミ大会へ現役が参加いたします。また、サッカー部・ラグビー部のゼミ生も頑張っております。第3回公開講座の委員長として、今年準備に追われました。さいごに募金の件もよろしくお願いいたします。

浜本 泰





第300番目の  
卒論指導に  
感慨無量の今年

松村 文武

松村(文)ゼミ卒業生の皆さん、お元気でし  
ようか。私は幸い、昨年の最悪な健康状態を  
脱しつつあります。おかげで今年は久しぶり  
に3回生のゼミ合宿を行うことができました。  
さて、今年のゼミ生は3回生20名(定員上  
限)、4回生一部21名・二部9名の計50名で  
す。今年の変化はゼミ定員がようやく20名と  
平均私大並になったことです(国公立にはま  
だ及びませんが)。第2は募集定員20名に対し  
て40名の第1次申し込みがあったことです。  
ゼミ史上、最高の競争率です(理由不明)。第  
3は今年の4回生の卒論をもって第300番  
目の卒論指導となるということです。ゼミを  
担当して、通算15年にして300人のゼミ生  
を送り出すことになったわけで、感慨無量の  
ものがあります。

最後に出版のお知らせ。私のここ10年近い  
アメリカ対外経済分析が本になって出ていま  
す。折があれば一読を。新刊紹介 ページ参  
照 定価3,800円



北里教授傘寿  
のお祝いと  
第5回目の総会

北里会

今年度は北里教授傘寿(80歳)のお祝いと第  
5回という節目の総会に当たるため、より多く  
の皆様方に集まっていたきたいと念じ、お  
盆の前で、かつ、第2土曜8月10日を選び、  
そしてまた、ゆつくりとくつろいでいただく  
目的で宝塚温泉の「若水」で開催しました。

北里教授ご夫妻がお元気でご出席され、泉  
谷教授、松本教授、それに同窓会からは比企  
事務局長もご出席下さり、総会に、懇親会に  
と盛りあげられました。教授のご近況として  
お話しも楽しく拝聴しましたが、その中で「最  
近は会計学の本は余り読まず、仏教の本ばかり  
読んでいます。特に、この頃は『有難い』と  
いう気持ちで一杯だ。金剛心経にある『虚空  
同体』という言葉が本当に感じられる」等と  
話され、感慨深い一時を過ごしました。ま  
た、総会は、今年が、役員変更年になってお  
り、会員一致で新役員も決まり、北里会とし  
て記念館の為に大学へ10万円の寄付が決議さ  
れ、出席者全員、今後の発展を誓いあいまし  
た。

今回出席出来なかった方にも来年こそは是非  
出席され、北里教授と種々お話しをされ、  
そして、比企同窓会事務局長や両教授から大  
学の近況を身近かに聞かれ、若かりし頃に帰

えり、楽しい話に花を咲かせて下さい。

来年度行事も新役員の皆さんが努力し、少  
しでも多くの方々が集まって下さるような企  
画を検討中です。いずれお目にかかれる日を  
楽しみに……。  
(高野、国守 記)

北里会 会則 一部変更

S 60・8・10

第3条 2、副会長 1名を2名に変更

第8条 会計年度は毎年3月1日より2月

末日迄とする 会計年度は毎年  
総会日より翌年の総会日前日迄と  
する。



北里会 新役員

S 60・8・10

会長 高野 守(22)

副会長 上野 晃司(24)

春木 洋次(32)

常任幹事 西川恭三郎(34)

企画 三町 龍寛(22)

越川 昇(35)

総務 岡 本幸博(23)

春田 敏行(39)

小林 幸一(37)

大門 由秀(46)

監査 岡田 健二(20)

和泉 武周(22)

顧問 佐藤浩一郎(19)

中村 知義(19)

内山 喜市(22)

先生の近況

引退の辞



岩井 茂

私が大阪経大の教  
壇に立ったのは昭和  
26年の春でした。当  
時、本学は新制大学  
として発足して間もないころで、教員の  
充実が必須の要請でした。そこであたかも  
私が野にあったので、一橋大学の左右  
田ゼミの先輩であった故大北文治郎先生  
が、私の勤め先へお伺ね下さって、出講  
を要望されたのです。幸い、話が順調に  
運んで、それ以来、本年3月までお世話  
になりました。その11年間は、神戸外大  
(これも新設校で教員充実に)へ本務校  
としての籍を移しましたが、本学は在籍  
のままでした。

思えば通計34年になります。その間、  
ゼミの学生諸君の数は千名を超えるはず  
ですが、同窓会からのアンケートで、「岩  
井ゼミ」所属と書いて下さった諸君は300  
名足らずです。私の不徳のいたすところ  
と申訳ありません。とにかく永い間置い  
て下さった大阪経大に対し、また私の講  
義を聞いて下さった諸君に対し厚く御礼  
申し上げます。

退職のごあいさつ



黒羽 兵治郎

拝啓 陽春の候  
ますます御清栄のこ  
ととお慶び申し上げ  
ます。

さて、私儀、去る3月31日委嘱期間の  
満了により、日本経済史研究所長を退職  
いたしました。在職中は格別の御厚情御  
支援をいただき、厚くお礼申し上げます。  
研究所のことも含め、永い間公私にお  
たつて賜りました御厚誼に対しましては、  
全く感謝の言葉もございません。いずれ  
改めてとは存じておりますが、とりあえ  
ず略儀失礼ながらこの段書中をもって退  
職の御挨拶を申し上げます。誠にありが  
とございました。

好季節とは申しながら、何とぞ御自愛  
下さいますよう、御健勝のほどお祈り申  
し上げます。

昭和60年4月

敬 具

短 信



竹林 庄太郎

現在、過労のため  
入院加療中です。  
秋には登学予定し  
ております。同窓諸  
賢のご健勝とご活躍を祈り上げます。



お願い  
北里会を設立いたしましたから今日までの運営は、初年度にご送金いただきました運営費でまかなってききましたが、諸物価高騰、特に通信費等の支出がかさみ、運営がいささか苦しい状況になっております。

つきましては、60・61・62年度の運営費として3,000円を徴収させていただきますので、何卒ご理解いただきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。  
なお、運営費につきましては、同封振込用紙にて

加入者名 北里会 宛 ご送金下さい。  
連絡先 越川 昇



「西田哲学」を講演  
寸心忌記念講演会に  
鈴木学長が講師

6月7日(金)、命日にあたる7日(昭和20年没)に、西田幾多郎博士(号||寸心)の第41回寸心忌にちなんだ記念講演会(西田幾多郎博士頌徳会・西田記念館などの主催)が、博士の出身地宇ノ気町と、金沢市内の2会場において開かれました。羽咋市出身でもあり、西田哲学の継承者として、本学鈴木学長が講師として招かれ、講演されました。

第一会場 宇ノ気町社会教育福祉会館  
演題 「人間の生きる道」  
時間 10時30分〜12時10分  
対象 町内高校生および町内有志  
参加者 約250人

第二会場 石川県社会教育センター  
演題 「西田哲学の現代的意義」  
時間 18時30分〜20時40分  
対象 一般人  
参加者 約150人

『北国新聞』6月12日付掲載記事の、講演内容を、ご紹介いたします。  
「西田哲学の現代的意義」と題しては、「思想家というものは、時代に必要となれば必ず

墓の下から呼び出されて非常に大きな力、影響を与え、時代に合わなければ見捨てられていくという運命をもつ。そのあたりが芸術家や科学者らとの違いだ」

また科学と哲学について比較し、「対象をどこまでも細かく分けて、細かい領域から法則性を見つけ出していく。逆に哲学の存在は私たちが生きている世界全体を包括的にとらえようとするところにある」

さらにヘーゲルやマルクスの弁証法、プラトンからカントにつながる「理念」の概念、キリスト教やその他の宗教がもつ神の「絶対性」などについて論じながら、「全宇宙あらゆるものに通じている物事の関係を、論理的に表現すると、絶対的に矛盾していないが同一だとわかるを得ない」と西田哲学が最後に達した「絶対矛盾的自己同一」の論理について語った。

と記されています。  
なお、同会開催にあたり、同窓会富山支部の重松支部長、石川支部の柚木支部長、福井支部の内田支部長のご協力を仰ぎ、支部同窓生諸氏へPR、ご案内を頂き、誠にありがとうございました。誌面をおかりして御礼申し上げます。  
(大学広報部)

大阪経済大学簿記会計研究部  
OB総会開催のお知らせ

毎年いろいろな場所でOB総会を開催してきましたが、今回は先輩諸氏が在学しておられた当時の母校が大きく変わりつつある現在の姿を直接見て頂こうと思ひ、久方ぶりに本学で開催することとしました。  
土曜日の昼からということもありますが、時間のあいている方は、ぜひ、ご出席下さい。

日時 60年11月16日(出) 午後3時より  
場所 本学東学舎 本館4階第2会議室

『大樟』を古久保五郎先生が編集

大阪経済大学体育会運動部部史『大樟』を古久保先生の編集により、刊行されました。  
「小生が59年3月退職に当たって、部創設の苦心を後輩諸兄姉に知って貰うため編集した」とのことです。

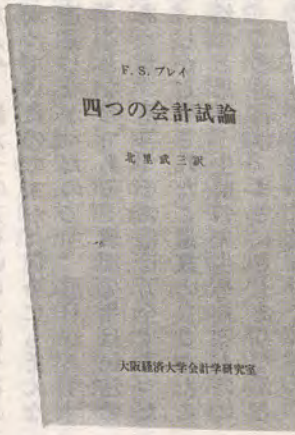
59・9発行 A5判 168ページ



北里武三訳  
『F.S.ブレイ 四つの会計試論』  
泉谷勝美

本書は、本学名誉教授北里武三先生が在職中の昭和30年代に手がけられた英国のブレイ F. Sewell Bray の名著「Four Essays in the Accounting Theory, London, 1953」の邦訳です。  
北里先生の退職を契機に、先生の翻訳ノートを拝借し、松本剛教授がこれを整理して本学会計学研究室から刊行したものです。

注 若干の余部が残っています。必要な方はお申出下さい。



先生は、本学への就任前からペイトン・リトルトンの会計基準に関心をもち、その業績は『ペイトン・リトルトン会計基準の研究』として刊行され、その成果は学会から高く評価されていることは、卒業生の皆様もご承知のことかと存じます。先生はその後、

イトン・リトルトン学説に対比しうるものとして、このブレイ学説にとりくまれました。当時の先生の会計学の講義やゼミナールで、両学説の比較論をお聞きになったことも、卒業生の皆様にとつては今は懐かしい思い出かもしれません。  
持ち前の語学力を生かした邦訳ノートは、つい昨年、本学図書館で展示された程で、推敲に推敲を重ねられた跡がよく窺われます。先生の情熱に刺激された学生のなかには、ブレイ教授に直接質問状をだし、丁寧な返事をもたらしたのもいたとのことです。  
私たちは先輩の残された偉大な業績をうけつぎ、かつ、その成果を世に送るべく、当時北里ゼミに同席しておられた松本教授の全面的な協力をえて、ここに日の目をみるにいたったものであります。  
先生は、このように、ペイトン・リトルトン説、ブレイ学説の研究者として、日本の会計学会でも、よく知られているところであり、ますが、生来、宗教に対する信仰心が深く、今では会計学からはなれられて、宗教論の研究に情熱を傾けられているようにみうけられます。本書の巻末に掲載した、松本教授の筆になる北里先生の横顔、「虚空誦経の世界」は、よく先生の人となりあらわしているようにおもわれます。



# 名物教授

## 風間先生宇宙旅行へ

松本 義和(18)



「風の便りに聞いたんですが、風間先生が亡くなられたのをご存知ですか」

友人の山中君から電話があったのが4月の21日だった。早速ご子息にお電話したところ「4月12日に亡くなりました。いろいろ事情がございまして、今日夕方の4時頃にお伺いしたいと存じます。いずれその時に……」お話を聞くところによると

「父はご承知のように大変変わっておりまして、こと細かに遺言状をしたためておりました。亡くなる前にも枕もとに私達を呼びよせて、何回となく聞かされました。その主なものは、骨を拾ってはならない。葬式を出してはいけない。他人様にご迷惑をかけてはいけない。香典や供花などもつての他である。というような内容でした。しかし、かといって骨を拾わないわけにいかず、ごく少量だけ持って帰りました。葬式を出してはいけないと

言われましても、キリがつきません。そんなわけで母親と兄弟姉妹、そのつれ合いと孫だけで、ほんの肉親だけの葬儀を済ました。群馬県には父の弟をはじめ親類縁者も沢山いますし、各大学関係者、また親しくしていただいた友人や、教え子の方もいらつしやることはわかっていたのですが、何分にもそんなわけで連絡しなかったのです。悪しからず」ということなのである。風間先生は民法の大家であった。遺言、その他は万全であったと思う。しかし残されたご遺族のなさったことも当然だと思ふ。生前の先生を知るものにとつて、この遺言は、まさにさもありなんという感じである。まことに大らかで、ユニークな先生であった。

私達が専門学校に入ったのが昭和22年。戦後間もないころで、衣食住にわたって困難をきわめた時代だった。お互いに空き腹をかかえての授業だったし、また当時は大学昇格という大事業もあつて、先生と生徒の連帯感は特に強かった。反面、大学法案をはじめとする激しい学生運動のなかで、ストライキも何回となくやつた。先生は学生課長として生活指導の責任者、その度に対立したが、最後には学生の枠だけははずすなよと、温く見守っていた。

そんなこともあつて、当時のゴングクレがござつて先生のゼミナールに入った。卒業前のゼミの打ち上げは、京都今熊野の先生宅へ大勢で押しかけて奥様にも大変ご迷惑をお掛

けた。ゼミだけではない。年に何回となく「互笑会」だの「東風会」だの勝手に会をつくつて訪ね、宴が深夜に及び、数百メートル離れた宿屋にみんな泊つたこともある。雪がしんしんと降る寒い夜だった。

そんな私達に、先生は卒業を前に、次のことをこんこんといつてきかされた。

その第1は、人の欠席裁判は絶対にするな。これは友情をそこなうもとのだ。

第3は、平凡なことだが、人生は一回しかない。泣いても、悔やんでも一生は一生、同じことなら笑つて愉快にくらせ。

そういえば先生の猥談、色漫筆は絶品だった。反面、人の悪口に類するものは、ついで聞いたことがない。また探求心、好奇心は旺盛で、いくところ常に笑いだつた。

エピソードその1、卒業後、ストリップショウなるものが各地に出来た。先生と友人と3人に入った。颯爽とカブリつきである。「おいすこいぞ。臭つてくるよ」残念ながら先生は低音が出ない。講義の声そのものである。舞台上から「おっちゃん、おっちゃん、ニヤニヤして上を向くと、大きな鼻の穴にオケケが入るぞ」「ワッハッハッハ」

その2、そのころの名物に叩き売りがあつた。何でも叩き売るのである。これに出逢うと、

さつそく最前列にもぐり込む、「どや、ここにまつさらの靴があるで10円、10円、買わんか」これにすぐ反応する。「買った」「ほんまに買うか」「ほんまや」「これ右と右やで、おっさんどないしてはくねん」爆笑。まことにさくらそのものなのである。

そういうえば、亡くなられる最後の一言も「俺が亡くなつても、泣いたり、悲しんだりするなよ。俺はこれから宇宙旅行に行くんだから、お前達が生きてる間には帰れんかも知れないが、いざれ帰つてくるよ」

神戸商科大学、大阪府立大学そして龍谷大学と移られたが、今年3月31日をもって退職されたばかりであった。

# 無駄と有用

喜田ゼミナール同窓会

会長 松村 英二(21)

喜田ゼミの第一回生(昭和30年卒業)13名が集まり、喜田先生を囲んで発足しました喜楽会も、はや20年になります。

年の瀬もおしつまつた12月に忘年会を兼ねて開催してきました。その後、回を重ねるうちに、先生が古希を迎えられることになりました。なによりおめでたいことだと、古希のお祝をしようと喜田ゼミ教室卒業生700名に呼びかけました。北は北海道、南は九州から210名が参集し、東大阪「寿楽」において、喜田ゼミ同窓会の第一回総会を開催しました。9年前の51年2月11日のことです。

先生は顔を紅潮させ感激された様子でした。戦中、戦後派、また現代っ子といわれる学生たちも、世代の垣をはずし、青春時代にかえつた思いで盃を傾け、語り、歌いあいました。

先生は例のとおり慈悲深い熱い眼指しを全員に注がれました。常日頃、静穏なお人柄の先生も、夜を徹しての懇親会で些か饒舌だったのが印象に残ります。

会の発展とともに熱海の「かじか荘」で東京大会、松山では四国大会と、地方で活躍するゼミ卒業生たちが集会しました。先生はご夫人同伴で出席されることもあり、松山城を共にに遊覧されるお元気なお姿がいまも鮮かに脳裡をよぎります。

昭和56年3月、喜寿の齢を迎えられました。30年の歳月にあたり、本校で教鞭をとられ私達を指導してこられました。退任され名誉教授の称号を授与されました。

そこで私達は、隔年毎に開催していた総会を「祝賀記念同窓会」として記念式典を開催しました。その時、先生から「無駄と有用」というテーマで講義をいただきました。

「人生には無駄なようなことも多々ありますが、それが血となり肉となり、有終の美を飾るものだ」と、先生の長い人生体験の中で

培われた信条を語られました。それを最後に久しくお目にかかることもなく計報を受ける破目になり残念です。

私達喜田ゼミ同窓生は先生からえがたい遺産を受けています。21世紀を目前にして激動する現代社会の中で、喜田イズムの大輪の花を咲かせたく思っています。

故喜田義雄先生のご冥福をお祈りいたします。





# 春の部活動

## 合気道部

わが合気道部は、今年の新入部員で第26代目を教え、本学のクラブのなかでも伝統的なクラブです。1年間の活動内容は春・夏季の合宿や、春秋の関西合気道連盟による合同練習、あるいは日本武道館で春に開催される全日本合気道演武大会、冬の全国学生合気道演武大会に参加することです。

また、わが部は演武で、合気道でもむつかしい太刀取りを伝統としております。全国学生合気道演武大会で一昨年は入賞、昨年は日本一とも言える会長賞をいただいて、実力的にも、他大学の合気道部にひけをとらないクラブだと自負しております。

## バスケットボール部

そのためには、日ごろから練習、練習を合い言葉に努めております。

われわれ体育会バスケット部は、現在、関西バスケットボール一部リーグにおいて7位であり、4回生4人、3回生1人、2回生3人、1回生7人の計15人で活動しています。

少人数ではありますが、個々の技術および忍耐力を伸ばすため、懸命に練習に励んでいます。少数ゆえに練習は厳しい面もありますが、お互いに励まし合って、この厳しさを乗り越えています。

春の戦績は、大阪府学生バスケットボール大会において第3位となりました。

## 自転車部

わが自転車部は、昭和33年に同好会として発足、36年に部に昇格

## 競技スキー部

われわれ体育会競技スキー部は、現在4回生9名、3回生5名、2回生5名、1回生9名の計28名から成っております。

この春、全関西学生スキー選手権大会が大山で行われ、見事、念願の二部総合優勝を手にして、一部昇格をなすことができました。

5月19日に長居陸上競技場で行

## 準硬式野球部

全関西選抜チームの一員  
中国遠征を終えて

6月30日、私は全関西選抜チームの一員として、大阪空港から中国へ向け出発しました。わが経大からは他に角谷智志(4回生)、金森一弘・山本直人(3回生)との4名が参加しました。このチームの監督として、OBの牧田安夫(19)さんが同行されました。

最初の試合地、北京での第一印象は人・自転車の多さ、交通規制の甘さ、そして暑かったことでした。

た。とにかく、すべてに関してスケジュールが日本と違い、大きかったことです。

だが、試合の方は雨にたたられ1日2日と延期、4試合のうち対天津戦は中止となってしまうました。残る第1戦、第2戦はともにペースに乗れず敗退しました。

最終戦の上海戦では、雨にたたられた北京とはうらはらに、異常な暑さのなかでの試合となりました。ここでは今までと違って、われわれは最初からペースに乗り、結局全選手が出場しての快勝となりました。全員の顔によくやぐ安堵の笑みが浮んできました。が、折角出てきたこの調子は、日程終了でとても残念でした。

しかし試合以外に2度のレセプションがあり、万里の長城、天安門の観光など印象が深く、日中親善も十分に果たせたと思います。また、わが関西チームは混成とは

思いがけもなく、6月末から7月10日まで、4年振り、8度目の中国訪問の旅に出た。

いままで、すべて、公務出張の旅であったが、今回は、一市民

監督

牧田安夫(19)(東京都交響楽団監事)

として野球を通じての友好親善の旅であった。

正式には、関西地区大学選抜野球(準硬式)チームの監督として、23名の選抜メンバー(本学準硬式



思えないほど、チームワークの良さを発揮し、一層有意義な遠征となりました。そのなかで経大選手は、近畿大会優勝チームの一員として、大いに頑張ったと確信しています。

この遠征に際して、ご支援下さいました皆さまに深く感謝しております。

(経営学部4回生川村兎士)

して以来、24年の伝統を誇りに思っています。

その間、42年に関西で初めてサイクルサッカー班が設立されました。

年々、競技人口が増加してゆくなかで、わが部は試合においては常に上位に位置し、関西においてはリーダーシップをとっております。

今年度前半の戦績においても、レース班では淀都戦第2位、サッカー班でも春季リーグ戦優勝という、輝かしい成績をおさめております。

練習内容は全く異なるレース班とサッカー班ではありますが、部員一同、勝利に向かって日々練習に励んでおります。

野球部から4名参加)を引きつれたの中国遠征の旅であった。

私の訪中を知って、旧知の中国美術家協会総書記の刘迅氏が、多忙の中を早速、宿舎にかけつけてくれたり、北京市人民政府の人達が一夕、宴をはってくれたりして、いままでとは形は変わっても、日中友好のために、よくきてくれたと熱烈な歓迎を受けた。

中国における棒球(野球)の歴史は浅く、国家的にも、まだ、力の弱いスポーツである。

しかし、各地で会った棒球関係者の熱意はすこく、その発展に情熱を燃やしている気魄が、ひしひしと感じられた。

「早く野球がオリンピック種目になってくれれば」という話を関係者からいく度か聞かされた。その言葉の意味する内容は色々あるようだが、最終的には、世界の檜舞台で、見事中国野球の花をさかしてみたいという強い願望に帰結するように思えた。

私の見た限り、中国の各都市の選抜チーム(社会人、学生の混成)は、技術的には、いま一步という感じがしたが、一人一人の選手は、素質的にもすぐれたものを持っており、特に、先天的とも思えるそ

の肩の良さには、驚くべきものがあった。近い将来、必ずすばらしいチームになると思う。

現に、選抜チームが、結成後、連日の雨で、一度も満足な練習もできないまま訪中し、また試合が硬球という事情もあったが、苦戦を強いられ、最終試合こそ16対0と調子を出し、面目を保ったが、2敗という成績から見ても、その力が察せられると思う。今回は、終始雨にたたられて、予定された試合が消化できず、わずか3試合に終わったこと、選抜チームも練習不足や、スケジュールの関係で、最初は十分力を出しきれなかった







こと等、心残りな点もあったが、しかし、両国の将来を担う青年達の野球を通じての交流によって、日中の友好親善の実を十分あげたと信じている。

また、選手達が、この遠征中、その目で見て、その耳で聞いた実際の中国、そして、経験した色々なこと。こうしたことは、選手達にとって貴重な財産となり、その体験は、将来、必ず役に立つと思うし、日中友好のために生かしてくれると信じている。

最後に、今回の中国遠征について、本学の選手達に、学校当局、同窓会からも多大のご援助をいただいたことに対して、私からも改めてお礼を申しあげます。

### ワンダーフォーゲル部

われわれの活動は自然を舞台とし、山登りを初め、さまざまな活動を通じて、地方文化・人・風習を知り、部員相互の団結をもつて体力・精神力を助長し、学生生活を充実させることを目的にしております。

現役部員は4年11人、リーダー



8人、2年6人、1年10人、総勢35人で、現役・OBが協力し、関西ワンゲル界をリードしています。

今年度、26代リーダー会は「ワンゲルの原点に還る」をテーマに、新人養成を神戸六甲、京都北山、金剛葛城で3回、強化合宿を比良で行い、夏合宿を北アルプスで3パーティ分散集中を行う予定です。

また後期の活動予定は、10月に秋合宿を分散形態で、春合宿は分散集中を行います。

さらに、9月から始まるリーダー養成において、わが独立総部ワンダーフォーゲル部としての、来年度の活動基本方針を確立させ、なお一層、努力して参ります。

### 吹奏楽総部

昭和42年に独立し、再出発しましたわが吹奏楽総部は、諸先輩がたが築いてこられた伝統を受け継ぎながら、絶えず技術を磨き、音楽性の向上を目指して、よりすばらしい「吹奏楽」を追求しております。

また、同時に部員個々の人間性を高め、部員相互の和につとめていきます。

7月16日の第17回定期演奏会に



向けて、目下練習に励んでいます。

この定演は、創部25周年の行事にあたりますので、初めて混成合唱団との協演を企画しております。

冬にはウィンター・コンサートもひかえ、さらに充実した部活を行って、経大吹奏として精進してゆ

くつもりです。

今後とも、同窓生の方がたのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 淀都五大学総合定期戦

恒例の淀都五大学総合定期戦が今年度は、本学を主催校として開催されました。

本大会は今年で22回を数える伝統ある大会となり、6月1日から8日までの1週間、22種目(うち本学1種目欠場)が本学体育館、江口グラウンド、その他の会場で繰り広げられました。

今回は21種目完全優勝をめざし、体育会員が一丸となって戦いました結果、本学は16種目において優勝をおさめ、2位大阪工業大学に追撃の機会を与えず、第9回大会以来、14年連続、通算20回目の優勝を飾りました。

なお、今大会の総合成績は次のとおりです。

- 優勝 大阪経済大学 89点
- 2位 大阪工業大学 60点
- 3位 桃山学院大学 58点
- 4位 大阪産業大学 41点
- 5位 大阪電気通信大学 32点

## その他の体育クラブ活動状況

### (優勝・準優勝のみ)

- ・近畿六大学準硬式野球リーグ 新人戦 優勝 59・6
- ・近畿六大学準硬式野球秋季リーグ戦 優勝 59・9・10
- ・近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝 60・4・5
- ・全関西地区選手権大会 優勝 60・6
- ・近畿六大学新人戦 優勝 60・6
- ・60年度全日本選手権ベスト4 <硬式庭球部>
- ・関西学生テニストーナメント 準優勝 59・6・7
- ・関西学生テニス四部リーグ戦 優勝 60・4
- ・関西学生テニス三・四部入替戦 三部昇格
- <軟式庭球部>
- ・大阪学生軟式庭球優勝大会 準優勝 59・6・7
- ・阪神八大学軟式庭球選手権大会 優勝 59・10
- <ハンドボール部>
- ・関西学生ハンドボール秋季リーグ戦準優勝 59・9・10
- <卓球部>
- ・関西学生卓球新人戦 個人 シングル 優勝 坂本裕(1) 60・5
- <バレーボール部>
- ・関西学生バレーボール秋季リーグ戦準優勝 59・10
- ・関西学生バレーボール二・三部入替戦 三部昇格 59・10
- <アメリカンフットボール部>
- ・近畿学生リーグ中部ブロック 準優勝 60・5
- <ボクシング部>
- ・全日本選手権大阪府予選 L・W級 準優勝 小西博之(4) 59・4
- <陸上競技部>
- ・第21回関西学生陸上秋季大会 200M優勝 山本信行(2) 59・10
- 1600Mリレー優勝 走幅跳 優勝
- ・西日本学生学校対校選手権大会 <アイススケート部>
- ・関西学生氷上競技新人選 準優勝 小路隆之(2) 59・3
- ・関西学生氷上競技連盟 準優勝 A級団体 59・10
- 優勝 B級団体
- ・関西学生氷上競技選手権大会 準優勝 A級団体 59・11・12
- 優勝 B級団体
- <ゴルフ部>
- ・関西学生ゴルフ春季リーグ戦 三部 準優勝 団体 59・4
- <カヌー部>
- ・第15回大阪学生カヌー選手権大会 優勝 59・6
- <洋弓部>
- ・関西学生アーチェリー春季リーグ戦二部2位 60・3・4
- <重量挙げ部>
- ・大阪選手権および国民体育大会 子選 準優勝 59・8





明日への挑戦  
サッカー部監督

山本 保(35)

まだ春が遠い2月11日(建国記念日)、栄光と伝統の復活を目指して、新入生9名を含む総勢34名が大地を蹴って本格的に始動開始いたしました。

昭和57年秋、関西学生サッカーの表舞台から姿を消して雌伏3年、今年こそ念願の一部復帰を果たすべく、全員一丸となって厳しい練習に取り組み、例年にも増して燃えております。

現在、関西学生サッカーリーグ二部に所属しており、毎年春季リーグ戦では好スタートを切り、1位になっております。しかし、本番の入替戦を賭けた秋季リーグでは、残念ながら力不足、もう一歩のところまで涙を飲んでいきます。

そこで、本年度は春・夏の目先の勝負にこだわることなく、秋季本決戦に向けて準備をあわし、ロングランの練習計画をスタートさせました。ゆっくり焦らず、着実にレベルアップを確認しながら、

目的達成に向かって取り組んでおります。

実は数年前から、学生スポーツを取り巻く環境が大きく変化するなかで、大学のご理解ならびに同窓会のご尽力によるスポーツ推薦入学の導入に始まり、OB会(大阪経済大学サッカークラブ)の組織の活性化と、支援体制の強化を受けて、現物の方ではサッカー部専用寮の確保と運営、高校との練習試合および指導者との交流による結び付き、人間関係の強化、また大学指導者との定期ミーティング(関西学生サッカーのレベル向上のため)の開催や、大阪商業大学との定期戦の締結、そして協会・学連に対する人材の派遣等、地道に努力してきたことが定着・浸透し、徐々に効果が出て来ております。

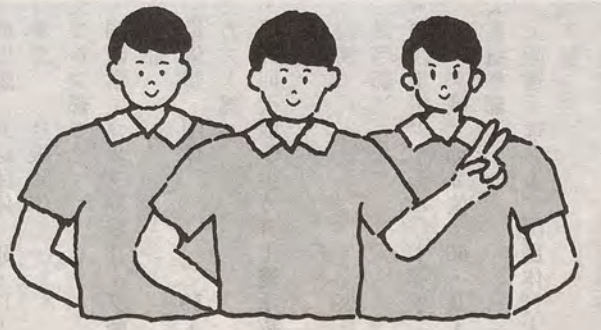
私もサッカー部は、学生スポーツの原点である勉学とスポーツの両立、および礼儀(あいさつ)

の徹底をモットーとしております。気合いと出足と根性(精神面)をもって蹴り負け、当り負け、走り負けしないこと(肉体面)を大前提にして、さらに個人の技術および個人・チームの戦術の肉付け(技術面)、レベルアップを行い、学生らしいサッカーを目指しております。そして、もう一つ簡単でいっても、誰でもできる当り前の仕事を私生活、練習、試合を問わず、コツコツ着実に積み重ねていく努力を大切に考えています。

今後のスケジュールは、7月に一部強豪チームとの強化試合、商経定期戦(対大阪商業大学、7月21日、靛)、夏季合宿(8月10日、20日、南宇和)を行い、秋季リーグ戦に万全の態勢で挑みます。これからも、今までも増して練習に努力と精進を重ね、チームの総力を結集して、悲願の一部復帰を果たす所存であります。

最後になりましたが、同窓会およびOB会の皆さまがたに一方ならぬご支援をたまわりまして有難く、衷心からお礼申し上げます。なお、今後とも何卒よろしくご指導ならびにご鞭達をたまわりますようお願い申し上げます。

昭和60年7月

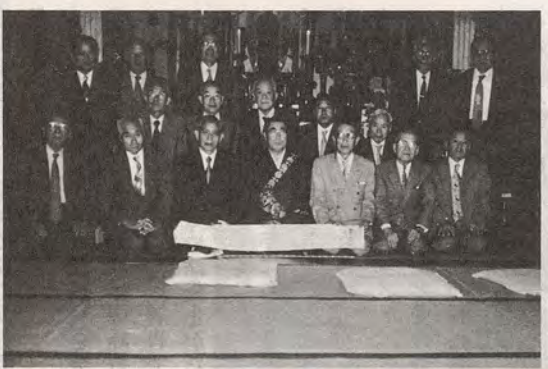


◇経大生協設立25周年記念パーティ開催

59年11月27日(火)、学生会館1階食堂ホールにおいて、本学生協同組合の設立25周年記念パーティが行われました。古久保五郎理事長の挨拶に始まり、大槻弘学長代理、広田実(1)評議員の祝辞などで雰囲気も上がり、関係者10余名が賑々しく祝いました。

同期生クラブOB会

故学友の追悼法要を兼ねて



会うことに意義を見つけて  
長崎から、東京から

昭和59年11月11日(日)第2回「澱友会」を大阪市内の「徐園」にて建林、藤原両先生並びに磯野同窓会会長をお招きして開催しました。

参会者のなかには、遠く長崎、東京から参加していただき、幹事一同感謝しております。磯野同窓会会長より学校の現況

第4期生会

昭和59年10月6日(土)第4回生18名が相集い、今は亡き学友40名(同期の卒業生94名)の追悼法要を有馬・念仏寺に於て、午後1時より執り行い、引き続き、会場を有馬ランドホテルに移し、2時30分より2時間の懇親会、入浴後6時30分より総会を催す。

幸い、在学時代の恩師武田長太郎先生を岡山からお迎えして、47年前の昔にかえり、夢うつつの中時のたつのを忘れた。

翌朝、「来年の岡山総会」を合言

澱友会(第5期生)

ならびに創立50周年記念事業の詳細なお話を聞き、参会者一同学校の発展状況もよくわかり、たのもしい感にうたれました。

我々の会友も古希を迎える者、あと数年で古希となるもの、いわゆる古老に入る者ばかりで、若きよき時代の話、はては孫の自慢話まで飛び出して、時間の過ぎるの

葉にして、東は津(山辺君)、西は別府(今戸君)、北は金沢(松本君)へと別れを惜しみつつ、岡山での再会を約して散会した。

なお、当日の出席者は左の通り  
稲見実、今戸国広、(宇野) 榎田久雄、小幡孝三、河本博、小山輝夫、(駒田) 山本富郎、佐々木聰、桜井秀雄、中村源、服部博、平野多賀司、松本芳二、三木薫、宮平盛助、森元庸晃(悟楼)、山辺富巳生、世話人  
榎田久雄、三木薫、宮平盛助、森元庸晃

宮平盛助記





も忘れ一日歓談しました。  
この会は会うことに意義がある  
と自負しております。次回には今

まで以上に多数のご来会をお待ち  
しています。  
(幹事)長岡辰生記



### 松浦(木田) 圭子さん(13) 「企業会計審議会委員」を拝命

大阪市北区茶尾町13-6 梅田  
東ビル「松浦公認会計士税理士事  
務所」において活躍中の松浦さ  
んは、昭和59年4月22日付で大蔵  
省企業会計審議会委員を拝命され  
ました。任期は2年。

企業会計審議会とは、大蔵大臣  
の諮問機関として、大蔵省証券局  
に属し、「企業会計原則」「企業会  
計原則注解」「連結財務諸表原則」  
「連結財務表原則注解」「原価計算  
基準」「監査基準」等の制定や、各  
種の意見書、個別問題に関する意  
見や基準、解釈指針の公表を行っ  
てきました。

これらは、商法や法人税法にお  
ける会計法令の改善、証券取引法  
における財務諸表等規則の制定、  
連結財務諸表規則や中間財務諸表  
規則の制定に重要な役割を果たし

てきました。

松浦さんは、このような重要な  
審議会委員に、全国で初の女性委  
員となられたのです。

青木茂男先生(早大教授)を会  
長として、委員の顔ぶれは中島省  
吾先生他一流の方ばかり、著書で  
しかお目にかかれない諸先生がた  
に伍しての紅一点。

「国際婦人年最終年にあたり、  
中曽根政策の一環として、どの審  
議会にでもおそらく女性の「初」  
参加が見られるのでしよう」  
とは謙遜してのご挨拶と受け取  
っておいても、それなりの評価あ  
ればこそその任命と、同期生一同、  
心から声援を贈ります。

今後ともご健闘を祈ります。  
(文責 前田)



最後に、ご多用中にもかかわらず  
錦上添花を添えていただいたご来  
賓の皆様方には心からお礼を申し  
あげます。(世話人日記)

### 初めて四国で開催 '85鳴門ピアを見学

「青春萬里」これは黒正先生が  
私たちの卒業アルバムに書いて下  
さった言葉である。その勢いのあ  
る踊るような字を見ていると学生  
時代を思い出す。もう45年も経っ  
ている。

小松島市の西崎規明君から四国  
勢6人連名の案内状が届いた。「今  
年は徳島がお引受けします。学友

### 第12回第8期生会

の面影をたどりながらご案内を差  
しあげています。修学旅行で渡っ  
た淡路、鳴門間に、今東洋一の  
大橋がかげられました。その移り変  
りの中に身を置いて、お互い昔を  
しのび、大いに語りあおうではな  
いか……。過ぎし青春時代の夢を、  
同期生フェスティバルで再現し、  
若返ろう……。そして、第12回

### 7回卒同期生会を開催 七生会と命名

### 七生会 第7期生会

第二、第三の職務を終えたわれ  
われ昭和商高7回卒生会は戦争で  
約半数の学友を失い、もう二度と  
増えることのない貴い生き残りの  
集団である。

昨年、また一人、北九州市の池  
田房穂君が、あの世とやらへ旅立  
った。

そこで、集まれる時に集まれる  
ものだけが集まってお互いの健康  
を確かめあいたい、という希望が  
あり、今回の会合となった。

本年3月2日(土)午後3時、  
レストラン・パレス・クラ・クル  
に建林正喜先生(現岐阜経済大学  
学長)、渡辺達好学校法人理事・同  
窓会名誉会長、磯野齊・同窓会会  
長、われらが親父と慕う黒正 巖  
先生の次男坊、黒正明氏(現母校  
就職部主任)をお招きして同期生  
(出席者35名)を開催した。

比企君の司会で定刻に、まず、  
物故者に対し、黙禱を捧げ、開会  
した。ご来賓からご祝辞をいただ  
いた後、渡辺、磯野両先輩からそ  
れぞれのお立場での母校創立50周  
年記念行事、ことに、記念館建設

の同窓会は、5月4、5日、大鳴  
門橋開通を真近にひかえ、85鳴門  
ピアで賑わう阿波の鳴門市で開か  
れた。

ゴールデン・ウィークの最中  
というので集まった者は12名。世話  
係の方も3名は急用などで来られ  
なかったが、西崎、武田、久米の  
3名が「熱烈歓迎」。心あたまる  
おもてなし、語り、飲み、歌い励  
ましあい……。会合の席上での話  
は、やはり亡き友の、健康を害し  
ている友の、そしていまだに消息  
のつかめない友のことである。私  
たちの期、もう絶対に増えること  
はない。年を重ねていって、こん  
なに心を開いて語れる友がほかに  
いるだろうか。会うほどに友の重  
みをしみじみと感じるのである。

一夜あけて、時速20キロメー  
トル、世界最強といわれる潮流が豪  
快に渦巻くさまを久々に観潮船上  
から見る。その上にかかる1629メー  
トルの大橋梁、まさに一大景観と  
いう言葉につきる眺めである。さ  
らに、85鳴門ピアを見学。限られ  
た時間に名残りを惜しみながら再  
会を約して別れを告げた。

「毎年大阪でやっつては」という  
声もないではない。しかし、同期  
生が京浜、中部、近畿、中国、九

に伴う寄付についてのご要請があ  
った。昭和商高の全盛時に在学し  
たわれわれ7回卒生は、愛校心と  
いう点ではどの卒業回生にも劣る  
ことはないと思自負している。しか  
し、未だ現役で第三、第四の人生  
を送っている人は僅少で、ほとん  
どが年金生活者であり、同期生会  
を開催するたびに、欠席者の返信  
に切切と述べられている真情には、  
熱いものがこみあげてくるばかり  
である。とはいえ、それはそれ、  
これはこれとして貧者の一灯を、  
身分相応に、捧げることを確認し  
あい懇親会に入る。司会者比企君  
より、この会合の名称について二、  
三提案があったが、「七生会(七生  
報国というイメージがないでもな  
い)、という人にはいわしておけ、  
とのことで満場一致で)名付けた。  
懇親会に入ると、もうそれは65  
歳を越したおじんの会ではなく、  
25、6歳の血気盛んな若者の集い  
という感じである。今回初めて参  
加してくれた人も二、三みられた。  
長野の伊東六雄君もその一人であ  
る。



州、そして四国と散らばっている  
ので毎年各地方で地方勢を中心  
に行い、都合のつく他地方の  
方々が馳せさんじる、さらには、  
必要に応じて母校のある大阪でと  
いう方法をとっている。

このたびは、初めての四国での  
会、出席者こそ少なかったが、四  
国にいる同期生は連絡をとりあい  
陰になり、日なたになりして会の  
成功に力をあわせていただいたと  
聞く。しかも、卒業以来、初めて  
出席という二人が参加したので本  
当に楽しく、充実した会合であっ  
たと感謝の言葉もない。

来年は広島富永訓三君から安  
芸の宮島でどうだろうという提案  
があり、お願いしようと考えてい



る。再来年は岐阜の丹羽好輝君が高山、黒部ルートへ夫婦同伴でこないかという案を出して下さった。楽しみなことである。友は第二の「我なり」という言葉がある。年に一度、どうか出来るだけ元気なお顔を見せていただくか、お便りをいただきたいと思います。

出席者

### 稗田正太郎君の冥福を祈つて

1月20日(日)、第4回の「ぼたん会」阪神部会は例によって梶村文弥君のお世話で、篠山のぼたん鍋で有名な「たかさご」で行われた。

参加者は9名、昨年元気な顔を見せた稗田正太郎君も今はなく、本当に淋しい。ご冥福を祈る黙禱のあと、1年間の久闊を叙し、宴に入る。いのしし肉が煮えるとともに、アルコールも進み、昔話に花が咲く……、いつも同じ話なのだが、それが楽しい。

梶村君お手配の立杭焼シリーズ今回は立杭には珍しいせいじ色の立派な菓子器であったし、さらに、篠山名物「山の芋」までいただき、大変なお土産を手に来年の

大谷 悟、木村彦二、久米義隆、琴野 浩、柴田真典、関田庄司、丹羽好輝、武田太郎、長尾 晃、西崎規明、宮武忠智、村山良久、なおご意見、ご連絡は左記へ

長尾 晃

### ぼたん会 第8期生阪神部会

再会を約して帰途についた。

「ぼたん会」は、ぼたん鍋をつつきながら、はずれていた同期生の友情のつながりのボタンをはめようではないかというのが趣旨の会で参加大歓迎である。どうぞご連絡下さい。



脇、三原、村田、桑津、筒井 60年出席者 井上、乾、伊東、大島、加藤

酒井、榊原、坂上、伊達、津田、北条、宮脇、桑津、筒井 (桑津・筒井記)

### 「はたち会」が柱となつて……

第20回卒業生の同窓会である「はたち会」は第1回目を去る57年3月7日、母校4階、同窓会ホールにおいて、感激の対面をしてから数えて早や4回目を昨年無事に実施出来ました事をご披露致します。

本年秋には、また、第5回目を準備中ではありますが、我々20回卒は、もともと、卒業人員が少なく幹事はじめ皆々様のご尽力と呼びかけにもかかわらず、毎回20名足らずの出席者で、その都度の顔ぶれから延約30余名対面の感激を経験したことになります。

まず、「はたち会」の趣旨としては、50歳を越えた我々が、これからも、一層、横の連絡がより必要であり、仕事の件、体の件、家族特に子供の件等々を話しあい、励まし合い、また、助け合う事が今迄以上に大切である事を考え、より一人でも多く出席の機会を持つよう努力したいと痛感しております。

### はたち会 第20期生会

まず。これを機に我々は「はたち会」の全員が同窓会の大きな柱となり、50周年はもとより、今後の大きな発展に寄与出来る事を大いに期待しております。

先般の59年11月11日(日)に梅田の「本むさし会館」で実施しました第4回「はたち会」においては右の趣旨に加えて、成人病に関するテーマを特別に企画し、皆様の



また来年も1月に集まります。今回の参加者(順不同)

木村彦二、梶村文弥、浅野義逸、大橋秀男、市川 宏、長尾 晃、柴田秀一、沢田新太郎、柴田真典

(柴田真典記)

### 卒業40周年を記念して(59年11月) 募金に対する協力を痛感(60年6月)

### 第11期生会

11期生会の開催 昭和59年は卒業40周年に当たる。太平洋戦争の敗色の兆しが出始めた昭和18年12月1日、一足先に多くの同期生を学徒出陣で学窓から送り出し、翌19年9月18日繰り上げ卒業が行われた。これを記念して11月16日(金)山中荘において11期生会を開催した。

出席者一同在学時代を思い出し、募金に対する協力を力強く感じた。伊達君の吟声にしばし耳を傾け、年に一度の会合を心より喜び、語り合った。

59年出席者、岩谷、井上、伊東、乾、魚谷、大島、河津、榊原、坂上、田中、土屋、津田、宮



当日は、藤原先生及び比企同窓会事務局長のご出席があり、また、遠路、流山市から田中益雄君の参加もあつて40周年にふさわしい雰囲気秋の夜長を楽しんだ。昭和60年は母校創立50周年の記念事業にかかる募金のお願いのため、毎年秋に予定している11期生会を6月8日(土)に繰り上げ、山中荘において開催した。

当日は、磯野同窓会会長にご出席いただき、学校の近況と募金活動の現状についてお話があつた。

### 全国から34名、大阪で開催 代表幹事に西本氏

### 第23期生会

去る2月11日(建国記念日)、23期生の集いが久し振りに開かれました。中には28年振りの顔もありました。場所は大阪市南区のホテル富久屋(社長は23期生、玉岡良夫君)で全国より34名が集まり楽しい一日を過ごしました。今回は都合で行けぬが、次回は、必ず、出席しますという知らせも多くありました。

り、皆の顔が知らぬ間に学生時代の顔になっていました。その後、カラオケ大会に入り、マイクも忙しく時間のたつのがわからない位でした。最後に提案が出され、現在、同窓会理事としては23期生では西本、坂口(旧姓前田)、酒井の3名が出ていますが、今回23期生代表幹事を選出しようという事に

大いに活躍され、益々の発展と同窓会の育成にご協力賜りますようお願い申し上げます。 「はたち会」の報告とともにお願い申し上げます。 幹事 打出 清記

来賓として大学理事である泉谷先生の御出席を得ました。同窓会本部よりは松本副会長と比企事務局局長にきていただき、学校の近況同窓会の近況等を伺い、大阪経大創立50周年記念事業の最中でもあり、同窓生諸兄の協力を要請されました。 久し振りにくみかわす酒に、雰囲気も最高に盛り上がり、一人一人の自己紹介は笑いあり、PRあ





なり、西本集一君が出席者全員の同意を得て代表幹事に就任しました。

ここに23期生の集いをお知らせし、諸兄の御健康と御発展を心よ

### 51名が集う初めての総会

学窓を巣立って、23年目の新春かと存じます。

今年1月19日(土)午後6時より大阪市北区新阪急ビル12F、レストラン・パレスにおいて卒業以来初めての第27期同窓会を開催しました。

当日、同窓会設立にあたって大阪経済大学学長代理として西野教養部長はじめ同窓会磯野会長、比企事務局長をお迎えいたしました。

総会は西野学長代理としてのお立場からのお祝いの言葉が始まり、磯野同窓会会長の母校創立50周年記念にあわせた第27期同窓会の設立は二重の喜びである旨のご挨拶をいただきました。ついで、比企事務局長の乾杯で待望のオープニングパーティに入りました。

何しろ23年ぶりという懐かしさも加わって、51名という多くの皆様が集い、パーティ会場に入りき

りお祈りして筆をおきます。  
酒井弘光(3)  
奈良県北葛城郡王寺町畠田5の17の3  
勤務先 大阪日産自動車(株)

### 第27期生会

れない程の盛況で、飲み、語り、そして名刺を交換する光景があら、こちらで見受けられました。実に同窓会でなければという雰囲気一杯でした。本場に多くの皆様に参加していただけたことが盛大な総会となりました事を幹事一同感謝致しております。



29名中返信のあったのは28名だった。さて5月19日(日)、第2回瑞光ラグーOB会を、奈良の飛鳥荘で開催、北は横浜、南は熊本より早々と参集、開催前に責任者(下川)より

一、OB会員の近況報告  
二、記念事業の寄付に対する協力

三、現役ラグビー部に対する資金援助

四、毎年の花園での第一戦を観戦、応援し、終了後、上六付近で会食すること

五、今年のような総会は2年に1回行うこと

以上5項目の提案を議決し、写真撮影を終り、6時より宴会に入る。まず、戦死者、病没者に黙禱を捧げ、第1代主将の大坪氏の挨拶、第2代主将の伊東氏の音頭で乾杯、磯野同窓会長より学校の状況、記念事業に関しての説明の後、宴会に入る。

わが瑞光ラグーOB会は、同窓

### 第4回昭和高校剣道部OB会 —長生きは美徳なりや?—

とき、59年11月23日(勤労感謝の日)。ところ、神戸・三宮、ニユ

ーポート・ホテル。参加者、16名。今回も7回の紀伊達男氏、8回

### 山本芳樹(8)

責任者 下川 正(3)

会各支部などとは一味違う集りに汗とホコリで土まみれになって闘った同志、勝つては歓喜し、負けてはともに泣いた同志、負傷して倒れても魔法の水で蘇生し、生命の限り体当りで闘った同志、学窓を去った後も殆んど全員が戦場で闘った過去を持った同志、ラグビー部の敢闘精神で将校に任官した者が多いという同志の半世紀ぶりの会合である。さらに筆舌に尽しがたい激動の世代を乗りきつてきたもの同志の会合であるだけに話には深夜まで尽きることなく続いた。特に戦死者の多いラグビー部の中で不幸にも第7回卒の部員4名の全員戦死は、いつ思い出しても胸の痛む思いで、死にそこないのわれ等生存者は、出来得る限り長生きをして、母校のため尽力せんと心に誓った次第である。20日朝、朝食後、元気で再会を約し、そは降る雨の奈良を後にした。

瑞光ラグーOB会

なお、第2回目の第27期同窓会を左記の要領で開催いたしますので、お知り合いの方々をお誘いあわせのうえおいで下さいませよう。ご案内 11月16日(土)

### 青春の思い出の地 奈良公園で開催

昭和59年2月、昭和高校ラグビー部の元祖ともいえるべき第1回卒大坪光雄氏が佐賀より来阪されるとの報に接し、3回卒の小松氏と小生が大坪氏を迎え、母校のキャンパスを訪問。その時、一度集まろうではないか……という話になり、旧部員の掌握を始め、数カ月後、24名の部員の所在をキャッチした。そして、同年7月7日、大阪、なにわ会館で大経大ラグビー部監督、岡本昌夫先生にもご出席を願う第1回の会合を開催。当日の出席者は13名、会の名称は「瑞光ラグーOB会」ということにした。また当日に第2回の会合を昭和8、9、10年と夏期合宿を行った青春の思い出の地、奈良公園で

午後6時より  
大阪地下鉄中津駅上  
東洋ホテル地下「カト  
レア」  
費用 10,000円  
テーマ 第27期会の名称  
幹事 坂元 裕、岩崎正弘  
神代憲治、柴田吾八  
名取信也、小西幸雄

### 第2回 瑞光ラグーOB会

行くことを申し合わせたのが、それを実現したのが今回の会合である。開催までに掌握できた人員29名内出席者15名(夫人同伴1名)病氣療養中のもの5名、旅行その他会合重複等による不参加者8名、



の梶村文弥君のお世話で開かれた。会の世話役はいつも大変だと思ふ。案内状を送っても返事がこない。電話をかけてもなかなかウマク連絡がとれない。一体誰のための会合なんだと、グチの一つもいいたくもなる。こんな苦労をいつも世話人にかけていることをお互いに自戒すべきであろう……などと格好のいいことをいいながら、私自身も内心忸怩たるものがある。

昨年引き続き今回も、大阪府の剣道連盟理事長をされている土田博吉師範と、久し振りに寺尾宏二先生が遠路大津市からお越しいただいた。有難いことだ。先生のアダ名は「プロペラ」。大声で文化史を講義されていた日のこと、それから確か昭和16年の伊勢旅行で、宿の夕食が遅いと騒いでいたとき、同僚の柴田君がいきなり頬つべたを先生になぐられたことなどが昨日のように懐かしく思い出された。それにしても両先生とも実にお若い。80歳に近い先生をお若いなどと申してはと思われるかも知れないが、それが実感だから仕方がない。一つのことにも情熱をかけておられる人は、やはり違うのであろう。





後に、梶村世話人から、「毎年会合すべきか」との提案に、「お互いに高齢化のなかで、命あるかぎり旧懐をあたため、毎年会合を重ねて行きたい」と全員拍手で決定された。

それにしても、西暦2千年には日本人の7人に1人が65才以上という高齢化社会が駆け足でやってくる。人生80年の時代である。現在の高齢者を支える年金も、これをモロに負担せねばならない若年層の経済能力にも限度があり、今後の見通しは暗い。高齢になっても、何か社会に役立ち、役に立たないまでも、今を生き生きと生きられれば幸いである。しかし老残

### 再び青春 「昭蹴会」誕生

終戦の翌年「昭和クラブ」としてチームを編成し、関西学生OBリーグ戦や国体の地区予選等に出場したりしたのがサッカー部OB会の始まりであり、昭和22年には早くも、会誌と名簿がザラ紙にガリ版刷りではありますが、発行されています。本学の各種OB会の中では最も歴史が古いのではないのでしょうか。

に身をさらし、判断能力をうしなひ生けるシカバネ同然となっても、それでもなお生きつづけることが果して意義のあることなのか、尊いのか、私には疑問である。肉親をはじめ周囲の人たちに看護の苦痛や迷惑の限りを尽し、老醜の果て、しかもなお生きつづけ、長生きすることが美德なのか。私は否定的である。私はもつと真剣に安楽死、尊厳死の方法を考えるべきだと思っている。「君たちのお陰で俺はこんなに生きられた、こんな人生だった」と戦死した同僚たちにハッキリ釈明できる生を死を持ちたいとこの頃痛切に思う。今年もまた8月15日がやってくる。

### サッカー部OB会

大学昇格とともに、いちはやぐ大経大サッカークラブとして組織が確立され、年1回の総会と随時開催の理事会で運営され、今日にいたっています。現在、会員数も約30名で、徳島に支部があります。この間、数年毎に名簿が発行され、また、現役に対しては財政的援助のほか、選手への発掘から指導等々にねばり強く努力が続けられ、昭

和31年と49年に関西学生一部リーグの王座についたことは周知の通りであります。この頃より一流企業の呼びかけによりトヨタ、マツダ、住金、日立、田辺等に在籍するOBが多くなりました。

### 「昭蹴会」誕生

昭和59年度総会は本年3月31日(日)に現役チームとの交流試合の後、江口の第二体育館で開催され、事業報告がまた、収支決算と次年度予算案が承認され盛會裡に終了しました。

欠席者の近況が報告され、会が進むにつれて創部時の苦勞話、きつかった練習等々、若き日にかえってサッカー談議に花が咲き大いに盛りあげられました。最後に学園歌「商都の東北……」を合唱して散会しました。今の名前を決めただけで、会長も規約もなく、折々集まって、元氣な姿を確かめ合うことにしていますのでご案内しました時は是非お出かけ下さい。

### 当日出席者

- 大段満夫(2) 内藤直哉(5) 石井済(8) 長尾晃(8) 木口正勝(9) 加頭興治(10) 田中義一(10) 榎本能一(11) 坂田文治(11) 田中義一(10)記



田中義一(10)記

### 多彩な催しを実施 益々盛んなOB会活動

### ハンドボールOB会 会長 鮫島 圭

ハンドボールとは、こんなに「インドイ」スポーツだったのか? 頃の不摂生もさることながら、OB会交歓試合等に参加するたびに痛感する。試合前の軽いランニングと、キャッチボールだけで息が上がり、また、試合を続けて走った程汗にまみれる。それでも催しがあるたびにノコノコと東京から出向いて行くのはなぜだろう。以上が活動主体は大阪で、会長は東京在住という、変則運営中のOB会会長(鮫島)の独り言である。

変則運営とはいえ、活動は活発である。面倒な連絡、会費徴収等の事務を受持っていたらいたっている大島(17)、高早(30)両君や、副会長の辻村(21)、山田(39)両君のご努力により会合には常に20名程度の老若OBが顔をそろえる。部長の高城教授も、常時出席して下さるし、現役の試合には、監督の上野君(32)を中心に、勤務の合間を見て応援にかけつけるOBも多い。今後、なお、一層の盛上りを期待しつつ、昭和59年度の行事を記してみる。

1、OB会総会、59年11月3日、



2、第8回11人制ハンドボールフェスティバル、59年12月2日関西学院大学グラウンド、昔11人制ハンドボールに親しんだ関西の各大学OB

新阪急ビル・レストランパレス、総会終了後、会場の一室を借用して開催した。会場等については、いつもながら比企事務局長をはじめ同窓会本部の暖かいご配慮に感謝しております。(出席者は、現役を含み会長以下約30名)

Bが集まった。風の強い寒い日だったが汗をかいた。終了後のパーティはそれだけに楽しかった(出席者は現役を含み会長以下約30名)

- 3、第2回OBゴルフ会、60年5月19日鈴鹿CC金沢、奥田(2)両幹事のお世話で開催出来た。優勝は若さとハンディをいかした平木君(25)であった。第3回は、本年10月13日、箱根の富士ヘルスCCで開催予定。ゴルフ愛好者は幹事まで連絡を乞う。(出席者、会長以下12名)
- 4、OB、現役交歓練習試合、60年6月30日、母校体育館練習試合で汗をかいたあと、OB会を開催し、役員選任

### 柔道部OB会大いに活躍

### ——本年はご期待下さい——

1月12日(土)、例年通り、今年も大阪、久宝寺にある「山中荘」(19回卒業先輩経営)で柔道部OB会および現役部員合同の新春初顔合せ会を行った。顧問の入江先生、師範の西岡先生を初め、名誉会長の近藤(和)先輩(10)、萩原先輩(10)、柏井先輩(11)等大先輩のご臨席と、

OB30数名、現役21名が参加して、昨年の反省、今年度の計画等の話があった後、宴会に入り、にぎやかに、楽しい一時を過ごした。毎年同じ場所、同じ様な企画のもとに行っているが、その年毎に、東京や、四国、九州から、また、遠く台湾から、ひよっこり何年も会っ

等を決議した。新任の方々、留任の方々、よろしくお願ひします。

悲しいお知らせを一つ。本年4月、梶英夫君(18)が急逝された。葬儀には、高早君(30)が代表して参列願ったが、ここにあらためて哀悼の意を表する次第である。なお、梶君のご遺族より頂戴した香典返しを基に、現役チームの部旗を作成し、おりを見て墓前に報告する手はずになっている。

話は変わるが、現在大学創立50周年記念館建設の募金運動が展開されている。全国各地のOB諸兄、この機会に「貧者の一灯」をお忘れなく。更に一層のご活躍を祈願する次第である。



ていないOBが顔を見せて、懐かしい話に花を咲かせ、会を盛り上げてくれる。今年も加古川から富田君(30)が久しぶりに参加し、昨年暮れ東京に出張した時に、東京在住のOB、阿部君(28)、青井君(30)の家族と飲み歩いた話しを写真を見せながら楽しく語ってくれた。

現在OB会員は27名で母校柔道部発展の為に努力している。

関西学生柔道大会では、大会役員および審判委員として萩原先輩(10)、石橋君(29)、児玉君(30)、三木君(34)、石津君(34)他多くのOB会員が活躍している。

OB会の集まりは毎年1月の新春初顔合せ会のほかに、3月には現役卒業生を送る会、5月には関西学生大会、9月には全日本学生大会、11月には東西対抗兼選手権大会等々があり、その都度、集っている。また、ゴルフ、コンペも行っているが、昨年は参加希望者が多く日曜日のエントリーが出来ず中止となった。このため、今年秋には是非、一泊の小旅行をかねた親睦会を計画中です。

現役柔道部は、今春、天理高校より坂本範治君(二段)三田学園高校より広田誠道君(二段)御影工業高校より村上正明君(三段)

入学式前に交通事故死(大工大付属高校より石田義一君(二段)四国・坂出高校より清水修君(二段)が入学し、新たな戦力として活躍中である。

関西学生柔道大会の一部校は、大経大、天理大、滋賀大、関学大、京学大、同大、大工大、甲南大、京大、近大、大体大、立命大、竜大、阪大、大商大、関大、大産大、京産大、の18校、二部校は、大谷大、神大他計25校で、我が母校柔道部はこの10数年ベスト8のシード校として、常に関西を代表して全日本大会(東京日本武道館)へ出場している。今年も9月21日(土)、22日(日)に決定している。

現役の指導には師範の西岡先生を初め、四段から六段の実力者揃いであるOBの児玉監督(30)、コーチの吉川君(31)、三木君(34)、安田君(40)等時間に都合のつくOBが毎土曜日曜日に母校にでかけて交替で指導にあたり、現役と共に汗を流している。

この様に実力援助のほか、OB会より現役への財政的援助も年額1万円のOB会費より行っている。OB会役員と事務局の住所は下記の通り

- 名誉会長 近藤和文(10)
- 会長 吉田文雄(24)
- 副会長 逸見 学(26)
- 会計 小笠原得光(40)
- 監事 石津 基(34)
- 監事 藤田三郎(37)

クラブOB会

大樟会川西市政発展にも貢献!

吉田文雄(24)記

本市に同窓会「大樟会」が結成されて久しい。

当初、数人の有志が集まって会食やゴルフなどを楽しんで来たのが、いつしか同窓生もふえ、会をつくろうということになり、52年「大樟会」が発足した。

以後、毎年、定期的に懇談会が開かれ、仕事や会員のこと、市政の学習会など情報交換を行ったりゴルフコンペを実施して会員相互の親睦と資質向上を図っている。

現在、会員は26人(未加入も若干あり)。先輩の市議会議員も特別会員に迎えている。また、母校の恩師・大槻弘先生が教育委員に就任されたのを機会に、毎例会に特別ゲストとして参画していただいている。

すでに、会員の中には、市の中



川西市役所大樟会幹事 山形輝三(32)

堅幹部として活躍中の者もふえてきた。

一方、最近では、公民館講座にも母校の先生方が講師として市民の生涯教育にご尽力もいただいております。本市政発展に黒正イズム(大阪経済大学が大いに貢献しており、われわれ会員は意を強くするとともに誇りとしている。この北摂の地に大樟をしっかりと根づかせようと全員はりきって勤務に励んでいる。

2カ月に一回例会 盛りあがっています

商業建築研究懇話会

同窓生のみなさん こんにちは 商業建築研究懇話会です

当会は大阪経済大学同窓生で建築関連の企業に勤務し、または同関連の企業を経営している方達によって構成され、お互いに建築関係の諸情報を交換し、企業発展の一助とするともに同窓生の親睦をはかることを目的として発足し、すでに満5年を迎えんとしています。

当会も年々充実し、今では2カ月に1回例会を行い、積極的に情報交換や研鑽を行うとともに、会員相互の親睦をより深くするためゴルフコンペや一泊旅行などを行い、学生当時、同じ釜のめしを食ったことのない先輩、後輩が業務を通じて一堂に会し、話に花を咲かせ有意義な一時をすごしている次第です。

なお、本年4月、役員の任期が満了になり、改選をおこない、新しく会長に美安亥一(23)、副会長に前田耕作(24)、幹事に大場謙二(24)、事務局に上野秀信(28)、会計監査に井沼研(29)の諸氏が選任されました。

会員一同、新たな気持ちで当会がますますの発展を押し進めていくよう雰囲気盛りあがっております。

同窓生のみなさん。会員が多くなればそれだけ情報内容も豊富になりますし、ますます会が活性化し、より意義あるものになると思っています。どうか会の趣旨をよく御検討いただき、より多くの方の御入会をお待ちしております。

また長い間、会長、副会長を勤めていただいた足立武敏、柴田真典両先輩には本当に御苦勞さまでした。会員一同感謝の気持ち一杯です。今後共、健康には充分注意され、引き続き会の発展にご尽力をお願いしたいと思います。

- 現在、会員は左記の通りです。
- 足立武敏(8) (株)アート・スペース
- 柴田真典(8) ネオンサイン(自営)
- 池田 宏(10) 経営指導員
- 畑田 稔(19) 畑田経営研究所
- 美安亥一(23) 大和シャッター(株)
- 大場謙二(24) 大和シャッター(株)
- 前田耕作(24) 大装(株)
- 広瀬 勲(25) (株)日本マネジメン トエーJエンシー

母校創立50周年を記念し 沖繩にて総会

宝塚市役所総大会

上野秀信記(28)



宝塚市役所経大会総会兼母校創立50周年記念旅行ならびに沖繩在住同窓生との交歓会について春寒の候、本部におかれては益々御清栄のことと存じます。さて、見出しのことにつきまし

では準備の段階から格別のご配慮を賜わり深く感謝しております。ここに今回の会が大盛会裡に無事終了しましたことをご報告しますとともに本部の一層の御発展を祈念いたします。(50周年記念表彰も同時に開催)



旅行記

2月2日(土)午前9時ピッタリ  
ゴーツという音、加重力感とも  
に冬真つ最中の大阪を飛び立った  
エアバスは空のトンネルをくぐり  
抜けたかのように一気に春、桜ま  
つりのメンソーレ沖繩の空に舞  
いました。

昭和42年発足以来はや18年目を  
迎え、また、母校創立50周年記念  
を祝う記念行事として、沖繩への  
熱い思いを乗せて、飛行機の旅、  
沖繩旅行は発進したのです。

地元のやさしく美人のコーデ  
ネーター、そして暖かい気候にも  
恵まれ、ひめゆりの塔、摩文仁  
の丘等の南部戦跡めぐり、東洋  
一の玉泉洞、琉球王庁跡の守礼の  
門等の名所、旧跡めぐり、みやび  
やかな琉球舞踊の観賞ならびに安  
里屋ユンタの踊りと歌唱指導等々  
と1泊2日の強行軍でしたが、思  
ったとおりのすばらしい旅となり  
ました。また、あふれんばかりの  
地元の厚い人情にもふれることが  
できました。沖繩在住の同窓生の  
与那嶺さん、山城さん、お忙しい  
中からかけつけていただき、さら  
に心暖まるおもてなし、イツペー  
イツペー、ニヘーデービルです。  
この紙面をお借りしてお礼の挨拶

をさせていただきます。

最後に恒例の大阪経済大学学歌  
を全員で肩くみあわせて斉唱し、  
この飛行機の旅、すばらしい沖繩  
をあとにしました。気温20度、ウ  
ンジョー・イツペー・チュラカー  
ギ!! ウタハリリヌ・チンダラカ  
ヌシヤマヨ!!

宝塚市役所経大会

井上史郎(34)記



『神戸ララバイ』

串岡茂著(10)

神戸に生れ、育った同氏が、戦  
後三菱銀行神戸支店を退職し、母  
と姉の疎開先の宮城県に移り、教  
員として30年を過すまでの自分史  
をこの程上梓した。「東北の須磨」  
即ち石巻に、ふる里に似た青い海  
を見出し、魅せられ定住したと云  
う。

生後1年少しで死別した父、  
永く育んだ母のレクイエムを書き  
たかったというのが自分史への動  
機であったとも云う。数々の思い  
出、人の出合いを如何に大切に  
してきたか、一説、ほのぼのとして  
爽やか、しかも身につまされる。  
同氏の誠実な人格がそう思わせず  
にはおられない。

しかし同氏の歩んだ戦前、戦後  
はまた苦難の時代だった。持ち前  
の人柄と努力によって克服し、ひ  
たすら教育に研究にと打ち込んだ  
姿は、作中の欧米教育視察報告や  
幾多のレポートが如実に記録する。  
剣道(六段)や俳句をたしなみ、  
英語はペラペラ、人を愛し、人に

愛される同氏の快作は後輩へのま  
たとなない指針でもある。特に恩師  
への感謝崇敬の念には脱帽しない  
訳にいかない。  
人生還暦を迎えて、書き始めた  
とのこと、もって他山の石とすべ  
きであろう。唯々お美事とうらや  
ましい一語に尽きる。

発行者 著者  
発行年 60・8・15  
(文責 山下 博三(10))



亡き稗田正太郎君を思う

長尾

晃(8)



昨年(3月31日)だった。伊賀上  
野にいる同期の関田庄司君(画家  
日展8回入選)から、彼の家に古  
くから伝わる雛人形や、木目込み  
人形が飾ってあるが、見にくい  
かという誘いを受け、稗田君と私  
と家内の3人で出かけた。上六か  
らの近鉄の車中で酒好きの彼に、  
「どう一献?」という、残念そ  
うに「ドクターストップやねん。  
まあ、やめとくわ」と言うので、  
お茶を飲みながらのおしゃべりに  
なった。

関田家はこの地の旧家で、目的  
の人形や色いろの書画を見せても  
らった。彼のアトリエにも立寄り、  
さらには芭蕉の編笠を模したとい  
われる芭蕉庵、城跡、忍者屋敷な  
どを案内してもらった。終つて夕  
食を共にした時、稗田君が「ちょ  
つといくか」と例のサカズキを持  
つ格好をする。「おい、ええのんか」  
「うん、まあ少し位なら、ええ  
よ」。目を細めて飲む彼、同期生と  
飲む気楽さに「よかったなあ、楽  
しかったなあ」を連発しながら杯

を傾けていく。そのうれしそうな  
顔が今もまぶたに焼き付いている。  
しゃべり、かつ飲んだ。それから  
2週間ほどして、胃かいようの手術  
をするといつて入院した。  
柴田真典、関田庄司、伊藤勝の  
諸君と何度か見舞った。食べられ  
たと喜んでくれる日、食欲がないと  
しよげている彼、マスカットをう  
まそうに舌鼓を打って食べていた  
顔、「退院したらなあ、是非家に来  
てくれ、一献傾けよう」と会うた  
びに言っていた。いつか7月にな  
った。行くたびに元気がなくなっ  
ている。口数が減っていく。  
珍しく仕事があつて私は20日ぶ  
りに彼の枕もとに座った。8月11  
日、土曜日の暑い日だった。病名  
がわかつていのに、明るく懸命  
に看病しておられる奥様とあひさ  
つしている時も、彼はもううつら  
うつらしている。  
「このところ終日こうなんです  
よ。あなた、長尾さんよ」との奥  
様の声にポカッと目をあけて私を  
見た。「おお、どうも」と言うとき  
たうつら、うつらし出した。奥様

と話していると「イタイ、イタイ、  
イタイ」とか細い声で言う。もう  
ガン細胞があつちこつちを冒して  
いるのだろうか。私は悲しくなっ  
た。「大丈夫や、大丈夫やで」と布  
団の上から寝かしつけるように軽  
くたたくと、それがわかつてくれ  
るのだろうか。眠っていく。それを  
二度、三度、心の中で「おい、死  
ぬなよ。死ぬなよ」と不信心な私  
が祈りを込めて念じる。胸がいつ  
ぱいである。  
去り難い。しかし、おいとまし  
なければならぬ。「稗田?がんば  
れな。また来るからな」彼は目を  
みひらいて私を見た。そして「長  
尾、ありがとう」とはつきり言っ  
てくれた。彼の手を握りしめて、  
病室を出た。送って出てこられた  
奥様に、「伊賀で酒を飲ませて、か  
んべんして下さいね」ドクタース  
トップだと言っていた彼が酒を飲  
むに任せたことを私は悔んでいた。  
奥様は、「いいえ、あれは本当に感  
謝してらんですよ。本人も大変喜  
んでいましたし、あれが最後のお  
酒だったんです。あれから何度か  
欲しそうにしたいんですが、あの思  
い出で我慢ができたようで、無理  
を言いませんでした。気になさ  
らないで下さい。喜んでいらんです

から……」と。  
それから8日後の8月19日、稗  
田正太郎君は逝った。好漢ついに  
去る。  
彼とは学生時代より社会へ出て  
から絆が強くなった。何度か飲ん  
だり、語つたりするうちに心が引  
かれ合うようになった。  
生真面目でなかなかの理論派。  
しかし一方では庭の花を眺めるの  
が好きだった彼。音楽を愛し、ギ  
ターやバイオリンをひく。最近  
は仏教書をよく読んでいた。書も良  
くし、写経に精進していた。思い  
出はつきない。彼を思うと胸がき  
ゅんと切なくなる。そして、吉川  
英治の言葉を思い出す……  
ふけてゆくほど 酒の味  
語りあうほど 人の味  
惜しんでかえる 後の味  
敬愛する稗田正太郎君を思い、  
ともに学んだ男との友情をかみし  
めている。友を失うことは悲しい  
さびしい。そして辛く苦しい。「友  
情に老いあらしむなかれ」という  
言葉があるが、彼との友情の思い  
出はきつと生ある限り私の心の中  
にいまいきと呼吸し続けるだろう。  
稗田正太郎君、どうか安らかに  
眠ってくれ。ご冥福を祈る。さよ  
うなら。



# 19歳の乙女の昔に返つて

## ひとみ会 第13期生会

昭和59年9月30日午前11時からひとみ会東西合同の同窓会を、大阪東区の山中荘において開催いたしました。山中さん(19)のご好意により、大阪経大の同窓会旗をかけて頂き、26名の参加者を得て始まりました。

東京からは土井和賀子さん、大場加寿子さんの2名を迎え、開会の前から会場ははじけるような騒ぎで、お互いに抱き合ったり、久びさの挨拶等々、和気あいあいのうち一度に40年の歳月が逆行、19歳の乙女の昔に返つた様でした。



故世良錬次 同窓会相談役

お世話を仰せつかった我々の出る幕のないほど、会はスムーズに行し、自己紹介をする時間もないままに盛り上がり、延々4時間半、間断なく続く饒舌、食後のコーヒーも別注するほど長居いたしました。参加者の方から「楽しかった」の言葉が我々幹事の疲れをいやしてくれました。

が、学生時代の友達ではないでしょうか。今年おいでになれなかった方々、次会は是非ご出席下さいますようお願いしております。また出欠のお返事だけは送って下さい。お元気なのかどうか案じておりますから。来年の幹事は岩崎寿美子さんにお願いしました。

坂中 良 (13) 記

### 弔辞

世良君

呼友会 渡辺 達好 (3)

今貴方の霊前に立つてお別れの言葉を述べなければならぬことになったのが寔に残念でたまらないし悲しみも亦一入であり、只感極まって言葉になりそうにないがお許し下さい。昔からよく言われるように此の世の中は生者必滅、会者常離と、言わば世の無常なりとは知りつつも、こよなく人生で深い縁をもって

きた者にとつて、其の永遠の別れに接したときこそ是以上の悲しみはない。それが今我等深き交りをつけてきた者の心境である。この式場には多くの我等同期の友人が馳せ参じ、君との別れを惜しんでいるのである。想えば君は山口県出身者であり、小生は宮崎県の片田舎の出身者であるが、奇しくも50年前、昭和高商の学生としての交りが始まり、学生生活は勿論、社会に出ても全く近隣に住を構えて、お互いに励み合い乍ら、深い親

交を続けてきた。君の識見と人格については学生時代から一同の尊敬する所であり、今日の母校大阪経済大学の発展にも、早くから学園役員として今日迄尽力してこられた。就中、今日4万人以上を擁する同窓生、其の同窓会の建設には共に発足当時から努力してきたものである。それを真から知る者は君である。今其の君を失ったことを誰よりも歎き悲しむ者は、歴代同窓会役員であり、現同窓会役員の方である。反面、君は卒業後暫し

満洲の野に勤務していたが、纏て大阪に帰り、現大阪日産の社員として常に会社の発展を期し乍ら終始全身全霊を投じて、真一文字に情熱の限りをつくして今日まで努力し続けてきた。今日大阪日産繁栄の陰には多くの日産社員のご努力もさること乍ら、君の功績は又格別なものがあったものと私は確信する。其の絶間ざる努力の結果が今は亡き小林誠前社長・会長の後継者として勝れた大阪日産社員と共に将来への発展を遂げんとして、困難な

る現経済環境と闘い乍ら、死の前日迄奮闘してきたのである。想えば君にしてはまだまだ引退は考えてはいなかったであろう。然し天は君にその願望を与えず忽焉として死を与えたのである。怨みても怨みきれない次第であるが、これが世の無常なのである。はかない人生の定めなのである。悲しみはつきないが、而し世良君、どうか君の霊魂は永くこの世にとどまりて今は淋しさ一杯の奥さんの上に、更には

大事な御家族御親族の上に、復亦君を大成さしてくれた大阪日産自動車の上に、更には我が母校大阪経済大学及び我等同窓会の上に、絶大なる加護をお与え下さるよう祈つて已みません。いくら話しかけてもいつもの君のあの温い言葉は返つてこない。名残りはつきないが、之以上はもう話せない。では世良君、安らかに眠つて下さい。

昭和60年1月22日 さようなら

### 大先輩世良会長を偲んで

大阪日産自動車株

取締役 滝 重一 (23)

故郷山口(県)をこよなく愛し、時には誇らしげに山口の歴史を語り、また、母校大阪経済大学の発展を常に思い、時には憂い、そして、日産自動車マンとして一生を過ごしたことにいつも感謝されておられた大先輩世良会長の急逝を知らされた時、受話器を持つ手足がガタガタ震え、目前が真暗になったことを覚えております。

思えば、世良会長に最初にお目にかかったのは昭和32年、当時硬式野球部のマネージャーとしてご縁のあった高室先生(当時、大学の事務局長)に就職の件でご紹介をいただき、

会社訪問をした時が最初であったと思います。高室先生から「世良会長(当時部長)は、服装、言葉使い等、身だしなみに非常にうるさいので、その点を注意して訪問するように」と暖かいご指示をいただき、緊張して訪問したことがつい昨日のように思われます。

爾来28年間、公私共にご指導をいただきましたが、小生もはや五十路を過ぎる年頃となりました。しかし、最初の高室先生のお言葉がその後も頭にこびりつき、仕事の上でも仲々リラックスしたムードでお目にかかれませんでした。急逝される前日も会長室に呼ばれましたが、直立不動の姿勢でお目にかかったように思われ、我ながら苦笑いたしております。

また、反面、温情溢れるお人柄であったと同時に、ご自身サッカー部のOBとしてサツ

カーは勿論、他のスポーツも非常に愛されておられました。特に、その「スポーツマンシップ」の精神は企業人としても心の底で大切にされていたように思います。

社内での会議及び決起大会等の集会でよくスポーツにまつわる言葉を引用され、お話をいただいたことが種々思い出されます。その一つに、社内ゴルフコンペの席上「皆さんが今日一日を楽しまれたゴルフは各々にハンディキャップが認められましたが、我々の企業間の競争にはハンディキャップがなく、認められておりません。それだけに、いかに知恵と工夫が大切か、明日から心して頑張つてほしい」という意味のお話がありました。昨今このハンディなき戦いという言葉をいやが上にも身にしみて感じる次第です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



# 他学部の設置を希望

天野 義美(2)

一、近況。(1)会計士業務60%、(2)老境にのぞみ(1)を半減し、(2)を二人の息子、税理士に折半贈与し、現在相談役程度。

二、希望。かつて他学部設置の動きあり、在学生の反対にあった様承知してはいますが、これは大変間違なりと思慮する。経済大などにこだわらなくても、法経商社文を持つ大阪昭和和となし、さらに理工科への発展を意図すべきである。卒業後の活動力を思えば、この考え方は理解可能な事でしょう。私大の力は量である。競って国家試験に挑むべし。



# 10年ぶりの同窓会...

平野多賀司(4)

早いものです。卒業してもう47年経過しました。

この4月、末子も東京で結婚式をすませ、子供達全部独立しました。昨年、宮平さん達のお世話により有馬で武田長太郎先生を開き同窓会を

開きました。10年ぶりでしたが、卒業以来初めての人もいました。と同時に、同市念佛寺で物故者法要を行いました。故人が40名もいたのは驚き、感無量でした。

また、この年になって故黒正先生の偉大さをつくづく感じる今日この頃です。今のはえある学園を先生なくしては考える事は出来ません。拙作

時移り人は去れども師は不滅  
末っ子のとはのちぎりに涙して



# 日本経済の発展を望見

藤田 誠一(5)

益々の発展のご様子大慶に存じます。さて、小生こと、昨年5月以来病

気静養中です。日本の経済発展を一步退いて、望見しているような気持です。長野県

鹿教場病院は山中の静かな処です。毎日リハビリ治療を致しております。母校の益々の御発展と皆様の御健康を祈り上げます。

# 「澁江」で旧友の顔に...

前田 良隆(8)

一、縁あって千葉県へ来て10年がたちました。千葉では公務員生活7年、その後は「東京アイズニールン」人事部で職員の採用関係に従事しましたが、通勤に往復5時間、乗換5回の激務でダウン。目下、休養中です。

二、OB各位ご指摘の通り、関東地区では母校の名前は余り知られていません。このことは、TDLで痛感しました。ここは社員、準社員等合わせて7千人、あらゆる業界、職種の人々が全国から集まって来ていますが、やはり知名度は低く、残念至極です。よろしくご検討願います。三、「澁江」で懐かしい旧友の顔を思い出しています。長尾、柴田、琴野、市川、岡田、清、近藤、董、梶村、田中史郎君など、皆元氣そうで喜んでいきます。



# 母校の発展を祈る...

北元 喜雄(10)

長男は森喜朗前文部大臣の秘書兼北陸大学東京事務所長、次男は日綿実業社員で、目下、西ドイツ、デュッセルドルフに駐在、2人共夫々2

人の子供で、計4人の孫となり、金沢には妻と2人きりの生活。仕事は北陸大学理事長、カナザワゴルフ代表取締役会長、金沢国際ホテル代表取締役、他7社を経営、年中無休で頑張っています。還暦も過ぎ母校が一段となつかしくなりました。今でも黒正イズムで前進しています。母校の発展を祈ります。

心を支えとなる学生時代  
岩崎 寿美子(13)  
35年間、大阪市立中学校の教師をし、昭和59年3月に退職しました。目下、家で勤め中に出来なかつた色々な事をしています。毎日が忙しくて大変です。悲しいかな年のせいも手伝って、なかなかかどりません。勤め中は、自分の時間がとてもとれませんでした。卒業して早や40年の歳月が過ぎましたが、やはり学生時代がとてものつかしく、あの頃の気持は、今も、私の心の支えになっています。

# 「パスカル」

津田(小橋)和代(18)

高知城下の日曜市で白バラ(パスカル)と赤いバラ(スカレット)の苗を買ってきて植えてから20年余になるでしょうか。プラプラ歩き



# 芳崎 務氏をしのぶ

同窓会会員の皆様へこんなことでご報告いたすことは悲しいことです。ご承知のとおり、8月12日の日航機の事故で小生と同期(24回)生の芳崎 務氏が不幸にも乗りあわせ、不帰の人となられました。同世代の友人として、これからという時に、自分の意志に反し帰らぬ人となられ、さぞ無念だったこと、その心情は痛

いほどわかる思いです。在学中より現在に至るまで、芳崎氏には公私にわたりいろいろとお世話になり、お付き合いさせて頂き感謝しております。そして、また仕事の話、家族の話、物静かであるいは、熱っぽく語った彼のことが走馬灯のように思い出されます。社会に出て27年、彼自身が積み重ねてきたすべの体験が、現在という時の中で、すばらしく芽ばえ出していったときだ

し、また、ポジションが上になれば

なる程、仕事に対する能力はいうにおよばず、その人の教育、哲学が問われますが、芳崎氏は、その点、仕事のみならず、家族、ゴルフ、酒をこよなく愛したし、これが彼の人間としての集約の時という40才台に不慮の事故にあわれたことがかえすがえすも残念でなりません。8月19日、お通夜にお参りさせていただいたとき、ご遺族が「飛行機がにくい」とおっしゃったことが、彼に対しての愛情でもあり二度とこのようなことがあってはいけないとの叫びでもあったと思います。残された奥様、お二人のご子息もこれくらいいろいろな問題に直面されることでしょうか、強く、仲よく、手とりあつて生きぬかれることを陰より神とともに祈念申し上げる次第です。合掌

横山 亮介(24)

# 北

# か

# ら

私の目に花名札の「パスカル」の文字が鋭くとびこんだ理由は、同期の皆様ならお解り頂けると思っています。あの「パスカル」です。先生方の多くのご推薦図書の中に「パスカルの冥想録」がありました。とうとう読む機会なく卒業しました。南国の日ざしを受けて四季咲きの白バラは咲き続け、冬には紅い実をつけます。只今、2人の息子達はそれぞれ独立して家庭を持ち、私は箏曲など趣味を主とした暮らしでございませが、昨年、思いがけなく病気で2カ月余り入院生活を送りました。お陰様で健康をとり戻した今、生まれ変わったような気持で、すべての物の見方考え方も変わってきました。まるで思春期と反抗期を一時に迎えたような戸惑いを覚えるのです。今こそ「パスカル」を読んでみたいのです。胸には「スカレット」を燃やしつつ...



# さらに学園の活性化を...

高橋 時造(16)

度々指名をいただき光栄です。卒業後、早や、35年が経ち、勤めでも



# 人生の節目を迎えて...

上田 敬二(18)

大学昇格後第一回の卒業生である我々も人生の節目を迎えている。早いもので、私も、32年余勤めた池田銀行を定年退職し、今、新しい

# 南

# か

# ら



ツ時代の尖兵、そしてリーダーであった。しかし、やるべきことがもつとあったのではないかと考えてならない今日この頃です。

### 先輩・同輩・後輩と接して：

津川 一郎(19)

五十路も半ばを過ぎ、ますます盛んなのは口ばかり。3人の息子達も成人し、長男(京大・理学部卒)が10月に父親になるとのこと、自動的に小生は……になる。日出度くもあり日出度くもなし。仕事柄(塾長)息子達は次男(阪大・基礎工学部卒)3男(関大・法学部卒)とも順調に進学し、卒業させることに成功した事以外には何も出来なかつた人生であつたといつてしまえば何もかも終つた様な感じもするが、今後とも経大の先輩、同期生、後輩達と接してのやすらぎを求めて行きたいと思ひ一筆挨拶申し上げる次第である。(小生在学中は新聞会に所属。)

### 母校の優勝に教師冥利

前田 行信(20)

大学卒業以来30年間、中学教師として生徒とともに悲喜こもごもの生活に明け暮れてきました。その中でも、ともに夏の猛暑、厳寒の冬期トレーニングに耐えて身体を鍛え、野球の技術をみがいた教え子が、母校で関西六大学優勝、晴れて神宮での大学選手権大会への出場と新聞紙上でその活躍ぶりを見ると、ほんとうに「教師冥利に尽きる」とはこのことと思つて毎日の仕事にいそしんでいます。大学ならびに同窓会の発展を心からお祈り申し上げます。

### 私の近況

青木 平吉(21)

同期の皆様、いよいよご健勝にて活躍のこととおよろこび申し上げます。

「澁江」21号の送付を受ける頃は満5才になっていきます。

現在の勤務先は、天理市監査委員の事務局です。只今、59年度地方公

営企業会計(病院・水道・ガス)の決算等の審査を執行しております。帰宅後はちよつと一杯、また、自宅近くで菜園をやつているので、天気の良いときは犬をつれ、朝夕、畑へ行くことが日課となつているのが近況です。

毎年11月3日の本部同窓会は欠席がちになっておりますが、原因は当市政有功者表彰式と重なるためです。ご了承願います。母校のご発展をお祈り申し上げます。

### 顧りみて前進のみの17年

塩見 哲朗(啓郎)(23)

卒業してはや28年、今年2月、23回生の集いが催され、同期生同志が一堂に会しお互いの年を慰めあつた思い出の一日でした。

私は、竹林庄先生ゼミの一員で、中小企業経営という夢を抱き独立してはや17年、ただひたすら前進のみの苦しい生活の連続でした。月日は早いもので、現在やつと小規模ながら数百名程度の従業員をかかえることが出来、また、現役当時の運動(バスケットボール)が頭から抜けきれず、社員強化が実り、今年で5年目、京都実業団リーグに加盟して以来、一部に在籍が出来、社員とも喜び頭張っている次第です。これから母校の名に恥じないよう前進に努めてゆく覚悟です。時代の変化に努

### 蔵書で思い出す25年前

浅井 章二(26)

小生、毎年、一回は本箱の整理をするにしております、今年も先般行いましたが、これがまたなんとも楽しいものです。例えば、書物を「経済」「法律」「歴史」「財務」などあら分類して行く訳ですが、本を手にするごとに、その内容が思い出され、殊に教室で学んだ書物などはその折々の恩師、友達、顔、声、動作の一つひとつまでが思い出されて何時しか25年前の自分に思いを馳せてしまいます。今回は、「法律研究部報」(4号から「法研」となつた)1号、3号を読んでいた、肝心の整理は遅れてしまいましたが、当時の各位、如何お過ごしでしょうか……

最後になりましたが、母校のますますの発展を心からお祈り致します



### 戦後40年

#### 教官佐藤大佐を偲ぶ戸田 秀親(6)

私は昭和15年の卒業である。在学中には「軍事教練」という必須教科があつて、陸軍省から派遣された現役の高級将校と、予備役の軍人たちによって戦闘訓練を受けるのである。満州事変に端を発し、北支事変、支那戦争の戦火は拡大する一方であつた。そのころに入学したのだが、卒業の前年にはアメリカ、イギリスとも極めて険悪な空気が漂いはじめ、一方、ドイツ、イタリーと三国同盟が締結されるなど、日本を取り巻く環境は、まさに太平洋戦争開戦の前夜を思わせる重大危機を迎えていた。

ドイツ語、哲学の久野収教授(戦後、学習院大教授、評論家)も教壇から追放され、世は軍事色一色に塗りつぶされていった。

そのころ、わが学園に派遣されていた配属将校は、陸軍大佐 佐藤忠七教官であつた。チョビひげにロイド眼鏡が印象的だ。軍人といえど骨で厳しさを想像したものだが、佐藤大佐のロイド眼鏡の奥には慈悲のまなざしがあつた。クラス会にお招きしても、心よく加つていただき、ともに談笑されたが、そんな時はきまつて軍服を脱いで、黒の背広姿であつた。

教練は雨天でない限り、いつも屋外で実施するものと相場がきまつて

められていたが、自分は軍人である以前に、祖国を愛する日本人であるとも言つた。

戦後40年、大佐の消息はわからないが、あの時期、こんな配属将校がわが学園におられたことを特筆しておきたい。(60年2月)

いた、にもかかわらず、卒業も近づき、就職・進学もぼつぼつきまつてきたころのことである。

ある晴れた秋の日、教練の時間である。「本日の教練は教室で行う」との通達である。こんなに天気がいいのに――いぶがりながら教室に佐藤大佐を迎えた。

教壇に立つた大佐は、教室の窓をすべて閉めるよう指示された。次に大佐は「ただ今から喋ることは一切口外してはならない」と前置きして要約次のような講義をされた。

まず、日米関係がいよいよ一触即発の危機に直面していることを指摘するとともに、能う限りの努力を傾注して、日米開戦を回避しなければならぬ。不幸にして日米戦争となれば、わが国の総力をもつても勝算はゼロである。大佐はまるで経済学者でもあるかのように、日米の鉱工業生産力の比較を数字で示し、その差は決して「大和魂」で補完できるような甘いものではなく、諸君等の如き前途有為の青年たちを、数多く戦場の露として失うことになる結果は火を見るよりも明らかであり、自分には耐え難いことである。説明資料はひそかに陸軍省から入手したものであり、自分の判断に誤りはな

いとして講義を結んだ。さらに、軍人は政治に関与してはならないと定

められていたが、自分は軍人である以前に、祖国を愛する日本人であるとも言つた。

戦後40年、大佐の消息はわからないが、あの時期、こんな配属将校がわが学園におられたことを特筆しておきたい。(60年2月)

いた、にもかかわらず、卒業も近づき、就職・進学もぼつぼつきまつてきたころのことである。

ある晴れた秋の日、教練の時間である。「本日の教練は教室で行う」との通達である。こんなに天気がいいのに――いぶがりながら教室に佐藤大佐を迎えた。

### アメリカから帰国して8年

中谷 一也(27)

一、先日、高等学校の関東在住者の同窓会が30年振りにあり出席、我々もこういうクラス会に出て楽しむ年になつたなあーと感じました。米国から帰国してもう8年になり、日本での生活がほぼ半分になり、日本的な遊び、麻雀、ゴルフ、赤ちやうちん、カラオケ等を満喫しています。

### 日本の「へそ」で奮闘

泰永 龍志(28)

卒業後早くも23年が過ぎました。毎年「澁江」を楽しみに拝見しております。

私は、現在、兵庫東西脇市に在住しています。西脇市は先染めの織物が特産です。また、日本の「へそ」(東経15度北緯35度の交叉点)として

### 母校の充実を：

桜井 富雄(28)

一、上京後13年間、ほとんどシステム設計の仕事をしており、10名の部下をひきいる管理者です。子供3名、大、高、中(すべて公立)の学生です。本年度は内部監査担当者として、2回関西へ行きます。横浜郊外に、2年前家を買い、移りました。

二、同窓会誌の充実より、母校の充実を望みます。経営工学関係学科の増設などを記念事業として考えられては。

三、「男」というものは置かれた場所によつて、主義主張が変わる、そこに危なさを感じ(村山リウ)を自戒の言葉としております。



情熱あふれる若者を求む

吉岡 信治(30)

昭和39年卒業、同年現在の会社、マカロニ、スバゲッティをはじめ食品全般にわたる製造をしている日本製粉グループのオーマイ株式会社勤務、本年2月11日創立記念日に永年勤続20年表彰を受け、また、4月1日に外食事業部である企画開発室に転属、レストラン事業に何やらの手習いよろしく、客商売のイロハを習得すべく、朝より夜遅く迄勉強中です。この年(43才)になり、未知の世界に入り、頭で考えて行動に移す苦勞を味わっております。しかしサービスの本当の意味がわかって来た昨今です。

忍耐力と情熱のある若者を求めています。情報を含み、有望なる新人一特に大経大卒業生一を求めます



新幹線の車窓から母校を...

佐藤 秀雄(32)

現在、旭ダイヤモンド工業(株)営業企画部技術課に勤務し、木工建材用

のダイヤモンド刃物の企画、拡販を行っています。東京に参り満3年が過ぎました。たまに柔道部O・B会東京支部で諸先輩方と飲む機会があるのですが、地方への出張が多く、出席率がよくありません。大阪支店にも行くのですが、仕事が終わればすぐ帰りますので、最近の大経大は新幹線の窓からなつかしく眺めるばかりです。

最後になりましたが、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

私のバックボーン

堀田 満穂(32)

若き日の 江口に咲いた花の香も 山河にかすむふるさとの日々

郷里で教員生活20年目です。今でもバックボーンは経大で学んだそのままで。また、相棒はかつて稲原先生に写真を見て頂いたO×△です。母校のいやさかをお祈り致します。

「澱江」への希望

長谷川 治夫(34)

「澱江」いつも楽しく拝見しております。同窓生とはごく少数の連中の他はほとんど久しく会っておらず

母校創立50周年に思う

大久保 義三(1)

学校を出てから社会人―戦場―終戦―そして、極寒零下60度というシベリヤでの強制労働をさせられての捕虜生活にも耐えて、昭和23年5月高砂丸で舞鶴港に上陸復員、しかし普通では行けない鉄のカーテンの向こうへ無銭旅行が出来たと思えば別に腹も立たない。未だ病気を知らないで元気なのも「軍隊」、「シベリヤ」で鍛られたお陰と感謝している。

3男1女に恵まれた生活も1人、2人と巣立ち、老夫婦だけが古巣に残っている。気がついて見たら私も早や70才になっていた。長男にすめられて、今年3月から「老いては子に従え」という諺通り「万葉の里」榎原市へ移り、同居生活に入りまして。毎日、明日香村を歩いて、史跡古墳を勉強中です。私の人生は新日本製鉄(旧日本製鉄)と生活をともにしてきた様なもので、仕事の関係で北海道から南九州までの間を東奔西走という具合、復員後も同窓の皆様とは文通のみとなり、総会にも出席できない有様。この度、創立50周年

年を記念して記念館建設の案内を受け、チャンスと思い、何年振りかで母校を訪問、卒業時はまばらであった校舎も現在では数棟に増え、その上記念館が完成すれば一層充実した学舎となる事はもちろんであるが、これも歴代の校長を初めとし、理事長を頂点とする各役員皆様方の御努力に依るたまものと深く感謝しております。

私達が天下国家を唱えて歩いた上新庄川の通学路も日向ぼっこをした野原も今は無く、あの大きな森であった瑞光寺も現在新幹線の高架下に小さくなって鎮座されており、大きくなったのはわが母校と周囲の街であり、特に上新庄駅は当時田圃の真中にポツンとあった駅とは思えない変貌で、時代の急変に眼を見張る有様でした。今後は社会福祉の事業に協力しながら、旧友ならびに戦友との交りを一層深くして、残された余命を悔いなく過し度いと思っております。

支部総会にもまだ一度も出席せず、全く付き合いが悪い。年々億劫になる小生です。母校に対する希望はございませんが、「澱江」に経済界および各界で御

活躍の方々のコメントを掲載して頂ければ良いと思います。同窓諸氏諸先輩、母校関係者の方々の御活躍を祈っております。

経大魂で社会へ貢献

平井 久造(34)

厄年前後に達した私達は、今日、社会の中堅から幹部へと責任重大な年齢になってまいりました。今なおゼミ仲間とは連絡を取りあって旧交を温めております。しかし、なかなか会合までにはおよびません。近いうちなどと常々考えております。

私自身は呉服店を営んでおります。飽食の時代、特に呉服業界は厳しい今日であります。アイデアと経大魂をもって少しでも社会に貢献して行きたいと思っております。

母校に対しては一層の飛躍を願するものであります。相変わらず地味なカラーで新興校の追隨を許している現状かとも思われます。単科校の特徴をもっと發揮し「経済・経営」なら経大といわれる様になって頂きたいものです。



諸先輩との情報交換を...

小田 経雄(35)

卒業して16年。早いもので来年末で40才、不惑の年を迎えます。飲食業を中心にやっておりますが、時代の移り変わりに応じて業種をスクラップ・アンド・ビルドして、現在、廻転寿司、ハンバーガー、パブのFC展開にザーとした研究、勉強を致しておる毎日です。同業、同種経営の諸先輩がおられましたら、是非、ご一報頂だきご指導、情報交換等頂ければ幸いです。

母校への希望としては、皆さんが何度も書かれておられますように、学術、スポーツ面でもっとPRを.....。法学、社会学、情報学等の併設による総合大学化を早く実現して欲しいとともに、大学当局の対応策を知らせて頂きたいものです。

関西の大手私大の域に...

井塚 義一(36)

大阪経済大学が創立以来50年になると聞き及んでおり誠に慶賀に堪え



母校とのかけ橋...澱江

唐沢 正宣(36)

澱江を送って頂くたびに学生の頃をなつかしく思い出します。現在は澱江が、唯一の母校とのかけ橋になっております。1年8ヵ月前の転勤で、ようやく

公開講座で恩師と再会

上羽 雄作(39)

最後にになりましたが、大学ならびに同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げます。

昨年、大阪肥後橋の文化情報センターでの公開講座に参加し、久しぶりに自分のゼミの先生であられた松原和男先生にお逢いして、学生の頃がよみがえった思いがしました。むずかしい内容をわかりやすく講義される姿は変わっていません。終始熱心な講義でした。今後も経大の先生の講義・講演には仕事の手許限り参加したいと思っております。



## 赤城山のふもとから...

平田 勝 (39)

経大を卒業して早くも十余年が過ぎました。母校から遠方に生活の本拠地を構えたために恩師の皆様方、先輩、同級生のそれぞれには大変御無沙汰いたしております。  
折にふれ、学生時代の楽しい思い出にひたっております。関東地方に住む我々にも、最近、マスコミを通して大経大の名前が聞こえてまいります。赤城山のふもとにも大経大OBが住んでおられます。近くに住まいの方は御連絡を……。フレールー 大経大!!

## 早や10年の歳月

河尻 洋二 (40)

大経大を卒業して早や10年の年月が過ぎました。卒業後、在阪企業に就職しましたが、5年前、実家の父が病に倒れ、現在、会社と家業の農業をしております。もちろん、生活の主力は会社こそ、農業は健康と物の生産の喜びを味わう趣味となっております。Uターン後、5年間、勤続中の現在の会社は、理化学、省力機器の専門商社で、情報社会と呼ばれる今日の最先端を走っております。東京等へ出張の折、学舎を窓外にながめ、昔の学生時代を思い出しながら、今日も新技術知識の勉強の

毎日、人間は一生勉強だと思ふ今日この頃です。

## 故建林教授を偲ぶ

神原 一 (43)

私は故建林隆喜先生のゼミ生です。先生はまだお若いので、それだけにこれからの可能性も大なる方と期待し、社会人になった私の心の支えでありました。卒業後はゼミナール(国際経済論)とは全くの無縁の、きのご栽培を営んでいますが、失敗の度に、先生が卒業式に、常に夢もついている「のお言葉を思い出して奮闘してきました。心に穴が開いたようで残念です。先生の御冥福をお祈り申し上げます。

建林ゼミOB会である「隆盛会」はいつまでも続けたいものです。そして経大の一層の発展を期待しています。

## 各クラブの活躍に期待

佐々木 邦秋 (40)

同窓会役員ならびに澁江編集委員の皆様、日頃のご尽力ありがとうございます。時のたつのは早いもので、卒業してからもう5年になります。現在は天候とともに大地に根ざしながら、

家業の農林業に力を注いでおります。また、新聞、テレビなどで各クラブの奮戦ぶりを拝見しながら学生の頃を振り返っています。

今後の各クラブの(特に硬式野球部の関六優勝)大学日本一)活躍を期待していますので、それぞれに各分野で力を合わせて頑張ってください。

## 新しい職場に

岡 良樹 (47)

私は、今年4月より、前勤務会社から和歌山市役所に変わりました。約3週間の研修を終え、現在、国民年金課に配属されています。

## 順風満帆

門野 裕治 (49)

毎日元気に頑張っています。

## 家業とボランティア

白川 祐司 (50)

家業従事。ダンブ運転員として見習および研修中。  
母校中学校で軟庭の指導(ボランティア)。

## ハードな日々...

橋本 卓也 (51)

毎日ハードな日々を送っています。私の勤務する麴町は、ベル全店の中でも最高の売上げなのですが、それにもかかわらず人手が足りないのが大変です。それより、何よりも経大の就職部に伝えておきたいことは後輩には絶対にこの会社を勧めないで欲しい、ということ。というのは、ひとつきに休日が6日(祝日)があるとなかろうと)です。しかも6日とれない月もあります。さらに、ひどいことには、基本給があつて無いのと同じことです。病気が、その他で会社を休んだ場合、それだけ基本給から引かれることになっています。つまり、日給月給制なのです。こんなひどい会社はそうないと思います。おそらく私も他にもっと条件の良いところがあれば転職するつもりです。もっと書きたいのですが、少ないためこのへんで失礼します。

経大の繁栄を祈ります。



# 60年度版 同窓会名簿

## 限定出版申込受付

5年振りに新名簿を発行いたします。申込みによる限定出版になっておりますので、お早くお申込み下さい。

### 収録概要

- ◆第1回卒業生より第51回卒業生(昭和60年3月卒業)
- ◆創設時より昭和60年3月までの大学院の卒業生
- 価格 一冊 6,000円(送料込)

- ◆郵便振込
- ◆銀行振込
- ◆予約金支払方法
- ◆一冊 6,000円(送料込)

いづれの場合も同封払込用紙をご利用下さい。  
⑧郵便局または、三和銀行本店をご利用になれば払込手数料はかかりません。  
ただし、三和銀行本店以外



の銀行をご利用の場合は、払込手数料がいらしますので、ご解答下さい。

- ◆現金書留 大阪府東淀川区 大隅2・2・8 千533
- ◆大阪経済大学同窓会 名簿係宛

- ◆昭和61年3月末発行予定
- ◆昭和61年5月ごろ問合せ先
- ◆大阪経済大学同窓会事務局

06・328・2431代

## いまあの人はよみがえる青春

同窓会名簿は、あなたのプレイバック・ノートです。ページを繰るたびに、なつかしい青春の日々がよみがえります。あれから1年、5年、10年、20年...。カレとは久しく会っていないけれど、名簿をひろげれば、ますます活躍している様子が目に浮かぶ.....。

たとえば、辞書や時刻表にドラマがいつばい詰まっていると評した人がいますが、同窓会名簿もまさに、それと同じです。

60年度版同窓会名簿は、入念な調査にもとづいて作成いたしました。ぜひ1冊、あなたの書斎にいかがでしょうか。何ものにも替え難い、あなたの愛蔵書になることでしょう。

## 異動のあつたときは

- ◆住所変更 ◆呼称変更 ◆勤務先変更 ◆所属部課 ◆役職異動 ◆電話番号変更
- ◆諸変更がありました時は、同封してあります「名簿作成調査票」をご利用のうえ、本部へお届けください。
- とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申し上げます。

## コンピューターシステムの名簿をご利用ください。

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

- 1、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
  - 2、ゼミ別会員名簿作成
  - 3、卒業回数別会員名簿作成
  - 4、クラブ別会員名簿作成
  - 5、業種別会員名簿作成
  - 6、封筒用漢字ラベル作成
- などのアウトプットが可能です。会員の皆さん、大いにご利用ください。



## ◆60年度の購読料のお願い

「自らの購読料で『澱江』を育てよう。1,000円にご協力をお願いします。」

を合言葉に、59年度からスタートしました澱江購読料につきまして、お陰さまで深いご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

59年度の澱江購読料は、1092名の方から、121万6,000円頂戴いたしました。ありがとうございます。

このご声援に見合うような澱江をと、編集氏一同、一ふんばり、二ふんばり頑張つて参ります。

60年度の購読料につきましては、9月10日現在で、すでに42名、7万4000円集まっております。引き続きよろしくご協力のほどお願いいたします。何卒よろしくご声援ください。

(広報部)

## ◆『募金活動NEWS』の発行

創立50周年記念事業募金活動が行われている期間中、募金の申込み、入金状況、協力者ご芳名など、寄稿文もまじえた『募金活動NEWS』

WS』を発行することになりました。

そこで、記事の重複をさけるため、澱江誌にとお寄せくださいました玉稿は、この『NEWS』の方に掲載させていただきます。

第2号以降は、不定期発行ですが、年1回の澱江以外に、『NEWS』により、募金の中間報告とご芳名をお知らせする予定でございます。

何分ともよろしくご後援のほどお願いいたします。

記念事業募金事務局  
広報担当(大学広報部)



## 学 歌

作詞 秋本吉郎  
作曲 柴田南雄

1. 大淀の  
水は春ゆく ゆたかな春だ  
芽立つ葦原 緑が沁みる  
この若き  
希望は明るい 蒼穹かけて  
永遠の青春 みなぎる学園  
大阪 大阪経済大学

2. 大樟の  
蔭は裕々 夏風そよぐ  
学徒師弟が 幹負いもちて  
諸汗に  
確かと植えた 融和の象徴  
繁れ自由の 花さく学園  
大阪 大阪経済大学



## 学 園 歌

作詞 黒正 巖  
作曲 水野康孝

1. 商都の東北澱江に  
我等が昭和学園は  
担うて進む若人の  
2. 黒煙天をひた蔽い  
静かに臨む学園は  
生命を注ぐ若人の

臨みて高く聳り立つ  
産業日本を双肩に  
力の糧の広野原  
船車どよもす八衝を  
科学日本の究明に  
心の花の咲く園生

## 逍 遥 歌

作詞 中村行男  
作曲 松川圭一

1. 此処 城北に迎えたる  
紺碧淀の春の夢  
惜春の賦のただよはば  
薫風静かに流れ来て  
逝きし苦節の十余年  
歴史は吾等に教うなり

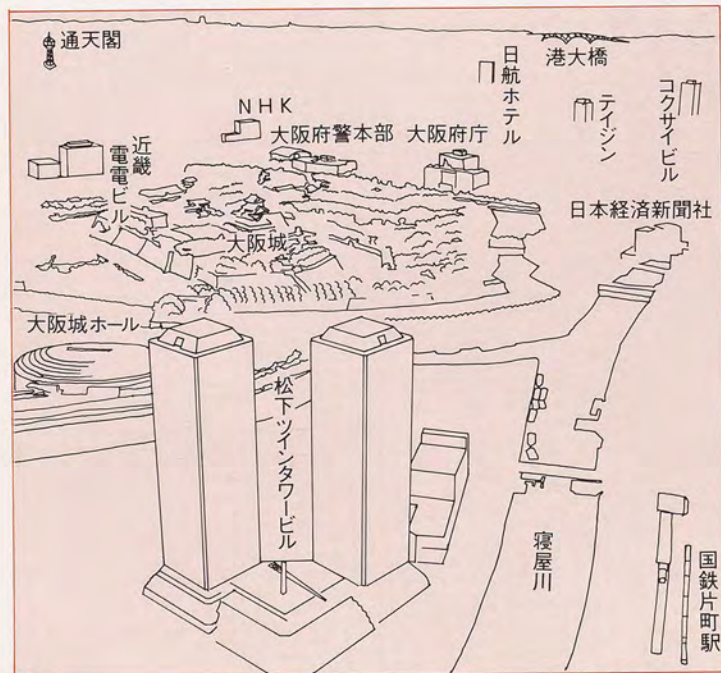
2. 水や濁れる人の世に  
真理求めて遊ぶ子の  
友愛久遠に変わるまじ  
汝が悲しみに我は泣き  
吾が喜びに君や舞う  
惜みて励め我が青春を

## ●表紙写真：大阪の表情

京橋の上空から大阪城をのぞんだ大阪都心部の風景です。  
(昭和60年8月30日撮影)

## ●表紙題字：澱江

今回、表紙の題字が新しくなりました。前回同様、名誉会長の渡辺達好氏の筆によるものです。



## 昭和60年度 同窓会へのご案内

- と き● 11月3日(日祝日) (午前10時30分～受付)
- と ころ● 大阪梅田新阪急ビル12F  
レストランパレス ラ・クール
- 参加費● 5,000円

## 編集後記

▼痛ましい日航機墜落の大惨事、真夏日の連続、タイガース・ワイバーンと、今年の夏は忘れられそうにない。

▼募金で母校愛を示そう。の合言葉、新支部誕生、例年以上に活発な支部総会、クラブOB会も続々と開催、それぞれの場所へ東奔西走の会長たちのご努力、この熱意を是非実らせたい。

▼ハンドメイドの「旅、そして味覚」の刊行。名刺広告とカン違いされて店数は計画より縮小。されど、ひろげる同窓の輪、パイプ役に、旅の友としてご愛用の程を。▼60年度同窓会名簿の予約申し込み開始、お忘れなく。▼60年度澱江購読料、昨年同様よろしく願います。▼あまたの玉稿感謝。止むなく割愛した方には心から深謝します。

## でんこう 澱江 1985

- 発行日 昭和60年10月31日
- 編 集 広報部
- 発行所 大阪経済大学同窓会  
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8  
電話(06)328-2431
- 印 刷 凸版印刷株式会社  
〒553 大阪市福島区海老江3-22-61  
電話(06)454-3256





經  
市